飯田市議会要覧

令和６年６月

飯田市議会事務局

飯田市市民憲章

　わたくしたちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化につつまれた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

　わたくしたちは、このまちの市民としての誇りをもち、明るく健康で豊かな市民生活を築くために、全市民のねがいをこめてこの憲章をかかげ、たがいにはげましあい、手をとりあって進みます。

　わたくしたちは

1　自然を大切にし、美しい環境の飯田市をつくります。
2　心身をきたえ、健康で明るい飯田市をつくります。
3　伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります。
4　善意を広め、思いやりの心で幸せな飯田市をつくります。
5　楽しく働き、豊かな産業の飯田市をつくります。

（昭和52年７月５日　施行）

市　章　　～市章の象形～
平仮名「い」を組み合わせ
「田」を形どり「いいだ」
を象形する。

目次

Ⅰ　沿革

1　沿革　…… 1
2　人口と世帯の推移　…… 4
3　飯田市自治基本条例　…… 5

Ⅱ　市議会の構成

1　構成　…… 12
2　議員名簿　…… 14
3　正副議長及び各委員会委員名簿　…… 15
4　監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿　…… 15
5　議会選出の各種委員等　…… 16
6　各会派及び各会派の代表者氏名　…… 18

Ⅲ　市議会の活動

1　市議会の活動状況
(1)　市議会招集回数10か年比較表　…… 19
(2)　議会開会状況　…… 19
(3)　議会審議状況　…… 20
2　報酬・その他　…… 21
3　定期刊行物　…… 22
4　市議会会議録　…… 22
5　議会事務局の事務分掌　…… 23

Ⅳ　飯田市の概要

1　令和６年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要　…… 24
2　飯田市行政組織機構図　…… 32
3　職員の定数　…… 34

【 資料編 】

Ⅴ　市議会のあゆみ
1　市議会議員選挙執行状況 ･･ 35
2　歴代市議会議員
（1） 歴代議長 ･･･ 36
（2） 歴代副議長 ･･･ 37
（3） 歴代総務常任委員会正副委員長 ･･････････････････････････････････ 38
（4） 歴代社会文教常任委員会正副委員長 ･･････････････････････････････ 39
（5） 歴代産業建設常任委員会正副委員長 ･･････････････････････････････ 40
（6） 歴代予算決算常任委員会正副委員長 ･･････････････････････････････ 41
（7） 歴代建設環境常任委員会正副委員長 ･･････････････････････････････ 41
（8） 歴代議会運営委員会正副委員長 ･･････････････････････････････････ 42
（9） 歴代監査委員（議会選出） ･･････････････････････････････････････ 43
（10） 歴代事務局長 ･･･ 44
（11） 歴代市議会議員 ･･･ 45
3　1年間の記録
（1） 付議事件及び議決結果一覧表 ････････････････････････････････････ 52
（2） 議会において執行した選挙・選任等 ･･････････････････････････････ 60
（3） 委員会活動開催状況 ･･･ 60
（4） 請願陳情 ･･･ 61
（5） 定例会の質問事項 ･･･ 62
（6） 本会議等傍聴状況 ･･･ 85
4　市議会のあゆみ（昭和46年から）･･････････････････････････････････････ 86

Ⅵ　参考資料
1　都市宣言 ･･･ 105
2　市政提携に関する覚書 ･･･ 109
3　友好都市締結 ･･･ 109
4　飯田市の主要年表 ･･･ 110

Ⅰ　沿　革

１－１　飯田市の沿革

飯田市は、長野県の最南端に位置する伊那谷の中心都市である。諏訪湖に源を発し、伊那谷を南下して太平洋に注ぐ天竜川の全長のほぼ中央に位置し、東に南アルプス国立公園、西に中央アルプス県立公園をひかえ、豊かな自然、優れた景観及び四季に富んだ暮らしやすい温暖な気候に恵まれている。天竜川沿いに形成された日本有数の段丘に位置する市街地から南アルプスの山懐に抱かれる遠山郷までにわたる658.66平方キロメートルの市域に96,557人（令和５年４月１日現在）の人口を擁し、地域に根ざした特色ある住民活動や産業活動等が幅広く展開されている。

現在の飯田市街は飯田城の城下町であり、街並みの様相から「小京都」と呼ばれてきたが、昭和22年４月に市街地の３分の２を焼失する大火に見舞われた。以後面目を改め、防火モデル都市、さらに近年は環境モデル都市として注目されている。

近世の太宰春台、近代の菱田春草、田中芳男、河竹繁俊、日夏耿之介等学芸の士の生誕地であり、りんご並木のまち、人形劇のまちとして親しまれ、名勝天龍峡があり、豪快な天竜川下りが楽しめるほか、遠山郷の霜月まつり、各地に伝わる獅子舞など、伝統文化が豊富な地である。

昭和12年４月１日に飯田町と上飯田町が合併して市制を施行、以来、15町村と合併し、今日の飯田市の市域を成している。

「伊那谷の夜明け」とまで言われ、多くの市民が期待していた中央自動車道西宮線は、昭和50年８月23日に中津川―駒ヶ根間が開通し、昭和57年11月10日に全線開通となり、飯田地方と中京圏、首都圏との経済、文化の交流が飛躍的に拡大した。

また、東海地域と飯田を結ぶ三遠南信自動車道においては、平成６年３月29日に矢筈トンネルが、平成20年４月13日には飯田山本ＩＣ―天龍峡ＩＣ間が、平成30年３月11日には飯喬道路龍江―飯田上久堅・喬木富田ＩＣ間が、令和元年11月17日には天龍峡ＩＣ―龍江ＩＣ間が開通し、その後も全線開通を目指しての建設が進行している。

天龍峡ＩＣ―龍江ＩＣ間には、文化財保護法により国の重要文化財に指定される「名勝天龍峡」があり、この名勝の歴史ある良好な景観との調和を図るため、峡谷のV字地形に収まり、背後のスカイラインを阻害しない「鋼上路式アーチ橋」の天龍峡大橋を整備した。名勝地を横断する自動車専用道の架橋事業は前代未聞のプロジェクトであった。

令和３年３月28日には、リニア中央新幹線開業時の広域観光支援を目的に、中央自動車道からのアクセスとして座光寺スマートインターチェンジが開通した。

2027年開業予定のリニア中央新幹線については、平成25年９月にルート及び長野県駅が飯田市上郷飯沼に設置される計画が公表され、令和４年８月には中央アルプストンネル松川工区本線トンネルの掘削工事が開始となった。長野県の南の玄関口、また、三遠南信地域の北の玄関口にふさわしいリニア駅とその周辺整備に向けた準備が進められている。

激的に近くなる首都圏と中京圏との連結地域として、ますます本市の果たす役割が期待される。

１－２　市議会の沿革

飯田市議会は、昭和31年に１市７か村を廃し、その区域をもって市制を施行したことに伴い、旧市村の議員が引き続き市議会議員（総員149人）として在任、同年10月８日に臨時会が開かれ、初代議長に代田源六郎氏、初代副議長に伊藤清氏が選出された。

市議会議員の定数は、昭和32年３月12日の定例会において「飯田市議会議員の選挙区及び各選挙区における議員の数に関する条例」（小選挙区制）を可決。以後、議員定数の見直しと合併による増員などの変遷を経てきた。

平成19年５月、新しい時代にふさわしい地方議会の在り方を模索する中で、市民にとってわかりやすく開かれた議会を目指し「議会改革検討委員会」を設置した。委員会では、「議員の在り方の変革を目指して」ほか５項目を議論する中、平成21年４月19日執行の議員選挙から定数を29人から23人に削減し、常任委員会の所属についても複数所属とし、一人の議員が二つの常任委員会に所属することとした。平成25年４月21日執行の議員選挙後は委員会活動をさらに充実させるため、議員は一つの常任委員会に所属することとした。

飯田市議会の取り組みとして最も注目されるのは、「飯田市自治基本条例」の制定である（平成19年４月施行）。その端緒は、平成15年５月の政策立案型議会への転換を目指した議会議案検討委員会の設置にある。翌16年５月には市民を委員として「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が発足。同会議は条例の制定に向けた研究を行い、その成果を最終答申書にまとめ、議長に提出した。これを受け市議会では翌17年５月に自治基本条例特別委員会を設置し、二度にわたる地区懇談会及び議会によるパブリックコメントの実施を経た後、平成18年９月に条例案を議会議案として提案し、全会一致で可決した。

この条例の制定を契機に、平成20年度から「議会による行政評価」がスタートするとともに、開かれた議会を実現するため「議会報告会」を毎年開催している。平成23年１月には、条例中の「議会の役割」について議会による検証が始まり、平成24年３月には、「議会改革・運営ビジョン」として取りまとめ、常設の機関として「議会改革推進会議」を設置するに至った。議会改革推進会議では、課題を整理し、平成25年３月に「議会改革・運営ビジョン実現に向けた取組み（まとめ）」として集約している。

その後、平成25年４月には議会報告会を含む広報広聴活動を充実させるため、「広報広聴委員会」を設置した。

平成30年12月、議会による予算決算審査のあり方についての研究を目的とした予算決算審査検討プロジェクトが発足した。以降、約半年間にわたるプロジェクト会議等を経て、令和元年５月の臨時会において、常任委員会として「予算決算委員会」を設置するとともに、「議会による行政評価」を予算決算委員会の所管とした。飯田市総合計画の「いいだ未来デザイン2028」に掲げられた前年度の戦略計画を中心に基本目標ごとの評価及び検証を行い、令和元年９月に市長へ提言書を提出した。

令和２年度においては、基本目標及び戦略計画を評価対象とした政策的評価と、決算審査を政策へつなげる事務事業評価の２層式による議会行政評価の取り組みを行い、「いいだ未来デザイン2028」の中期計画の策定に向けて提言書を市長に提出した。

令和３年２月の第１回定例会から「議会機能の強化」を目的に、議会ＩＣＴ化を推進するため、タブレット端末を活用した議案審議を開始した。

令和４年２月の第１回定例会では、市議会委員会等の会議におけるオンライン会議の実施への対応として、災害や感染症まん延防止の点から、委員会などの会議においてオンライン会議を実施するため、飯田市議会委員会条例や会議規則などの改正を行った。このことで、非常事態においても議会の機能が維持できる体制を整えることができた。

令和４年３月には、「地方議会成熟度評価モデル」の導入に向けて、大正大学の江藤俊昭教授を招き「キックオフ講演会」を開催。議会改革・運営ビジョンの策定から10年が経ち、社会環境が変化するなかで、これまでの制度・運用を再確認するとともに、議会の理想的な姿を明確にして議会改革を進める「地方議会成熟度評価モデル」に全議員で取り組み、飯田市議会に期待される役割（ミッション）や飯田市議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）などを明確にした「飯田市議会プロフィール」を作成した。

現在、議会が目指す理想的な姿を実現するため「新・議会改革運営ビジョン」の2024年の公表を目指し、ロードマップの作成に取り組んでいる。

また、10月には、地方自治法で常任委員会による主体的な活動として位置づけられている所管事務調査について、常任委員会が専門性と特性を生かし、その機能を十分発揮できるように「常任委員会における所管事務調査ガイドライン」を策定した。

人形劇フェスタのイメージキャラクター「ぽぉ」です。太り気味の妖精でリンゴ並木に住んでいるそうです。

２ 人口と世帯の推移

（単位：世帯・人・k㎡）

年 月	世帯数	人口	男	女	面積
昭和31. 9	14,627	69,235			199.78
昭和36. 3	16,018	69,538			206.07
昭和39. 3	19,179	79,541			293.03
昭和54. 4	20,870	77,860	36,794	41,066	〃
昭和59. 4	21,872	78,665	37,331	41,334	〃
昭和60. 4	26,458	92,132	43,776	48,356	299.23
昭和63. 4	26,709	92,050	43,810	48,240	〃
平成 1. 4	26,824	91,846	43,778	48,068	〃
平成 2. 4	27,033	91,806	43,721	48,085	298.90
平成 3. 4	27,277	91,723	43,739	47,984	〃
平成 4. 4	27,467	91,612	43,695	47,917	〃
平成 5. 4	27,732	91,684	43,819	47,865	〃
平成 6. 4	32,507	106,104	50,754	55,350	325.35
平成 7. 4	32,829	106,233	50,841	55,392	〃
平成 8. 4	33,183	106,472	50,991	55,481	〃
平成 9. 4	33,577	106,495	50,971	55,524	〃
平成10. 4	33,975	106,695	51,142	55,553	〃
平成11. 4	34,233	106,464	51,093	55,371	〃
平成12. 4	34,519	106,479	51,135	55,344	〃
平成13. 4	34,870	106,456	51,093	55,363	〃
平成14. 4	35,056	106,161	50,947	55,214	〃
平成15. 4	35,382	106,078	50,893	55,185	〃
平成16. 4	35,656	105,846	50,728	55,118	〃
平成17. 4	35,807	105,411	50,511	54,900	〃
平成18. 4	37,190	107,593	51,640	55,953	658.76
平成19. 4	37,395	106,993	51,253	55,740	〃
平成20. 4	37,787	106,770	51,138	55,632	〃
平成21. 4	37,682	105,867	50,693	55,174	〃
平成22. 4	37,801	105,372	50,407	54,965	658.73
平成23. 4	37,886	104,771	50,146	54,625	〃
平成24. 4	38,087	104,291	49,931	54,360	〃
平成25. 4	39,040	105,750	50,445	55,305	〃
平成26. 4	39,108	104,954	50,076	54,878	〃
平成27. 4	39,358	104,284	49,884	54,400	658.66
平成28. 4	39,656	103,712	49,623	54,089	〃
平成29. 4	39,711	103,023	49,343	53,680	〃
平成30. 4	39,735	102,012	48,859	53,153	〃
平成31. 4	39,896	101,111	48,630	52,481	〃
令和 2. 4	39,962	100,008	48,150	51,858	〃
令和 3. 4	40,064	98,921	47,709	51,212	〃
令和 4. 4	40,076	97,750	47,145	50,605	〃
令和 5. 4	40,151	96,557	46,679	49,878	〃
令和 6. 4	40,257	95,400	46,179	49,221	〃

※平成25.4以後は住民基本台帳法の改正により外国人を含む数字

特記事項

- 昭和31年 9月 ：飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村及び下久堅村の１市７か村を合併
- 昭和36年 3月 ：川路村を編入合併
- 昭和39年 3月 ：上久堅村、千代村及び龍江村を編入合併
- 昭和59年12月 ：鼎町を編入合併
- 平成 5年 7月 ：上郷町を編入合併
- 平成17年10月 ：上村及び南信濃村を編入合併
- 平成22年 2月 ：天龍村との境界を修正
- 平成26年10月 ：国土地理院が、計測方法を変更したことによる面積の修正

飯田市自治基本条例

平成18年9月21日条例第40号
一部改正：平成23年11月30日条例第25号
一部改正：平成25年3月25日条例第2号
一部改正：令和２年12月25日条例第39号

目次

前文
第１章　総則（第１条―第３条）
第２章　自治の基本原則（第４条―第７条）
第３章　市民等の役割（第８条―第 10 条）
第４章　地域自治（第 11 条―第 15 条）
第５章　市政運営（第 16 条―第 21 条）
第６章　市議会の役割（第 22 条―第 27 条）
第７章　市の執行機関の役割（第 28 条―第 34 条）
第８章　住民投票（第 35 条）
第９章　条例の見直し（第 36 条）

附則

わたくしたちの住む飯田市は、美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、これまで互いに助け合い協力し、特色のある地域活動やまちづくりを実践してきました。

わたくしたちは、分権型社会や少子高齢社会の到来により、社会構造が大きく変化する中で、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神を、次の時代へ確実に引き継がなくてはなりません。

わたくしたちは、飯田市市民憲章にうたわれた市民としての心構えと理念を尊重し、協働して、市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、ここに、新たな自治の仕組みを定める飯田市自治基本条例を制定します。

第１章　総則

（目的）

第１条　この条例は、本市の自治の基本的な原則及びまちづくりに関する市民、市議会及び市の執行機関の役割を明らかにするとともに、市政運営についての基本的な指針を定めることにより、市民が主体のまちづくりを協働して推進することを目的とします。

（条例の位置付け）

第２条　この条例は、自治及び市政に関する基本的な原則を定めた最高規範であり、市民及び市は、この条例を誠実に遵守するものとします。

２　市は、条例、規則等を解釈し、又は制定、改廃する場合には、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

３　市は、基本構想等の計画の策定、政策の立案及び実施に当たっては、この条例の趣旨を尊

重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

（用語の定義）

第３条　この条例において使用する用語の意義は、次のとおりとします。

(1)　市民　市内に住所を有する人（以下「住民」といいます。）、市内で働き、若しくは学ぶ人又は市内において活動する人若しくは団体をいいます。

(2)　市民組織　市民により自主的に形成され、まちづくりのために、互いに協力し多様な活動を行う組織をいいます。

(3)　事業者　市内で、事業を営む個人及び法人その他の団体をいいます。

(4)　市　市議会及び市の執行機関で構成する地方公共団体をいいます。

(5)　市の執行機関　市長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいいます。

(6)　まちづくり　「ムトス」の言葉に象徴される、まちを活気のある明るく住みよくするための事業や活動を総称します。

(7)　自治　市民が市政に参加し、その意思と責任に基づき市政が行われることのほか、地域の公共的活動を自ら担い、主体的にまちづくりを推進することをいいます。

(8)　協働　まちづくりのために、市民と市とが情報を共有し、それぞれの役割を担いながら対等の立場で協力し、共に考え行動することをいいます。

(9)　基本構想　本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本となる考え方をいいます。

第２章　自治の基本原則

（自治の基本原則）

第４条　市民と市とは、この章に掲げる自治の原則に基づき、協働して自治を推進するものとします。

（市民主体の原則）

第５条　まちづくりは、市民一人ひとりが主体となり、市民相互及び市と協調することにより推進します。

２　市民は、地域社会の一員として尊重され、その個性や能力を十分発揮することができます。

（情報共有の原則）

第６条　まちづくりは、市政についての情報が市民に公開され、市民が市政について意見を提出し、その情報や意見を市民と市とが共有することにより推進します。

（参加協働の原則）

第７条　まちづくりは、市民に市政への多様な参加の場と機会とが保障され、市民と市とが適切に役割分担し、協働することにより推進します。

第３章　市民等の役割

（市民の権利）

第８条　市民は、まちづくりの主体として、まちづくりに参加する権利を有します。

２　市民は、市政に関する計画や政策の立案段階から参加する権利を有し、意見を述べること

ができます。

３　市民は、市政についての情報を知る権利を有し、市に対し市が保有する情報の公開を求めることができます。

（市民の役割）

第９条　市民は、まちづくりの主体として、市と協働し、地域社会の発展に寄与するよう努めます。

２　市民は、互いの活動を尊重し、自らの発言と行動に責任を持つものとします。

（事業者の役割）

第10条　事業者は、地域社会の一員として、地域社会との調和を図るとともに、従業員の行う地域活動にも配意し、まちづくりに寄与するものとします。

第４章　地域自治

（市民組織の尊重）

第11条　市は、市民組織の自主性及び自立性を尊重し、市民組織が活動するために必要な支援を行います。

２　市民は、市民組織がまちづくり推進の主要な担い手であることを認識し、市民組織を尊重し、守り育てるものとします。

（地域自治の推進）

第12条　市は、地域の特性と自主性が生かされた、個性豊かで魅力ある地域のまちづくりを推進するため、自治の基本原則に基づき、分権によるまちづくりの仕組みを目指します。

（地域自治区）

第13条　市は、市民に身近な事務事業を市民の意見を反映させて処理するとともに、地域の自治を促進するため、法律に基づく地域自治区を設けます。

２　地域自治区に置かれる地域協議会は、地域の住民により構成され、地域の意見を調整し、協働によるまちづくりを推進します。

（まちづくりのための委員会等）

第14条　市は、市民組織が地域のまちづくりに取り組むため組織する委員会等の自主的及び自立的な運営を尊重します。

（自治活動組織）

第15条　市民は、地域社会の一員として、自治活動組織（地域市民により形成され、まちづくりに取り組む市民組織をいいます。）の役割について理解を深め、協力するとともに、自治活動組織への加入に努めます。

２　市民は、可能な範囲内で、自治活動組織の活動に参加し、地域社会において個性や意欲を発揮することができるものとします。

３　自治活動組織は、地域市民の加入や参加が促進されるために必要な環境づくりに努めます。

第５章　市政運営

（協働して行う市政運営）
第 16 条　市は、市政に関する計画や政策の立案段階から市民の参加を促進し、市民と協働して市政運営を行います。
２　市は、市民の多様な参加の機会を整備し、協働のまちづくりを推進し、自治の拡充を図ります。

（市民意見の公募）
第 17 条　市は、別に定めるところにより、重要な計画及び政策の策定又は変更について事前に案を公表し、市民の意見を求めます。
２　市は、市民から提出された意見を尊重し、意見についての考え方を公表します。

（附属機関の委員の任命）
第 18 条　市の執行機関は、特定事項について審議又は調査等を行う附属機関に、市民の多様な意見が反映されるように委員を任命します。

（情報の公開）
第 19 条　市は、公正で開かれた市政の実現を図るため、市政についての情報の公開に関する総合的な施策に基づき、積極的に情報を公開します。
２　市は、市民の必要とする情報について、適切かつ速やかな提供に努めます。

（個人情報の保護）
第 20 条　市は、市民の個人情報に関する権利を保障するとともに、個人情報を適正に管理します。

（基本構想等）
第 21 条　市は、まちづくりの理念に基づき、市議会の議決を経て基本構想を定め、総合的かつ計画的な市政運営に努めます。
２　市は、基本構想、基本計画その他市の施策の基本となる計画を策定するに当たっては、市民参加の機会を保障します。

第６章　市議会の役割

（市議会の責務）
第 22 条　市議会は、市民の代表機関として、市という団体の意思決定機関であり、法律若しくはこれに基づく政令又は条例の定めるところにより議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるよう活動します。
２　市議会は、市の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努めます。
３　市議会は、政策の立案、提言の内容の充実を図るための調査研究活動に努めます。
４　市議会は、合議体として論点、課題等について議論を深めるため、議員相互間の自由な討議を重んじて活動します。

（開かれた議会運営）

第 23 条　市議会は、市議会が保有する情報を公開するとともに、会議及び委員会等を公開し、並びに議会活動について市民に説明することにより、市民との情報の共有に努めます。
２　市議会は、市民の意見を聞くため議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営に努めます。
３　市議会は、市民への議会活動の報告、市民との意見交換の場の開催等を通じ、前２項に規定する事項の実現に努めます。

（市議会議長の責務）
第 24 条　市議会議長は、市議会を代表し、公正中立に職務を遂行するとともに、円滑かつ効率的な議会運営を図るよう努めます。
２　市議会議長は、市議会に関する事務を統一的に処理するため、議会事務局の職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

（市議会議員の責務）
第 25 条　市議会議員は、市民の意向把握や情報収集に努め、市民全体の利益を優先して政策提言を行います。
２　市議会議員は、政治倫理の確立に努め、公正かつ誠実に責務を遂行し、市民の負託にこたえます。
３　市議会議員は、市議会の役割及び責務を自覚し、その誠実な遂行のため自己研鑽に努めます。

（政策の調査、審議のための機関）
第 26 条　市議会は、政策の調査、立案のために必要な専門的事項に係る調査、審議を、学識経験を有する者等に求めることができます。
２　市議会は、前項の学識経験を有する者等の指定に当たっては、市民の多様な意見が反映されるようにします。

（市議会事務局職員の責務）
第 27 条　市議会事務局職員は、市議会の持つ権能が十分発揮されるよう、全力をあげて市議会の活動を補佐します。
２　市議会事務局職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第７章　市の執行機関の役割

（市長の責務）
第 28 条　市長は、市の代表者として公正かつ誠実に市政を運営します。
２　市長は、自治の基本原則に基づき、市の計画及び政策の策定、実施、評価等を行います。

（市の執行機関の責務）
第 29 条　市の執行機関は、条例、予算その他の議会の議決に基づく事務及び法令、規則その他の規程に基づく事務を適正に管理、執行します。

（市の執行機関の組織運営）
第 30 条　市の執行機関は、行政組織について効率的かつ機能的なものとするとともに、相互の連携を図り、最小の経費で最大の行政効果を上げるよう運営します。
２　市の執行機関は、職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

（説明責任）
第 31 条　市の執行機関は、行政運営の透明性を高めるため、市政について、市民に分かりやすく説明する責任を果たします。
２　市長その他の執行機関は、市議会に対して、市政に関する意思決定の過程及び行政運営の状況を随時報告するものとします。

（行政評価）
第 32 条　市の執行機関は、市の施策や事務事業の執行状況を、基本構想等に基づき検証し、継続的な見直しを行い、効果的に執行します。
２　市の執行機関は、施策や事務事業の達成状況を公表し、市民から理解を得られる行政運営を進めます。

（財政状況の公表）
第 33 条　市長は、市の財源の確保とその効率的かつ効果的な運用により、財政の健全性に努めます。
２　市長は、財政状況を市民にわかりやすく公表するように努めます。

（市の執行機関の職員の責務）
第 34 条　市の執行機関の職員は、全体の奉仕者として、公平、公正かつ誠実に、全力をあげて職務を遂行します。
２　市の執行機関の職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第８章　住民投票

（住民投票）
第 35 条　市は、市政の特に重要な事項について、直接住民の意思を確認する必要があるときは、市議会の議決を経て住民投票を実施することができます。
２　市は、住民投票の結果を尊重します。
３　住民投票の実施に関し必要な事項は、その都度条例で定めます。

第９章　条例の見直し

（条例の見直し）
第 36 条　市は、社会の変化に対応して、本条例が第１条の目的を達成するために必要があるときは、条例の見直しを行います。

附　則
この条例は、平成 19 年４月１日から施行します。

附　則（平成 23 年 11 月 30 日条例第 25 号）
この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成 25 年３月 25 日条例第２号）

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（令和２年12月25日条例第39号）

この条例は、公布の日から施行する。

Ⅱ　市議会の構成　（令和６年５月31日現在）

１　構成

- 議長・副議長 ―― 事務局（定数９人、実数８人（うち市長部局との兼務職員１人、会計年度任用職員１人））
- 常任委員会
  - 総　　務（定数８人）
  - 社会文教（定数７人）
  - 産業建設（定数７人）
  - 予算決算（定数22人）
- 議会運営委員会　（定数８人）
- リニア推進特別委員会　（定数８人）
- 広報広聴委員会　（10人以内）
- 議会改革推進会議　（８人以内）

⑴　常任委員会

ア　所管事項

㈠ 総務委員会：総務部、企画部、市民協働環境部、危機管理部、会計管理者、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員及び固定資産評価審査委員会の所管に属する事項並びに他の委員会の所管に属さない事項

(ｲ) 社会文教委員会：健康福祉部及び教育委員会の所管に属する事項並びに病院事業に関する事項

(ｳ) 産業建設委員会：リニア推進部、産業経済部、建設部、上下水道局、水道局及び農業委員会の所管に属する事項

(ｴ) 予算決算委員会：予算、決算及び行政評価に関する事項

イ　任期　２年

⑵　議会運営委員会

ア　所管事項

(ｱ) 議会の運営に関する事項

(ｲ) 議会の会議規則、委員会条例等に関する事項

(ｳ) 議長の諮問に関する事項

イ　任期　２年

⑶　リニア推進特別委員会

ア　所管事項

リニア中央新幹線の推進に関する諸課題の研究調査に関する事項

イ　任期　２年

⑷　広報広聴委員会（協議又は調整を行うための場）

ア　所管事項

(ｱ) 議会広報紙の編集及び発行に関する事項

(ｲ) 議会ホームページの管理運営に関する事項

(ｳ) インターネットを利用した会議公開に関する事項

(ｴ) 会議傍聴の推進に関する事項
(ｵ) 市民への講座等の開催に関する事項
(ｶ) 議会報告会の企画運営及び市民意見の取扱いに関する事項
(ｷ) その他議会の広報に関する事項
イ　任期　２年

(5) 議会改革推進会議（協議又は調整を行うための場）
ア　所管事項
(ｱ)飯田市議会の改革に関する調査研究
(ｲ)議会改革・運営ビジョン（平成22年３月22日決定）の実践状況の検証
(ｳ)議長又は議会運営委員会から諮問された事項に関する調査審議
(ｴ)その他推進会議の設置の目的のために必要な事項
イ　任期　２年

(6) 議員
ア　任期　令和３年４月28日から令和７年(2025年)４月27日まで
イ　条例定数　23人
ウ　現員数　22人
(ｱ) 党派別
公明党　３人　　日本共産党　２人　　無所属　17人
(ｲ) 会派別
新政いいだ　８人　　会派きぼう　５人　　会派みらい　４人　　公明党　３人
日本共産党　２人

２ 議員名簿

番号	氏　　名	会　派	期数	郵便番号	住　　所	自宅電話等
1	小平　　彰	新政いいだ	1	395-0803	鼎下山1063番地５	0265-22-1256
2	下平　恒男	新政いいだ	1	399-2561	駄科1300番地３	0265-26-8045
3	橋爪　重人	新政いいだ	1	399-2607	下久堅南原84番地	0265-29-7173
4	西森　六三	会派きぼう	1	399-1311	南信濃和田1349番地	0260-34-2043
5	宮脇　邦彦	公明党	1	395-0152	育良町3丁目11番地2	0265-53-4465
6	関島　百合	会派みらい	1	395-0813	毛賀578番地	0265-23-7479
7	市瀬　芳明	日本共産党	1	399-2565	桐林2075番地３	0265-26-6324
8	筒井　誠逸	新政いいだ	1	395-0001	座光寺3507番地	0265-22-1430
9	清水　優一郎	新政いいだ	2	399-2223	千栄531番地	0265-27-4858
10	岡田　倫英	会派きぼう	2	395-0023	江戸浜町3661番地12	0265-48-6074
11	福澤　克憲	会派きぼう	2	395-0025	東中央通5丁目20番地4	0265-53-1285
12	竹村　圭史	会派きぼう	3	395-0244	山本1407番地	0265-25-2247
13	小林　真一	公明党	2	399-2601	虎岩2207番地1	0265-29-8167
14	佐々木　博子	会派みらい	1	395-0806	鼎上山3705番地２	0265-52-2260
15	古川　　仁	日本共産党	3	395-0803	鼎下山677番地5	0265-53-3792
16	木下　徳康	新政いいだ	3	395-0813	毛賀366番地	0265-24-4932
17	山﨑　昌伸	新政いいだ	3	395-0817	鼎東鼎292番地7	0265-23-0204
18	熊谷　泰人	新政いいだ	3	395-0075	白山通り3丁目391番地1	0265-53-4150
20	清水　　勇	会派きぼう	5	399-2221	龍江2453番地1	0265-27-2569
21	永井　一英	公明党	5	395-0077	丸山町2丁目6725番地14	0265-23-4021
22	井坪　　隆	会派みらい	7	395-0004	上郷黒田1826番地	0265-23-6421
23	原　　和世	会派みらい	7	395-0244	山本4703番地1	0265-25-1216

年齢別議員数　（令和６年５月31日現在）

年齢	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
人員	0	0	3	7	7	5	22

当選回数別議員数　（令和６年５月31日現在）

当選回数	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	計
人員	9	4	5	0	2	0	2	22

3　正副議長及び各委員会委員名簿

（1）議長及び副議長　　　　　　　　　　　　　　　　　（令和５年５月９日改選）

議　　長	熊谷　泰人	副　議　長	竹村　圭史

（2）委員会　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（令和５年５月10日改選）

◎印……委員長　　○印……副委員長

委員会名	委員			
総務委員会（７人）	◎清水優一郎	○小林　真一	橋爪　重人	岡田　倫英
	竹村　圭史	木下　徳康	原　　和世	
社会文教委員会（７人）	◎永井　一英	○清水　　勇	小平　　彰	下平　恒男
	市瀬　芳明	佐々木博子	井坪　　隆	
産業建設委員会（７人）	◎福澤　克憲	○古川　　仁	西森　六三	宮脇　邦彦
	関島　百合	筒井　誠逸	山崎　昌伸	
予算決算委員会（21人）	◎竹村　圭史	○永井　一英	ほか議長を除く全議員	
議会運営委員会（８人）	◎井坪　　隆	○山崎　昌伸	関島　百合	福澤　克憲
	小林　真一	木下　徳康	清水　　勇	永井　一英
リニア推進特別委員会（８人）	◎清水　　勇	○木下　徳康	橋爪　重人	宮脇　邦彦
	筒井　誠逸	岡田　倫英	福澤　克憲	井坪　　隆
広報広聴委員会（８人）	◎岡田　倫英	○山崎　昌伸	小平　　彰	橋爪　重人
	西森　六三	宮脇　邦彦	関島　百合	市瀬　芳明
議会改革推進会議（８人）	◎古川　　仁	○井坪　　隆	下平　恒男	筒井　誠逸
	清水優一郎	福澤　克憲	小林　真一	佐々木博子

4　監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿

（1）監査委員　（選任に同意）　　　　　　　　（令和３年５月19日選任）

推薦基準	氏名
議員から１人を推薦 市長が議会の同意を得る。	原　　和世

(2) 南信州広域連合議会議員　(令和５年５月10日選任)

推薦基準	任期	氏名
議員から12人 正副議長（２） ３常任委員長（３） 会派按分（７）	４年（議員の任期） （２年で改選）	熊谷　泰人　竹村　圭史 清水優一郎　永井　一英 福澤　克憲　岡田　倫英 小林　真一　古川　　仁 木下　德康　山崎　昌伸 清水　　勇　井坪　　隆

３常任･･･総務、社会文教、産業建設

5　議会選出の各種委員等

(1) 附属機関等の委員名簿　(令和５年５月10日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
民生委員推薦会 （２人）	社文正副委員長	在職期間	永井　一英　清水　　勇
都市計画審議会 （５人）	総務１・社文１ 産建２・ リニア１	在職期間	清水優一郎　永井　一英 福澤　克憲　古川　　仁 清水　　勇
国民保護協議会 （３人）	３常任委員長	在職期間	清水優一郎　永井　一英 福澤　克憲

３常任･･･総務、社会文教、産業建設

(2) その他の団体の役員　(令和５年５月10日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
天竜川上流治水促進期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】熊谷　泰人
一般国道151号（飯田～豊橋）改良促進期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】熊谷　泰人
一般国道153号改良期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】熊谷　泰人
国道153号飯田南バイパス整備促進期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】熊谷　泰人
長野県南部国道連絡会	議　長	在職期間	【会　員】熊谷　泰人
ＪＲ飯田線活性化期成同盟会	議　長 (南信州広域連合議長)	在職期間	【副会長】熊谷　泰人
リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会 （７人）	正副議長 監査委員 ３常任・リニア 推進特別委員長	在職期間	【副会長】熊谷　泰人 【監　事】原　　和世 【理　事】竹村　圭史 清水優一郎　永井　一英 福澤　克憲　清水　　勇
国道152号整備促進期成同盟会（２人）	議　長 産建委員長	在職期間	【理　事】熊谷　泰人 福澤　克憲

国道256号改良促進 期成同盟会　（３人）	正副議長 産建委員長	在職期間	【理　事】熊谷　泰人　竹村　圭史 福澤　克憲
国道418号整備促進 期成同盟会（４人）	正副議長 産建正副委員長	在職期間	【監　事】熊谷　泰人 【理　事】竹村　圭史 福澤　克憲　古川　　仁
三遠南信自動車道飯喬道路３工区建設促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	在職期間 在任期間	【顧　問】熊谷　泰人　竹村　圭史 福澤　克憲　古川　　仁 【地　区】橋爪　重人　小林　真一 清水　　勇
三遠南信道路建設促進 南信地域期成同盟会 （３人）	正副議長 監査委員	在職期間	【副会長】熊谷　泰人 【理　事】竹村　圭史 【監　事】原　　和世
主要地方道飯島飯田線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 座光寺・上郷・橋北・橋南・羽場・丸山・東野・鼎・伊賀良	在職期間 在任期間	【監　事】熊谷　泰人 【理　事】竹村　圭史 福澤　克憲　古川　　仁 【地　区】小平　　彰　宮脇　邦彦 筒井　誠逸　岡田　倫英 佐々木博子　山崎　昌伸 永井　一英　井坪　　隆
主要地方道飯田南木曽線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・丸山・東野	在職期間 在任期間	【理　事】熊谷　泰人 【監　事】竹村　圭史 【理　事】福澤　克憲　古川　　仁 【地　区】岡田　倫英　永井　一英
飯田市遠山郷国道整備促進期成同盟会	地区出身議員 上村・南信濃	在任期間	【顧　問】西森　六三
県道親田中村線・県道田中乱線改良促進期成同盟会 （令和5年8月4日設立）	地区出身議員 川路・山本・三穂・伊賀良	在任期間	【顧　問】竹村　圭史　原　　和世 福澤　克憲　宮脇　邦彦
広域幹線林道千遠線 開設期成同盟会（２人）	議　長 産建委員長	在職期間	【委　員】熊谷　泰人 福澤　克憲
南信州東部軸道路整備 促進期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】熊谷　泰人
松尾浄化管理センター 連絡協議会	正副議長 産建委員長 地区出身議員 松尾	在職期間	【委　員】熊谷　泰人　竹村　圭史 福澤　克憲 【地　区】関島　百合　木下　德康

３常任･･･総務、社会文教、産業建設

(3) 議員による任意の団体

名　　称	基準	任期	氏　　　名
森林･林業･林産業活性化促進議員連盟（林業活性化推進飯田市議員連盟）	各会派１ ※5名以上の会派は2	２年	【会　長】木下　德康 【副会長】西森　六三 【幹　事】下平　恒男　宮脇　邦彦 関島　百合　古川　　仁 原　　和世 【会　員】全市議会議員
飯伊地区森林・林業・林産業活性化促進議員連盟	※R3年から上記会長が監事となる 全市議会議員	２年	【監　事】木下　德康 【会　員】全市議会議員
スポーツ振興議員連盟	各会派１ ※5名以上の会派は2	２年	【会　　長】岡田　倫英 【副 会 長】小平　　彰 【幹 事 長】橋爪　重人 【事務局長】市瀬　芳明 【幹　　事】宮脇　邦彦　佐々木博子 【会計監査】原　　和世 【会　　員】全市議会議員
三遠南信、浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進議員協議会	賛同議員	在任期間	【会　員】全市議会議員

6　各会派及び各会派の代表者氏名

会 派 名	代表者名	議員数	会 派 名	代表者名	議員数
新 政 い い だ	山崎　昌伸	8	会 派 き ぼ う	清水　　勇	5
会 派 み ら い	井坪　　隆	4	公　　明　　党	永井　一英	3
日 本 共 産 党	古川　　仁	2			

Ⅲ　市議会の活動

１　市議会の活動状況

(1) 市議会招集回数10か年比較表

区分＼年次		平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
招集回数	定例会	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	臨時会	1	1	0	1	0	1	2	4	2	1
会期日数		93	102	98	100	99	97	108	106	102	111
本会議日数		18	18	17	19	17	19	18	23	19	19
議案件数		226	208	172	173	194	198	176	173	153	164

(2) 議会開会状況（令和５年１月から令和５年12月まで）

	会　議	会　期	会期日数	本会議日数
1	第１回定例会	令和５年 2月22日 ～ 3月20日	27	4
2	第１回臨時会	令和５年 5月 9日 ～ 5月10日	2	2
3	第２回定例会	令和５年 5月30日 ～ 6月26日	28	4
4	第３回定例会	令和５年 8月30日 ～ 9月25日	27	4
5	第４回定例会	令和５年11月24日 ～ 12月20日	27	5
計			111	19

(3) 議会審議状況（令和５年１月から令和５年12月まで）

区分	会別	第１回定例会	第２回臨時会	第２回定例会	第３回定例会	第４回定例会	計
市　長提出議案	予算・決算	19	1	5	16	12	53
	条　例	18	0	7	3	9	37
	その他	10	8	5	7	18	48
	計(A)	47	9	17	26	39	138
議員又は委員会提出議案	条　例	0	0	0	0	0	0
	その他	3	0	2	1	0	6
	計(B)	3	0	2	1	0	6
報　告	専決処分	2	1	12	2	3	20
	その他	0	0	0	0	0	0
	計(C)	2	1	12	2	3	20
審議件数(A+B+C)		52	10	31	29	42	164
議決状況	原案可決（同意・認定・承認を含む）	50	9	19	27	39	144
	報告（議決を要しないもの）	2	1	12	2	3	20
	修正可決						0
	否　決						0
	継続審査						0
	審議未了						0

２　報酬その他

(1) 報酬

（令和６年４月１日時点）

役　職	報酬月額	役　職	給料月額
議　長	499,000円	市　長	925,000円
副議長	436,000円	副市長	760,000円
議　員	407,000円	教育長	669,000円
改定日	平成11年４月１日	改定日	平成27年12月24日

報酬額の改定推移　（単位：千円）

種別＼改定年月日	S61 4.1	S62 4.1	S63 4.1	H 1 4.1	H 3 4.1	H 4 4.1	H 5 4.1	H 7 10.1	H 9 7.1	H11 4.1
議　長	331	339	352	369	413	437	469	485	494	499
副議長	278	285	296	310	352	372	410	424	432	436
議　員	259	266	277	290	325	343	383	396	403	407

(2) 期末手当

６月期支給額　報酬×1.45×170.0／100

12月期支給額　報酬×1.45×170.0／100

(3) 費用弁償

(6)の表の規定に基づき往復の交通費のみ支給する。

(4) 研修旅費

議員１人当たり年額	
常任委員会	実　費
議会運営委員会	実　費

(5) 政務活動費

議員１人当り年額140,000円

(6) 飯田市議員等の旅費額　（平成４年４月１日改正）

旅費の区分／職務の区分	車賃		日当	宿泊料		食卓料（１夜につき）
	交通機関のある場合	交通機関のない場合（１ｷﾛﾒｰﾄﾙにつき）		県内	県外	
議員、教育委員、選挙管理委員、公平委員、監査委員、農業委員、選挙長、固定資産評価審査委員及び固定資産評価員	実費	円 37	円 2,600	円 11,800	円 13,100	円 2,600

３　定期刊行物

(1) 飯田市議会だより

ア　創刊　昭和46年４月１日

イ　発行回数　年４回（４月、７月、10月及び１月（定例会終了の翌月）。

ウ　発行部数　各31,000部

エ　印刷　オフセット印刷（Ａ４版　１回平均12ページ）160号から表紙、裏表紙のみカラー刷り

(2) 飯田市議会要覧

ア　発行回数　年１回（例年６月発行）

イ　発行部数　50部

４　市議会会議録

(1) 各定例会及び臨時会の会議録

ア　発行回数　年４回（次回定例会の招集日までに発行）

イ　発行部数　38部

ウ　印刷　オフセット印刷（Ａ４版）

(2) 全員協議会、常任委員会及び特別委員会の会議録

発行部数　　１部

(3) 会議録検索システム

ア　平成４年第２回定例会以降の本会議、全員協議会、各委員会のデータが検索可能

イ　平成15年11月から、インターネットによる会議録検索に対応

５　議会事務局の事務分掌

(1) 庶務係
ア　公印の管理に関すること。
イ　文書の収受、発送及び保存に関すること。
ウ　予算及びその経理に関すること。
エ　議員の身分、人事、福利厚生、共済等に関すること。
オ　議員の報酬、費用弁償等に関すること。
カ　議長会等に関すること。
キ　儀式及び交際に関すること。
ク　議会関係各室の管理に関すること。
ケ　職員の人事、服務、給与等に関すること。
コ　議決証明等に関すること。
サ　物品の出納保管に関すること。
シ　議会乗用車の管理に関すること。
ス　他の係の所管に属さない事項に関すること。

(2) 議事係
ア　本会議に関すること。
イ　常任委員会、特別委員会、協議会等に関すること。
ウ　議会において行う選挙等に関すること。
エ　公聴会、参考人等に関すること。
オ　議案その他付議事件に関すること。
カ　議員の出欠席に関すること。
キ　議事日程及び諸報告に関すること。
ク　請願及び陳情に関すること。
ケ　会議録その他の会議記録の調製及び保管に関すること。
コ　議会の傍聴に関すること。
サ　その他議事に関すること。

(3) 調査係
ア　議会、委員会等から命じられた事項の調査に関すること。
イ　市政の調査及び研究に関すること。
ウ　各種資料の収集、整理及び発行に関すること。
エ　議員の研修に関すること。
オ　条例、規則等の制定及び改廃に関すること。
カ　法令等の調査研究に関すること。
キ　議会広報に関すること。
ク　照会事項の回答に関すること。
ケ　議会図書室に関すること。
コ　視察に関すること。

Ⅳ　飯田市の概要

１　令和６年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要

令和６(2024)年度　飯田市各会計予算の総額

会計名		予算額		比較	
		6年度(A)	5年度(B)	(A)-(B)(C)	(C)/(B)
一般会計		53,670,000	49,060,000	4,610,000	9.4
国民健康保険特別会計	事業勘定	8,413,800	8,697,200	△ 283,400	△ 3.3
	直診勘定	5,200	4,700	500	10.6
後期高齢者医療特別会計		1,754,400	1,548,000	206,400	13.3
介護保険特別会計		11,910,800	12,416,900	△ 506,100	△ 4.1
地方卸売市場事業特別会計		18,800	18,800	0	0.0
駐車場事業特別会計		51,900	48,000	3,900	8.1
墓地事業特別会計		17,300	13,800	3,500	25.4
介護老人保健施設事業特別会計		810,300	760,300	50,000	6.6
ケーブルテレビ放送事業特別会計		145,500	142,000	3,500	2.5
病院事業会計		16,859,800	16,663,000	196,800	1.2
水道事業会計		4,393,600	4,167,200	226,400	5.4
下水道事業会計		6,135,400	6,363,700	△ 228,300	△ 3.6
特別会計の計		50,516,800	50,843,600	△ 326,800	△ 0.6
計		104,186,800	99,903,600	4,283,200	4.3

（単位：千円、%）

主　　な　　内　　容	
	一般
保険給付費 6,011,749　事業費納付金 2,149,287　総務費 126,966　保健事業費 83,085	国保
三穂診療所、上村歯科診療所	
後期高齢者医療広域連合納付金 1,723,266	後高
保険給付費 11,053,769　地域支援事業費 348,925	介護
卸売市場費 17,688	市場
市営駐車場運営管理 51,349	駐車
霊園運営管理 15,970	墓地
施設管理費 733,925　施設事業費 75,844	老施
竜東維持管理費 55,758　遠山郷維持管理費 86,934	ケテ
収益的収入 14,363,800　収益的支出 14,852,400 資本的収入　1,169,100　資本的支出　2,007,400	病院
収益的収入 2,381,800　収益的支出 2,063,900 資本的収入 1,301,400　資本的支出 2,329,700	水道
収益的収入 3,573,300　収益的支出 3,298,300 資本的収入 1,353,000　資本的支出 2,837,100	下水
	特会
	計

令和６(2024)年度　一般会計　歳入　（主な内容と増減内訳）

区分	予算額 6年度(A)	予算額 5年度(B)	(A)の構成比	増減 (A)-(B) (C)	増減 (C)/(B)
1 市税	12,965,000	13,315,000	24.2	△ 350,000	△ 2.6
2 地方譲与税	532,000	497,000	1.0	35,000	7.0
3 利子割交付金	4,000	3,000	0.0	1,000	33.3
4 配当割交付金	59,000	71,000	0.1	△ 12,000	△ 16.9
5 株式等譲渡所得割交付金	52,000	37,000	0.1	15,000	40.5
6 法人事業税交付金	260,000	276,000	0.5	△ 16,000	△ 5.8
7 地方消費税交付金	2,780,000	2,903,000	5.2	△ 123,000	△ 4.2
8 自動車税環境性能割交付金	41,000	42,000	0.1	△ 1,000	△ 2.4
9 地方特例交付金	520,000	122,000	1.0	398,000	326.2
10 地方交付税	11,900,000	11,860,000	22.2	40,000	0.3
11 交通安全対策特別交付金	11,000	11,000	0.0	0	0.0
12 分担金及び負担金	258,002	262,038	0.5	△ 4,036	△ 1.5
13 使用料及び手数料	546,514	559,111	1.0	△ 12,597	△ 2.3
14 国庫支出金	8,306,303	7,024,399	15.4	1,281,904	18.2
15 県支出金	3,278,848	3,175,628	6.1	103,220	3.3
16 財産収入	267,588	273,593	0.5	△ 6,005	△ 2.2
17 寄附金	468,730	460,200	0.9	8,530	1.9
18 繰入金	3,016,278	1,353,831	5.6	1,662,447	122.8
19 繰越金	500,000	500,000	0.9	0	0.0
20 諸収入	2,200,637	2,374,500	4.1	△ 173,863	△ 7.3
21 市債	5,703,100	3,939,700	10.6	1,763,400	44.8
合計	53,670,000	49,060,000	100.0	4,610,000	9.4

単位:千円、%

主　な　内　容	増減(A)-(B)の主な内容	
固定資産税 5,582,000　市民税 5,541,000（個人 4,710,000　法人 831,000） 市たばこ税 686,000　都市計画税 673,000 軽自動車税 442,000　入湯税 3,000	軽自動車税 18,000　市たばこ税 9,000 都市計画税 △7,000　固定資産税 △40,000 市税は現年課税分で比較 個人 △336,000　法人 8,000	市税
自動車重量 342,000　地方揮発油 109,000　森林環境 81,000	森林環境 20,000　自動車重量 15,000	地譲
	利子割交付金 1,000	利子
	配当割交付金 △12,000	配当
	株式等譲渡所得割交付金 15,000	株式
	法人事業税交付金 △16,000	法事
消費税率10%に引上げによる増収分1,516,364千円は全額を社会保障施策に充当 （充当内訳:社会福祉 1,050,653　社会保険 376,033　保健衛生 89,678）	地方消費税交付金 △123,000	消費
	環境性能割交付金 △1,000	環性
地方特例交付金 481,000 新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金 39,000	地方特例交付金 395,000 感染症対策地方税減収補填特別交付金 3,000	地特
普通交付税 10,900,000　特別交付税 1,000,000	普通交付税 40,000	地交
		交通
民生費負担金 161,678（老人福祉 93,439　保育料等 51,861） 総務費負担金　50,142（戸籍システム共同利用 17,511） 土木費負担金　40,018（道路改良事業負担金 39,793）	航空写真撮影及び地図データ作成業務合同実施負担金 27,691 公立認定こども園保護者負担金（現年度分）△10,641 民間保育所保護者負担金（現年度分）△26,600	分負
ごみ処理手数料 155,769　住宅使用料 132,663 休日夜間急患診療所使用料 42,503　道路河川占用料 37,500 斎苑使用料 19,753　戸籍手数料 19,632　地域振興住宅使用料 17,306 文化会館使用料 17,200　住民票手数料 12,645　公園使用料 9,500 建築確認手数料 9,180　印鑑等諸証明手数料 8,721	美術博物館観覧料 2,593 ごみ処理手数料 △2,042 地区公民館使用料 △2,842 休日夜間急患診療所使用料 △3,576 住宅使用料（現年度分）△5,523	使手
【負担金】 民生費　4,524,636（民間保育所 1,335,029　障がい児・者 1,276,427 児童手当 1,136,144　生活保護 561,870） 衛生費　66,808（保険基盤安定 65,876） 災害復旧費　433,550（公共土木施設災害） 【補助金】 総務費　752,567（リニア 616,612　物価高騰地方創生臨時交付金 115,000 社会保険・税番号制度 15,726） 民生費　597,797（保育施設整備 241,282　重層的支援 165,107） 衛生費　534,349（地域脱炭素化 462,734　出産・子育て応援 38,169 へき地診療所 17,009　母子保健 3,932） 土木費　939,201（道路 614,600　橋りょう 168,465） 教育費　381,963（小・中学校 327,221　文化財保護 54,742） 災害復旧費　37,500（災害関連）	学校施設環境改善交付金 300,062 就学前教育・保育施設整備交付金 241,282 公共土木施設災害復旧事業負担金 180,132 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金 139,056 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 115,000 児童手当負担金 98,558 社会資本整備総合交付金（道路事業）94,600 民間保育所負担金 66,248 社会資本整備総合交付金（都市構造再編集中支援事業）△118,338	国費
【負担金】 民生費　1,864,442（民間保育所 728,758　障がい児・者 621,554 児童手当 252,937　後期高齢者医療 232,832） 衛生費　211,288（保険基盤安定） 【補助金】 民生費　548,324（医療費給付 256,355　地域子育て支援 83,418　民間保育所 83,052 重層的支援 81,197　障がい者 20,463） 衛生費　30,619（出産・子育て 19,084　合併処理浄化槽 5,313） 農林費　338,628（林業振興 139,005　農業振興 99,900　農政対策 55,477 農地 28,000　農業委員会 8,821　国土調査 7,425） 【委託金】 総務費　185,115（県民税 165,030　統計調査 15,973）	乳幼児医療費給付事業補助金 45,683 民間保育所負担金 28,996 児童手当負担金 26,266 林道開設事業補助金 25,967 1歳児保育推進事業補助金（県単）24,600 後期高齢者医療保険基盤安定事業負担金 24,586 国内肥料資源利用拡大対策事業補助金 20,000 民有林林道改良事業補助金 13,352 県議会議員選挙委託金 △24,429 新規就農者経営発展支援事業補助金 △26,250 地域医療介護総合確保基金補助金 △27,700 認定こども園施設整備事業補助金 △30,692	県費
不動産売払収入 22,960　基金運用収入 24,993　財産貸付収入 12,303	土地売払収入（リニア用地）△6,281	財産
ふるさと寄附金 450,000　工業振興寄附金 13,700　奨学資金 3,000	ふるさと寄附金 8,500　美術博物館寄附金 30	寄附
財調 430,000　減債 700,000　公共施設等整備 554,202 リニア 729,737　ふるさと 282,076　地域振興 142,558 森林経営管理 71,567　介護保険特別会計 46,055　教育支援 17,800	リニア 564,233　公共施設等整備 554,202 ふるさと 226,085　減債 150,000　財調 130,000 地域振興 19,273　地域雇用 10,392	繰入
		繰越
貸付金元利収入 1,532,230（商工制度資金 1,400,000　生活資金 110,000） 受託事業収入 150,081（分収造林 40,000　埋蔵文化財調査 38,500） 雑入 515,276	他会計等負担金（退職手当引当金）△18,613 分収造林受託事業収入 △36,706 中央新幹線用地取得事務受託事業収入 △81,732	諸収
過疎対策事業債 884,000 観光 680,700　保健衛生 119,400　林道 55,700　教育 11,900 その他 4,819,100 土木 1,661,300　教育 1,302,700　総務 643,300　災害復旧 234,800 民生 464,000　農林 150,900　消防 150,700　衛生 104,700　商工 26,700 臨時財政対策債 80,000	過疎対策 680,300　緊急自然災害防止 398,300 公共施設等適正管理 361,800 公共事業等 268,500　義務教育施設 219,700 一般単独 189,400　一般補助施設整備等 134,000 脱炭素化推進 80,900　臨時財政対策 △130,000 緊急防災・減災 △425,100	市債

令和６(2024)年度　一般会計　目的別歳出　（主な内容と増減内訳）

区　分	予算額		(A)の構成比	増減	
	６年度 (A)	５年度 (B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 議会費	271,458	273,327	0.5	△ 1,869	△ 0.7
2 総務費	7,081,425	5,914,749	13.2	1,166,676	19.7
3 民生費	17,071,506	16,292,374	31.8	779,132	4.8
4 衛生費	5,580,506	5,464,975	10.4	115,531	2.1
5 労働費	198,349	197,120	0.4	1,229	0.6
6 農林水産業費	1,400,753	1,426,424	2.6	△ 25,671	△ 1.8
7 商工費	3,147,249	2,616,268	5.9	530,981	20.3
8 土木費	5,705,703	5,176,048	10.6	529,655	10.2
9 消防費	1,398,033	1,385,144	2.6	12,889	0.9
10 教育費	6,118,856	4,785,543	11.4	1,333,313	27.9
11 災害復旧費	735,000	434,932	1.3	300,068	69.0
12 公債費	4,891,262	5,017,492	9.1	△ 126,230	△ 2.5
13 諸支出金	29,900	35,604	0.1	△ 5,704	△ 16.0
14 予備費	40,000	40,000	0.1	0	0.0
合計	53,670,000	49,060,000	100.0	4,610,000	9.4

単位:千円、%

主　　な　　内　　容	増 減 の 主 な 内 容	
議会費 271,458	議会一般経費 3,485 事務局職員人件費 1,340	議会
人件費 2,184,287 リニア駅周辺整備事業 1,849,492 会計年度任用職員人件費 307,414 総務一般管理費 229,529 ふるさと飯田応援隊募集事業 218,642 市民バス等運行業務 200,452 リニア代替地整備事業 182,362 リニア推進事業 139,188 住民情報システム管理費 137,094 課税事務委託費 116,197 ケーブルテレビ放送事業特別会計繰出金 114,413 自治振興センター管理費 114,223 地域自治支援事業 110,138 南信州広域連合負担金(一般会計) 100,267 情報管理費 78,800 庁内事務システム管理費 69,039 戸籍住民基本台帳事務費 55,764	リニア駅周辺整備事業 476,519 人件費 337,314 リニア推進事業 99,198 庁内事務システム管理費 53,772 課税事務委託費 49,415 ケーブルテレビ放送事業特別会計繰出金 48,770 戸籍住民基本台帳事務費 40,634 市長選挙費 36,244 総務一般管理費 34,385 地域振興住宅整備事業 29,215 住民情報システム管理費 △43,937	総務
民間保育所等運営費 2,844,741 介護保険特別会計繰出金 1,684,942 児童手当費 1,646,715 後期高齢者医療関係一般経費 1,257,000 総合支援介護給付事業 1,139,455 会計年度任用職員人件費 890,581 総合支援訓練等給付事業 847,042 生活保護措置費 749,161 認定こども園人件費 583,568 民間保育所等施設整備事業 538,079 人件費 479,556 障害児通所支援費 428,763 児童扶養手当費 380,622 後期高齢者医療特別会計繰出金 338,576 養護老人ホーム措置事業 320,154 子ども医療費給付事業 276,494	民間保育所等施設整備事業 291,056 民間保育所等運営費 165,977 児童手当費 154,104 老人福祉一般経費 127,911 社会福祉施設等原油価格等物価高騰対策支援事業 67,810 会計年度任用職員人件費 49,258 児童館・児童センター・児童クラブ運営費 49,128 社会福祉施設等感染予防対策支援事業 △72,100 介護保険特別会計繰出金 △90,917	民生
病院事業会計負担金 1,290,746 国民健康保険特別会計繰出金 546,876 南信州広域連合負担金(焼却場) 492,585 脱炭素先行地域づくり事業 372,449 人件費 336,104 水道費 322,799 予防接種事業 319,322 ごみ収集処理費 311,117 保健施設人件費 204,273 ごみ減量対策費 147,174 南信濃診療所設置事業 119,450	病院事業会計負担金 153,022 南信濃診療所設置事業 119,450 脱炭素先行地域づくり事業 97,117 保健施設管理費 54,892 国民健康保険特別会計繰出金 △43,271 出産子育て応援事業 △99,213 水道費 △103,597	衛生
勤労者協調融資事業 110,000 勤労者福祉センター管理費 23,823 人件費 22,902 雇用対策事業 16,304	雇用対策事業 12,942 勤労者協調融資事業 △10,000	労働
人件費 263,790 林道改良事業(補助) 121,921 林道開設事業 94,743 農業施設維持補修事業 85,532 果樹・野菜等振興事業 54,558 国土保全特別対策事業 51,395 森林造成事業 47,430 農業施設長寿命化事業 44,737 分収造林事業 40,000 農業基盤整備資金償還補助事業 38,764 農作物鳥獣被害対策事業 34,695 新規就農者支援事業 34,455 中山間地域等直接支払事業 34,403	林道開設事業 63,507 林道改良事業(補助) 27,212 人と環境にやさしい農業推進事業 26,907 森林造成事業 15,290 農業施設長寿命化事業 △34,463 分収造林事業 △36,706 排水路防災対策整備事業 △90,000	農林
中小企業金融対策事業 1,502,600 道の駅遠山郷施設整備事業 616,250 人件費 227,254 工業振興一般経費 99,824 企業立地促進事業補助金 82,301 上村観光施設管理費 80,511 地域産業等振興事業 65,577 観光施設管理費 37,707 地域通貨研究事業 36,688 商工会議所活動運営補助事業 28,740 観光振興事業 28,235 天龍峡活性化事業 25,942	道の駅遠山郷施設整備事業 616,250 地域通貨研究事業 36,688 企業立地促進事業補助金 29,701 南信濃観光施設管理費 △ 25,631 産業用地整備事業 △57,030 道の駅遠山郷施設管理費 △ 78,771	商工
下水道費 1,433,800 人件費 428,017 交通安全対策補助事業(通学路緊急対策) 345,000 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) 341,000 河川自然災害防止事業 324,730 道路メンテナンス事業 309,959 道路補修事業 244,073 道整備交付金事業 230,000 公営住宅整備事業(補助) 209,746 道路舗装補修事業 203,355	河川自然災害防止事業 279,730 都市構造再編集中支援事業(市街地整備) 140,900 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) 139,000 防災・安全交付金事業(道路整備) 94,512 情報通信技術利活用事業 65,300 交通安全対策補助事業(通学路緊急対策) 65,000 橋りょう耐震整備事業 △250,000	土木
南信州広域連合負担金(消防) 878,457 消防団運営事業 172,206 消防体制強化整備事業(単独) 91,230 防災対策推進事業 62,981 消防団詰所整備事業 40,295 水道事業会計負担金 40,000 災害対策一般経費 29,415	防災対策推進事業 44,455 消防体制強化整備事業(単独) 23,014 災害対策一般経費 11,538 南信州広域連合負担金(消防) △67,096	消防
人件費 959,428 会計年度任用職員人件費 737,831 小学校施設長寿命化改修事業 567,020 体育施設改修費 239,629 学校管理一般経費(小・中) 236,944 情報通信技術活用教育推進事業(小・中) 228,924 学校施設大規模改修事業(小・中) 224,935 公民館管理・運営費 202,736 調理業務委託費 199,019 恒川遺跡群保存活用事業(補助) 192,365 美術博物館管理費 189,041	小学校施設長寿命化改修事業 567,020 恒川遺跡群保存活用事業(補助) 184,285 調理場整備事業 114,936 教員指導力向上事業 67,633 学校施設大規模改修事業(小・中) 65,338 会計年度任用職員人件費 60,148 学校施設省エネルギー化改修事業(小・中) 55,335 図書館管理・運営費 50,208 美術博物館管理費 33,229	教育
土木施設補助災害復旧事業 650,000 土木施設災害関連事業 75,000	土木施設補助災害復旧事業 224,568 土木施設災害関連事業 75,000	災害
元金 4,727,855 利子 163,407	利子 32,999 元金 △159,229	公債
中山間地域振興基金積立金 14,885 公共施設等整備基金積立金 7,426	新規積立金 △5,797 基金利子積立金 93	諸支
		予備

令和６(2024)年度　一般会計　性質別歳出　（主な増減内訳）

	６年度予算額		５年度予算額		増減	
	(A)	構成比	(B)	構成比	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 人件費	8,093,171	15.1	7,532,453	15.4	560,718	7.4
2 扶助費	9,318,259	17.3	9,006,455	18.3	311,804	3.5
3 公債費	4,891,262	9.1	5,017,492	10.2	△ 126,230	△ 2.5
小計	22,302,692	41.5	21,556,400	43.9	746,292	3.5
4 物件費	6,180,546	11.5	5,803,925	11.8	376,621	6.5
5 維持補修費	745,126	1.4	728,972	1.5	16,154	2.2
6 補助費等	7,972,571	14.8	7,380,781	15.0	591,790	8.0
7 積立金	33,595	0.1	39,258	0.1	△ 5,663	△ 14.4
8 投資・出資金	341,668	0.6	623,452	1.3	△ 281,784	△ 45.2
9 貸付金	1,540,530	2.9	1,545,373	3.1	△ 4,843	△ 0.3
10 繰出金	4,108,283	7.7	4,151,407	8.5	△ 43,124	△ 1.0
11 投資的経費	10,404,989	19.4	7,190,432	14.7	3,214,557	44.7
補助	5,795,313	10.8	3,573,960	7.3	2,221,353	62.2
単独	4,609,676	8.6	3,616,472	7.4	993,204	27.5
普通建設費	9,744,989	18.2	6,745,738	13.8	2,999,251	44.5
補助	5,145,313	9.6	3,138,766	6.4	2,006,547	63.9
単独	4,599,676	8.6	3,606,972	7.4	992,704	27.5
災害復旧費	660,000	1.2	444,694	0.9	215,306	48.4
補助	650,000	1.2	435,194	0.9	214,806	49.4
単独	10,000	0.0	9,500	0.0	500	5.3
12 予備費	40,000	0.1	40,000	0.1	0	0.0
合計	53,670,000	100.0	49,060,000	100.0	4,610,000	9.4

単位：千円、％

増減の主な内容	
退職手当 278,322 会計年度任用職員人件費 149,403 職員給 123,605 市長選挙費 15,250 県議会議員選挙費 △14,311	人件
民間保育所等運営費 157,632 児童手当 151,090 子ども医療費給付事業 21,678 総合支援訓練等給付事業 10,799 障害児通所支援費 8,705 総合支援介護給付事業 △8,355 生活困窮者自立支援事業 △8,790 生活保護措置費 △22,788	扶助
元金 △159,229 利子 32,999	公債
教員指導力向上事業 67,651 庁内事務システム管理費 53,451 課税事務委託費 49,415 戸籍住民基本台帳事務費 40,631 住民基本台帳ネットワーク事業 26,538 防災対策推進事業 21,816 辺地対策道路改良事業 18,000 体育施設改修費 17,672 地域通貨研究事業 16,838 小学校施設大規模改修事業 16,291 公民館管理･運営費 15,483 市長選挙費 14,018 会計管理費 13,244	物件
飯田子どもの森公園維持管理費 15,020 児童発達支援センター管理費 5,864 橋りょう補修事業 5,283 除雪費 4,557 河川維持補修事業 3,415 体育施設改修費 3,393 文化財管理事業 3,046 林道管理事業 2,380 道路舗装補修事業 △6,929 道路メンテナンス事業 △22,000	維持
病院事業会計負担金 327,722 都市構造再編集中支援事業(市街地整備) 120,000 リニア推進事業 115,323 脱炭素先行地域づくり事業 112,033 社会福祉施設等原油価格等物価高騰対策支援事業 67,810 森林造成事業 39,430 出産子育て応援事業 △95,000 下水道費 △101,000	補助
公共施設等整備基金積立金 97 過疎地域自立促進基金積立金 △87 中山間地域振興基金積立金 △5,748	積立
観光振興事業 △7,000 水道費 △100,084 病院事業会計負担金 △174,700	投資
奨学金貸与事業 3,120 福祉医療費貸付金事業 1,237 介護人材確保対策事業 800 勤労者協調融資事業 △10,000	貸付
ケーブルテレビ放送事業特別会計繰出金 48,770 後期高齢者医療特別会計繰出金 34,044 後期高齢者医療関係一般経費 16,000 駐車場事業特別会計繰出金 △7,374 国民健康保険特別会計繰出金 △43,271 介護保険特別会計繰出金 △90,917	繰出
	投資
	補助
	単独
	普建
小学校施設長寿命化改修事業 567,020 リニア駅周辺整備事業 433,570 民間保育所等施設整備事業 300,856 恒川遺跡群保存活用事業(補助) 182,514 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) 139,000 土木施設災害関連事業 75,000 情報通信技術利活用事業(河川観測設備設置) 65,160 交通安全対策補助事業(通学路緊急対策) 65,000 林道開設事業 63,327 道路メンテナンス事業 62,263 中学校施設省エネルギー化改修事業 60,805 林道改良事業(補助) 27,212 中学校校舎外壁改修事業 24,937 道整備交付金事業 △80,000	補助
道の駅遠山郷施設整備事業 605,260 河川自然災害防止事業 266,432 老人福祉一般経費 149,010 調理場整備事業 111,659 南信濃診療所設置事業 109,450 防災･安全交付金事業(道路整備) 94,512 中学校施設大規模改修事業 89,290 保健施設管理費 48,819 図書館管理･運営費 46,482 公営住宅整備事業(単独) 38,301 リニア駅周辺整備事業 31,852 市道改良事業 △53,509 産業用地整備事業 △57,030 体育施設改修費 △73,418 道の駅遠山郷施設管理費 △74,040 排水路防災対策整備事業 △85,000 橋りょう耐震整備事業 △250,000	単独
	災害
土木施設補助災害復旧事業 224,568	補助
林道単独災害復旧事業 500	単独
	予備

２　飯田市行政組織機構図（R6.4.1）

部等　　　課等　（係・*出先機関:正規職員の配置のあるもの*）

○市長事務部局

- 市長
  - 副市長
    - 総務部
      - 総務文書課（総務統計係、文書法規係）
      - 人事課（人事係、職員係）
      - 財政課（財政係、契約係、行革・施設マネジメント係）
      - 税務課（諸税係、市民税係、資産税土地係、資産税家屋係）
      - 納税課（管理係、収納係）
    - 企画部
      - 企画課（企画調整係、広域連携係）
        - 大学誘致連携推進室（大学誘致推進係、大学連携係）
      - デジタル推進課（デジタル推進係、システム管理係）
      - 広報ブランド推進課（広報広聴係、ブランド推進係）
      - 秘書課（秘書係）
    - リニア推進部
      - リニア推進課（事業調整係、公共交通係）
      - リニア整備課（駅周辺整備計画係、駅周辺基盤整備係）
      - リニア用地課（用地第１係、用地第２係、用地調整係）
    - 市民協働環境部
      - 地域自治振興課（自治振興係、*各自治振興センター*）
      - 結いターン移住定住推進課（移住定住推進係、遠山郷・中山間地域振興係、空き家対策係）
      - 共生・協働推進課（多様性社会推進係、ムトス推進係）
      - 市民課（市民窓口係、住民記録係、消費生活係、*消費生活センター*）
      - 環境課（環境保全係、環境衛生係、廃棄物対策係、処分場施設係）
      - ゼロカーボンシティ推進課（気候変動対策係、地域エネルギー政策係）
    - 福祉部
      - 福祉課（地域福祉係、障がい福祉係、生活福祉係、重層的支援係）
      - 長寿支援課（長寿支援係、基幹包括支援センター係、介護保険係、介護認定支援係）
    - こども未来健康部
      - こども課（子育て支援係、発達支援係、こども相談係、*こども発達センターひまわり*）
      - 保育家庭課（保育係、施設管理係、家庭相談係、*各認定こども園*）
      - 保健課（地域医療支援係、健康推進係、保健指導係、母子保健係、国保係、医療給付係、*診療所*）
    - 産業経済部
      - 産業振興課（総務企画係、産業人材係、金融政策係）
      - 農業課（農村振興係、生産振興係、農業振興センター係）
      - 林務課（森林保全係、林業振興係、里山保全係）
      - 商業観光課（商業流通係、中心市街地活性化係、観光係、エコツーリズム係、天龍峡活性化係）
        - 遠山郷観光振興室（遠山郷観光振興係）
      - 工業課（工業振興係、企業立地係）
    - 建設部
      - 建設総務課（庶務経理係）
      - 地域計画課（土地利用計画係、調査計画係、建築係、建築指導係、住宅係、開発指導係）
      - 土木課（整備第１係、整備第２係、整備第３係、整備第４係）
      - 維持管理課（管理係、維持係、公園緑地係、長寿命化係）
      - 国県関連事業課（業務係、国事業係、県事業係、関連事業係）
    - 危機管理部
      - 危機管理課（危機管理係、防災係、交通安全係、消防団係、暴力追放係）

―上下水道局――経営管理課（庶務係、料金係、上水道経理係、下水道経理係）
―水道課（上水道整備係、維持係、給水係、浄水施設係）
―下水道課（下水道整備係、下水道施設管理係、普及係、排水設備係）
―下水浄化センター（施設管理係、水質管理係）

―市立病院――経営企画部
―医療安全部（医療安全管理室、感染管理室、医療相談係）
―医療情報部（中央病歴管理室、病歴管理係、情報システム係）
―災害対策部
―診療部（各科）
―薬剤部（薬剤科）
―診療技術部（各科）
―看護部（外来、各病棟等）
―地域医療部
　―患者総合支援センター（人間ドック室、居宅介護支援センター、訪問看護ステーション）
　―地域医療連携課（医療福祉係、地域医療連携係）
―救命救急センター
―周産期センター
―臨床研修センター
―がん診療・緩和ケアセンター
―内視鏡センター
―心臓血管センター
―事務局―経営企画課（経営企画係、経理係、用度係）
―庶務課（庶務係、人事係、施設係）
―医事課（医事企画係、外来係、入院係、医療支援係）
―高松診療所
―介護老人保健施設（各係）

―会計管理者――会計課（出納係、審査係）

○市議会、行政委員会

市議会―事務局――（庶務係、議事係、調査係）

教育委員会
教育委員会
―事務局――学校教育課（総務係、学務係、教育支援係、教育企画係、保健給食係、児童クラブ係、*各学校*、*各調理場*）
―生涯学習・スポーツ課（社会教育係、スポーツ振興係、教育施設係）
―文化財保護活用課（文化財活用係、文化財保護係、*考古博物館*）
―歴史研究所（研究部、総務係）
―公民館（管理係、学習支援係、*各地区公民館*）
―文化会館（管理係、事業係、人形劇のまちづくり係）
―新文化会館整備室（新文化会館整備係）
―中央図書館（情報サービス係、地域読書推進係、管理係、*鼎図書館*、*上郷図書館*）
―美術博物館（庶務係、学芸係）

選挙管理委員会――事務局（選挙係、啓発係）

公平委員会――（事務職員）

監査委員――事務局（監査係）

農業委員会――事務局（農地係、振興係）

固定資産評価審査委員会――（書記）

3　職員の定数

（令和６年４月１日現在）

	区　　分	定　数（人）	実　数（人）
1	市長の事務部局の職員	755	712
2	議会の事務部局の職員	9	6
3	教育委員会の事務部局及び教育機関の職員	150	129
4	選挙管理委員会の事務部局の職員	5	2
5	公平委員会の事務部局の職員	2 （市長部局職員兼務2）	0
7	監査委員の事務部局の職員	4	3
8	農業委員会の事務部局の職員	16 （市長部局職員兼務8）	7
9	固定資産評価審査委員会の事務部局の職員	2 （市長部局職員兼務2）	0
10	病院事業の職員	750	737
11	水道事業の職員	32	24
	小　　計	1,725	1,620
	市長部局付派遣職員		
12	(財)南信州・飯田産業センター		3
13	(社福) 飯田市社会福祉協議会		1
14	飯田市土地開発公社		−
15	長野県後期高齢者医療広域連合		1
16	長野県市町村自治振興組合		−
17	飯田市職員労働組合専従		3
	小　　計		8
	派遣職員(自治法派遣)		
18	南信州広域連合　事務局		6
19	〃　飯田広域消防		−
20	〃　飯田環境センター		1
	小　　計		7
	合　　計		1,635

【資　料　編】

V　市議会のあゆみ

1　市議会議員選挙執行状況

昭和32年４月28日	合併による設置選挙
昭和35年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和36年４月23日	任期満了一般選挙
昭和39年５月15日	龍江・千代・上久堅３か村合併による増員選挙
昭和39年８月28日	伊賀良地区補欠選挙
昭和39年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和40年４月25日	任期満了一般選挙
昭和43年10月20日	補欠選挙
昭和44年４月20日	任期満了一般選挙
昭和47年10月22日	補欠選挙
昭和48年４月22日	任期満了一般選挙
昭和51年10月17日	補欠選挙
昭和52年４月17日	任期満了一般選挙
昭和55年10月19日	補欠選挙
昭和56年４月19日	任期満了一般選挙
昭和60年４月21日	任期満了一般選挙
昭和63年10月16日	補欠選挙
平成元年４月23日	任期満了一般選挙
平成４年10月18日	補欠選挙
平成５年４月25日	任期満了一般選挙
平成５年８月１日	上郷町合併による増員選挙
平成８年10月20日	補欠選挙
平成９年４月20日	任期満了一般選挙
平成12年10月15日	補欠選挙
平成13年４月22日	任期満了一般選挙
平成16年10月24日	補欠選挙
平成17年４月24日	任期満了一般選挙
平成17年10月30日	補欠選挙
平成21年４月19日	任期満了一般選挙
平成25年４月21日	任期満了一般選挙
平成29年４月16日	任期満了一般選挙
令和３年４月25日	任期満了一般選挙

2　歴代市議会議員

（1）歴代議長

代	氏　　　名	就任年月日	退任年月日
初　　代	代田源六郎	昭和31．10．８	昭和32．４．27
		昭和32．５．10	昭和36．４．27
		昭和36．５．15	昭和40．４．27
		昭和40．５．６	昭和41．５．13
		昭和41．５．13	昭和42．５．11
２　　代	辻　　虎松	昭和42．５．11	昭和44．４．27
３　　代	近松　宗一	昭和44．５．７	昭和46．５．７
		昭和46．５．７	昭和48．４．27
４　　代	伊原　悦雄	昭和48．５．８	昭和50．５．７
		昭和50．５．７	昭和52．４．27
５　　代	林　　昌平	昭和52．５．６	昭和54．４．13
		昭和54．４．13	昭和56．４．27
		昭和56．５．７	昭和58．４．22
６　　代	松嶋　健次	昭和58．４．22	昭和60．４．27
		昭和60．５．10	昭和62．５．12
７　　代	平澤　與一	昭和62．５．12	平成元．４．27
８　　代	塩澤　　昭	平成元．５．10	平成３．１．31
９　　代	竹村　仁實	平成３．１．31	平成３．５．９
10　　代	實原　　裕	平成３．５．９	平成５．４．27
11　　代	今村　八束	平成５．５．13	平成７．５．12
		平成７．５．12	平成９．４．27
12　　代	小林　利一	平成９．５．13	平成11．５．13
		平成11．５．13	平成13．４．27
13　　代	西尾　喜好	平成13．５．15	平成15．５．14
14　　代	岩崎　和男	平成15．５．14	平成17．４．27
15　　代	熊谷　富夫	平成17．５．13	平成19．５．11
16　　代	上澤　義一	平成19．５．11	平成21．４．27
17　　代	中島武津雄	平成21．５．12	平成23．５．13
18　　代	上澤　義一	平成23．５．13	平成25．４．27
19　　代	林　　幸次	平成25．５．13	平成27．５．12
20　　代	木下　克志	平成27．５．12	平成29．４．27
21　　代	清水　　勇	平成29．５．９	令和元．５．14
22　　代	湯澤　啓次	令和元．５．14	令和３．４．27
23　　代	井坪　　隆	令和３．５．18	令和５．５．９
24　　代	熊谷　泰人	令和５．５．９	

（２）歴代副議長

代	氏　　名	就任年月日	退任年月日
初　代	伊藤　　清	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２　代	片山　　均	昭和32．５．10	昭和36．４．27
		昭和36．５．15	昭和39．８．１
３　代	熊谷　一郎	昭和39．９．15	昭和40．４．27
		昭和40．５．６	昭和41．５．13
４　代	小林　新吾	昭和41．５．13	昭和42．５．11
５　代	市村　保人	昭和42．５．11	昭和44．４．27
６　代	今村　輝男	昭和44．５．７	昭和46．５．７
		昭和46．５．７	昭和48．４．27
７　代	新井　安男	昭和48．５．８	昭和50．５．７
８　代	林　　昌平	昭和50．５．７	昭和52．４．27
９　代	松江　良夫	昭和52．５．６	昭和54．４．13
10　代	片桐　　勲	昭和54．４．13	昭和56．４．27
11　代	松江　良夫	昭和56．５．７	昭和58．４．22
12　代	平澤　與一	昭和58．４．22	昭和60．４．27
		昭和60．５．10	昭和62．５．12
13　代	細田　直彦	昭和62．５．12	昭和63．11．10
14　代	関島　一郎	昭和63．12．２	平成元．４．27
15　代	竹村　仁實	平成元．５．10	平成３．１．31
16　代	松江　良夫	平成３．１．31	平成３．５．９
17　代	内山　照美	平成３．５．９	平成５．４．27
18　代	澤柳辨治郎	平成５．５．13	平成７．５．12
19　代	松島　年一	平成７．５．12	平成８．10．31
20　代	片桐　司郎	平成８．10．31	平成９．４．27
		平成９．５．13	平成11．５．13
21　代	中田　佳甫	平成11．５．13	平成13．４．27
22　代	牧内　信臣	平成13．５．15	平成15．５．14
23　代	渡　　淳	平成15．５．14	平成17．４．27
24　代	林　　幸次	平成17．５．13	平成19．５．11
25　代	矢澤　芳文	平成19．５．11	平成21．４．27
26　代	清水　可晴	平成21．５．12	平成23．５．13
27　代	村松まり子	平成23．５．13	平成25．４．27
28　代	木下　克志	平成25．５．13	平成27．５．12
29　代	木下　容子	平成27．５．12	平成29．４．27
30　代	永井　一英	平成29．５．９	令和元．５．14
31　代	原　　和世	令和元．５．14	令和３．４．27
32　代	山崎　昌伸	令和３．５．18	令和５．５．９
33　代	竹村　圭史	令和５．５．９	

（３）歴代総務常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	総務部委員会	木下　章雄	近松　宗一 前島　秀夫	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２代	〃	島岡　利雄	伊藤　誠一	昭和32．５．10	昭和34．５．17
３代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	〃	熊谷　一郎	伊藤　誠一	昭和36．５．15	昭和38．５．22
５代	〃	〃	〃	昭和38．５．23	昭和40．４．27
６代	〃	近松　宗一	大平　節蔵	昭和40．５．６	昭和41．５．13
７代	〃	関島彦四郎	北原　正司	昭和41．５．14	昭和42．５．11
８代	〃	近松　宗一	前島　秀夫	昭和42．５．12	昭和44．４．27
９代	〃	辻　　虎松	松島　健次	昭和44．５．７	昭和46．５．６
10代	〃	鳴海　　衛	宮嶋　　繁	昭和46．５．７	昭和48．４．27
11代	総務文教委員会	市村　保人	橋部　　肇	昭和48．５．８	昭和50．５．７
12代	〃	茂木立好則	前島　成光	昭和50．５．８	昭和52．４．27
13代	〃	斉藤　為良	細田　直彦	昭和52．５．６	昭和54．５．５
14代	〃	内田　　篤	川手　　守	昭和54．５．６	昭和56．４．27
15代	〃	〃	原　　廣男	昭和56．５．８	昭和58．５．７
16代	〃	片桐七右衛門	前島　成光	昭和58．５．８	昭和60．４．27
17代	〃	細田　直彦	塩澤　文朗	昭和60．５．10	昭和62．５．11
18代	〃	竹村　仁實	熊谷　康登	昭和62．５．12	平成元．４．27
19代	〃	今村　八束	今村　　淳	平成元．５．10	平成３．５．９
20代	〃	久保田　元	吉川　昌子	平成３．５．10	平成５．４．27
21代	〃	松島　年一	今村　　淳	平成５．５．13	平成７．５．12
22代	〃	小林　利一	牧内　信臣	平成７．５．13	平成９．４．27
23代	〃	吉村徳一郎	渡　　　淳	平成９．５．13	平成11．５．12
24代	〃	岩崎　和男	〃	平成11．５．13	平成13．４．27
25代	〃	熊谷　富夫	小池　　清	平成13．５．15	平成15．５．14
26代	〃	下平　政幸	中島武津雄	平成15．５．15	平成17．４．27
27代	〃	上澤　義一	村松まり子	平成17．５．13	平成19．５．11
28代	〃	原　　　勉	森本美保子	平成19．５．12	平成21．４．27
29代	〃	林　　幸次	原　　和世	平成21．５．13	平成23．５．13
30代	〃	木下　容子	森本美保子	平成23．５．13	平成25．４．27
31代	総務委員会	清水　　勇	原　　和世	平成25．５．14	平成27．５．12
32代	〃	吉川　秋利	古川　　仁	平成27．５．12	平成29．４．27
33代	〃	湊　　　猛	木下　容子	平成29．５．10	令和元．５．15
34代	〃	山崎　昌伸	吉川　秋利	令和元．５．15	令和３．４．27
35代	〃	熊谷　泰人	原　　和世	令和３．５．19	令和５．５．10
36代	〃	清水優一郎	小林　真一	令和５．５．10	

※１　議会改革によりH25.4.28から４常任委員会複数所属から３常任委員会単独所属に移行
※２　※１の議員における常任委員会単独所属については、R1.5.14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

（4）歴代社会文教常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	社会部委員会	児島　栄次	久保田安美 宮内　　昇	昭和31．10．8	昭和32．4．27
2代	〃	実原　徳重	知久陽之祐	昭和32．5．10	昭和34．5．17
3代	〃	〃	田口　秀男	昭和34．5．18	昭和36．4．27
4代	〃	辻　　虎松	漆原　恒実	昭和36．5．15	昭和38．5．22
5代	〃	〃	〃	昭和38．5．23	昭和40．4．27
6代	〃	〃	〃	昭和40．5．6	昭和41．5．13
7代	〃	漆原　恒実	桝田　太一	昭和41．5．14	昭和42．5．11
8代	〃	佐々木清信	松江　良夫	昭和42．5．12	昭和44．4．27
9代	〃	斉藤　宗義	熊谷政一郎	昭和44．5．7	昭和46．5．6
10代	〃	林　　昌平	伊東　秀彦	昭和46．5．7	昭和48．4．27
11代	社会民生委員会	西尾　仁一	松下　　茂	昭和48．5．8	昭和50．5．7
12代	〃	松江　良夫	片桐七右衛門	昭和50．5．8	昭和52．4．27
13代	社会委員会	片桐　　勲	佐々木文雄	昭和52．5．6	昭和54．5．5
14代	〃	松江　良夫	中島　勝美	昭和54．5．6	昭和56．4．27
15代	〃	尾沢　貞夫	片桐　芳朗	昭和56．5．8	昭和58．5．7
16代	〃	松下　　茂	平田　友畝	昭和58．5．8	昭和60．4．27
17代	〃	森本　藤登	今村　八束	昭和60．5．10	昭和62．5．11
18代	〃	西尾　保雄	吉川　義治	昭和62．5．12	平成元．4．27
19代	〃	〃	小林　利一	平成元．5．10	平成3．5．9
20代	〃	片桐　司郎	関島　秀夫	平成3．5．10	平成5．4．27
21代	〃	櫻井　俊夫	西尾　喜好	平成5．5．13	平成7．5．12
22代	〃	下平　一郎	中田　佳甫	平成7．5．13	平成9．4．27
23代	〃	中田　佳甫	熊谷　富夫	平成9．5．13	平成11．5．12
24代	〃	牛山　重一	井坪　　隆	平成11．5．13	平成13．4．27
25代	〃	菅沼　立男	中島武津雄	平成13．5．15	平成15．5．14
26代	〃	柄澤　紀春	荒木　興利	平成15．5．15	平成17．4．27
27代	〃	原　　　勉	森本美保子	平成17．5．13	平成19．5．11
28代	〃	中島武津雄	木下　容子	平成19．5．12	平成21．4．27
29代	〃	森本美保子	村松まり子	平成21．5．13	平成23．5．13
30代	〃	木下　克志	後藤　荘一	平成23．5．13	平成25．4．27
31代	社会文教委員会	井坪　　隆	湯澤　啓次	平成25．5．14	平成27．5．12
32代	〃	新井信一郎	清水　可晴	平成27．5．12	平成29．4．27
33代	〃	福沢　　清	山崎　昌伸	平成29．5．10	令和元．5．15
34代	〃	村松まり子	湊　　　猛	令和元．5．15	令和3．4．27
35代	〃	木下　徳康	岡田　倫英	令和3．5．19	令和5．5．10
36代	〃	永井　一英	清水　　勇	令和5．5．10	

※1　議会改革によりH25.4.28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2　※1の議員における常任委員会単独所属については、R1.5.14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

（５）歴代産業建設常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	産業部委員会	田中　　伝	宮下　綱六 宮川藤次郎	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２代	〃	小林　新吾	堀　　保麿	昭和32．５．10	昭和34．５．17
３代	〃	〃	丸山　治郎	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	〃	葛岡　利治	〃	昭和36．５．15	昭和38．５．22
５代	〃	丸山　治郎	松重　新一	昭和38．５．23	昭和40．４．27
６代	〃	〃	宮脇　　省	昭和40．５．６	昭和41．５．13
７代	産業経済部委員会	新井　安男	原　　　茂	昭和41．５．14	昭和42．５．11
８代	〃	今村　輝男	新井　安男	昭和42．５．11	昭和44．４．27
９代	〃	林　　昌平	原田　正志	昭和44．５．７	昭和46．５．６
10代	〃	北原　正司	小松　芳男	昭和46．５．７	昭和48．４．27
11代	産業経済委員会	原　　　茂	佐々木　勝	昭和48．５．８	昭和50．５．７
12代	〃	北原　正司	橋部　　肇	昭和50．５．８	昭和52．４．27
13代	〃	平沢　興一	原　　廣男	昭和52．５．６	昭和54．５．５
14代	〃	原　　康次	林　　利実	昭和54．５．６	昭和56．４．27
15代	〃	平澤　興一	竹村　仁實	昭和56．５．８	昭和58．５．７
16代	〃	片桐　　勲	〃	昭和58．５．８	昭和59．10．14
17代	〃	竹村　仁實	中田　　修	昭和59．10．26	昭和60．４．27
18代	〃	〃	塩澤　　昭	昭和60．５．10	昭和62．５．11
19代	〃	酒井　　米	小林　三郎	昭和62．５．12	平成元．４．27
20代	〃	内山　照美	下平　一郎	平成元．５．10	平成３．５．９
21代	〃	下平　一郎	小林　利一	平成３．５．10	平成５．４．27
22代	〃	〃	伊原　与一	平成５．５．13	平成７．５．12
23代	〃	佐藤　好英	吉川　義治	平成７．５．13	平成９．４．27
24代	〃	西尾　喜好	岩崎　和男	平成９．５．13	平成11．５．12
25代	〃	下平　政幸	熊谷　富夫	平成11．５．13	平成13．４．27
26代	〃	渡　　　淳	上澤　義一	平成13．５．15	平成15．５．14
27代	〃	矢澤　芳文	佐々木重光	平成15．５．15	平成17．４．27
28代	〃	清水　可晴	原　　和世	平成17．５．13	平成19．５．11
29代	〃	原　　和世	山﨑　紀男	平成19．５．12	平成21．４．27
30代	〃	木下　克志	木下　容子	平成21．５．13	平成23．５．13
31代	〃	伊壷　敏子	吉川　秋利	平成23．５．13	平成25．４．27
32代	産業建設委員会	吉川　秋利	後藤　荘一	平成25．５．14	平成27．５．12
33代	〃	永井　一英	湊　　　猛	平成27．５．12	平成29．４．27
34代	〃	湯澤　啓次	熊谷　泰人	平成29．５．10	令和元．５．15
35代	〃	熊谷　泰人	後藤　荘一	令和元．５．15	令和３．４．27
36代	〃	竹村　圭史	清水優一郎	令和３．５．19	令和５．５．10
37代	〃	福澤　克憲	古川　　仁	令和５．５．10	

※１　議会改革によりH25.4.28から４常任委員会複数所属から３常任委員会単独所属に移行
※２　※１の議員における常任委員会単独所属については、R1.5.14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

（６）歴代予算決算常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	予算決算委員会	原　　和世	村松まり子	令和元．５．15	令和３．４．27
２代	〃	山崎　昌伸	竹村　圭史	令和３．５．19	令和５．５．10
３代	〃	竹村　圭史	永井　一英	令和５．５．10	

※R1.5.14から予算決算委員会を常任委員会として設置。従前の総務・社会文教・産業建設各常任委員会での予算・決算、行政評価に関する専門的審査については、それぞれの常任委員会協議会の中で予算決算委員会分科会と位置づけ実施

（７）歴代建設環境常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	建設部委員会	辻　　虎松	竹内　兵治 伊原　悦雄	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２代	〃	近松　宗一	林　　省三	昭和32．５．10	昭和34．５．17
３代	〃	山田　亮一	伊原　悦雄	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	〃	佐々木清信	木下　章雄	昭和36．５．15	昭和38．５．22
５代	〃	木下　章雄	新井　安男	昭和38．５．23	昭和40．４．27
６代	〃	佐々木清信	林　　昌平	昭和40．５．６	昭和41．５．13
７代	〃	今牧　照男	〃	昭和41．５．14	昭和42．５．11
８代	〃	伊原　悦雄	代田　保雄	昭和42．５．12	昭和44．４．27
９代	〃	今牧　照男	茂木立好則	昭和44．５．７	昭和46．５．６
10代	〃	新井　安男	大蔵　浜雄	昭和46．５．７	昭和48．４．27
11代	建設委員会	茂木立好則	〃	昭和48．５．８	昭和50．５．７
12代	〃	斉藤　宗義	今牧　泰三	昭和50．５．８	昭和52．４．27
13代	〃	橋部　　肇	今村　　馨	昭和52．５．６	昭和54．５．５
14代	〃	森本　藤登	木下　　登	昭和54．５．６	昭和56．４．27
15代	〃	今村　　馨	熊谷　康登	昭和56．５．８	昭和58．５．７
16代	〃	細田　直彦	木下　　登	昭和58．５．８	昭和60．４．27
17代	〃	関島　一郎	酒井　　米	昭和60．５．10	昭和62．５．11
18代	〃	〃	實原　　裕	昭和62．５．12	昭和63．12．１
19代	〃	實原　　裕	塩澤　　昭	昭和63．12．２	平成元．４．27
20代	〃	平田　友畝	澤柳辨治郎	平成元．５．10	平成３．５．９
21代	〃	松島　年一	〃	平成３．５．10	平成５．４．27
22代	〃	吉川　義治	佐藤　好英	平成５．５．13	平成７．５．12
23代	〃	塩澤　俊彦	伊藤　芳之	平成７．５．13	平成９．４．27
24代	〃	牧内　信臣	木下　昭一	平成９．５．13	平成11．５．12
25代	〃	實原　公男	久保田平八郎	平成11．５．13	平成12．10．21
26代	〃	菅沼　立男	〃	平成12．10．31	平成13．４．27
27代	建設環境委員会	井坪　　隆	原　　　勉	平成13．５．15	平成15．５．14
28代	〃	木下　昭一	原　　和世	平成15．５．15	平成17．４．27
29代	〃	佐々木重光	湯澤　宗保	平成17．５．13	平成19．５．11
30代	〃	柄澤　紀春	後藤　修三	平成19．５．12	平成21．４．27
31代	〃	伊壷　敏子	吉川　秋利	平成21．５．13	平成23．５．13
32代	〃	原　　和世	永井　一英	平成23．５．13	平成25．４．27

※議会改革による常任委員会の再編により、H25.4.27をもって建設環境委員会は所管に応じ他の３常任委員会へ移管

（８）歴代議会運営委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	議会運営委員会	木下　章雄	近松　宗一	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２代	〃	島岡　利雄	伊藤　誠一	昭和32．５．10	昭和34．５．18
３代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	〃	熊谷　一郎	伊藤　誠一	昭和36．５．15	昭和38．５．23
５代	〃	佐々木清信	熊谷　一郎	昭和38．５．23	昭和40．４．27
６代	〃	近松　宗一	鳴海　　衛	昭和40．５．６	昭和41．５．13
７代	〃	斉藤　宗義	代田　保雄	昭和41．５．13	昭和42．５．11
８代	〃	丸山　治郎	原田　正志	昭和42．５．11	昭和44．４．27
９代	〃	新井　安男	原　　　茂	昭和44．５．７	昭和46．５．７
10代	〃	松江　良夫	西尾　仁一	昭和46．５．７	昭和48．４．27
11代	〃	伊東　秀彦	太田　猶市	昭和48．５．８	昭和50．５．７
12代	〃	松嶋　健次	尾沢　貞夫	昭和50．５．７	昭和52．４．27
13代	〃	尾沢　貞夫	竹村　仁實	昭和52．５．６	昭和54．４．13
14代	〃	片桐七右衛門	塩沢　文朗	昭和54．４．13	昭和56．４．27
15代	〃	木下　　登	内山　照美	昭和56．５．８	昭和57．３．１
16代	〃	片桐七右衛門	〃	昭和57．３．１	昭和58．４．22
17代	〃	中島　勝美	酒井　　米	昭和58．４．22	昭和60．４．27
18代	〃	内山　照美	平田　友畝	昭和60．５．10	昭和62．５．12
19代	〃	平田　友畝	松島　年一	昭和62．５．12	平成元．４．27
20代	〃	松島　年一	久保田　元	平成元．５．10	平成３．５．９
21代	〃	吉川　義治	今村　　淳	平成３．５．９	平成５．４．27
22代	〃	中田　佳甫	牧内　信臣	平成５．５．13	平成７．５．12
23代	〃	伊原　与一	片桐　司郎	平成７．５．13	平成８．４．22
24代	〃	澤柳辨治郎	〃	平成８．６．４	平成８．10．31
25代	〃	〃	桜井　俊夫	平成８．10．31	平成９．４．27
26代	〃	久保田平八郎	牛山　重一	平成９．５．13	平成11．５．12
27代	〃	木下　昭一	菅沼　立男	平成11．５．13	平成12．10．30
28代	〃	〃	柄澤　紀春	平成12．10．31	平成13．４．27
29代	〃	矢澤　芳文	清水　可晴	平成13．５．15	平成15．５．14
30代	〃	上澤　義一	林　　幸次	平成15．５．15	平成17．４．27
31代	〃	原　　和世	下平　勝熙	平成17．５．13	平成19．５．11
32代	〃	下平　勝熙	木下　克志	平成19．５．12	平成21．４．27
33代	〃	井坪　　隆	清水　　勇	平成21．５．13	平成23．５．13
33代	〃	林　　幸次	新井信一郎	平成23．５．13	平成25．４．27
34代	〃	清水　可晴	村松まり子	平成25．５．14	平成27．５．12
35代	〃	清水　　勇	後藤　荘一	平成27．５．12	平成29．４．27
36代	〃	村松まり子	吉川　秋利	平成29．５．10	令和元．５．15
37代	〃	福沢　　清	永井　一英	令和元．５．15	令和３．４．27
38代	〃	永井　一英	清水　　勇	令和３．５．19	令和５．５．10
39代	〃	井坪　　隆	山崎　昌伸	令和５．５．10	

（９）歴代監査委員（議会選出）

代	氏　　　名	就任年月日	退任年月日
初代	田中　　悟	昭和31．10．１	昭和32．４．27
２代	佐々木清信	昭和32．５．10	昭和34．５．17
３代	熊谷　一郎	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	関島彦四郎	昭和36．５．15	昭和41．６．15
５代	市村　保人	昭和41．６．17	昭和42．６．５
６代	宮内　　昇	昭和42．６．６	昭和44．４．27
７代	市村　保人	昭和44．５．７	昭和46．６．３
８代	宮内　　昇	昭和46．６．４	昭和50．６．６
９代	近松　宗一	昭和50．６．10	昭和52．４．27
10代	伊原　悦雄	昭和52．６．６	昭和54．４．13
11代	松下　　茂	昭和54．４．16	昭和56．５．７
12代	西尾　保雄	昭和56．５．８	昭和60．４．27
13代	實原　　裕	昭和60．５．10	昭和62．５．12
14代	松嶋　健次	昭和62．５．13	平成元．４．27
15代	小林　三郎	平成元．５．10	平成２．６．30
16代	實原　　裕	平成２．７．16	平成３．５．９
17代	竹村　仁實	平成３．５．10	平成５．４．27
18代	〃	平成５．５．13	平成７．５．12
19代	實原　　裕	平成７．５．13	平成９．４．27
20代	竹村　仁實	平成９．５．13	平成11．５．12
21代	片桐　司郎	平成11．５．13	平成13．４．27
22代	小林　利一	平成13．５．15	平成15．３．３
23代	西尾　喜好	平成15．５．14	平成17．４．27
24代	岩崎　和男	平成17．５．13	平成19．５．10
25代	熊谷　富夫	平成19．５．11	平成21．４．27
26代	上澤　義一	平成21．５．13	平成23．５．12
27代	中島武津雄	平成23．５．13	平成25．４．27
28代	〃	平成25．５．14	平成29．４．27
29代	木下　克志	平成29．５．10	令和元．５．13
30代	清水　　勇	令和元．５．15	令和３．４．27
31代	原　　和世	令和３．５．19	

(10) 歴代事務局長

代	氏　　名	就任年月日	退任年月日
初代	林　　政人	昭和31．９．30	昭和39．３．31
２代	久保　武敏	昭和39．４．１	昭和44．３．31
３代	福井　　実	昭和44．４．１	昭和44．10．19
４代	村沢　光男	昭和44．10．20	昭和48．６．30
５代	酒井　　篤	昭和48．７．１	昭和50．３．31
６代	宮沢　邦男	昭和50．４．１	昭和54．３．31
７代	木下　良美	昭和54．４．１	昭和56．３．31
８代	松澤　平吉	昭和56．４．１	昭和59．３．31
９代	坂下　幸彦	昭和59．４．１	平成元．３．31
10代	小木曽義信	平成元．４．１	平成３．３．31
11代	浦野　　勉	平成３．４．１	平成６．３．31
12代	横田　　常	平成６．４．１	平成９．３．31
13代	山岸一二三	平成９．４．１	平成11．３．31
14代	吉川　元勝	平成11．４．１	平成13．３．31
15代	中本　卓良	平成13．４．１	平成15．３．31
16代	福田　富廣	平成15．４．１	平成16．３．31
17代	大沢　英二	平成16．４．１	平成17．３．31
18代	尾澤　敏秀	平成17．４．１	平成19．３．31
19代	中井　洋一	平成19．４．１	平成20．３．31
20代	平澤　和人	平成20．４．１	平成20．12．31
21代	篠田　雅弘	平成21．１．１	平成25．３．31
22代	福澤　栄二	平成25．４．１	平成27．３．31
23代	土屋　寿憲	平成27．４．１	平成29．３．31
24代	吉川　昌彦	平成29．４．１	令和３．３．31
25代	和泉　忠志	令和３．４．１	令和６．３．31
26代	筒井　雄二	令和６．４．１	

(11)歴代市議会議員

ア　昭和31年９月30日執行（１市７か村合併）

⑺　三穂地区　12人

林　武男	林　武司	坂巻　政美	林　保	古川　舍人	佐藤　芳房
宮沢　敬信	前沢　蔵六	川井　邦	西村　文雄	川上　竹市	久保田安美

⑷　飯田地区　29人

代田源六郎	斉藤　隆久	今村　正美	田口　秀夫	牧島　保一	大竹　四郎
井村豊太郎	井原　淳治	辻　虎松	山田　亮一	深津　一郎	酒井　府
古瀬　仁	菊池　恭平	児島　栄次	宮下　綱六	吉川　一	中田　栄
木下　一人	実原　徳重	佐々木清信	近松　宗一	木下　勝義	加藤　英男
田中　悟	早川　清雄	荒井重右衛門	長坂　晃	漆原　恒実	

⑸　座光地地区　16人

知久陽之祐	北原　弘	片桐　卓治	上沼　善夫	黒川　利一	今村　良美
湯沢　博司	篠田力三郎	棚田　正雄	佐々木貞雄	竹内　武男	原田　栄治
佐々木信雄	原田　幸雄	三村　利	竹内　兵治		

⑹　竜丘地区　16人

伊原　悦雄	下平　広志	原　登	吉川　正己	中平恒三郎	今村　恵
長沼　保治	林　正司	松村　新八	前島　秀夫	北沢小太郎	沖田　武一
下田　巌	原　光人	下平　勲資	塚平　睦雄		

⑺　松尾地区　22人

林　宗三郎	江塚　角三	斉藤　忠治	木下　徳雄	塩沢　秋生	平栗　英祐
山中　竜策	今村　輝男	小木曽嘉一	青山　孝一	常盤　喜八	福島　淡
牛草　利春	藤田　勇夫	塩沢伝之助	中山　政雄	奥田　利吉	松村　信一
熊谷　好次	金井　啓	伊与部金一	木下　章雄		

⑻　下久堅地区　16人

平沢　清人	池田　嘉篤	吉沢　昇	羽生　一善	宮川藤次郎	森岡　清志
宮内　昇	三石　義臣	宮脇　利雄	桐生　忠治	橋爪徳次郎	三石誠一郎
羽場　義雄	木下　平治	坂井　伸一	平沢　亮治		

⑼　伊賀良地区　22人

坂下　美富	矢沢　秀一	相原　貢	橋部　文男	今牧　泰三	伊藤　仁
佐々木省吾	元島　均治	今牧　照男	平田　武司	水野　恒夫	神部　稲男
矢沢　清志	松沢　武雄	伊藤　清	肥後　明一	平田　薫	田部　勇
鈴木　太郎	新井　一正	宮下　喜一	原　稲太郎		

⑽　山本地区　16人

尾沢　元一	熊谷　英雄	竹村　汎愛	平岩四郎吉	竹村　央	遠山　皓
熊谷　広男	山内　精一	田中　伝	金田　伝	唐沢　茂一	玉置　敏夫
久保田久吉	金沢　重雄	熊崎　六蔵	小池　政之		

合計 149人

イ　昭和32年４月28日執行（合併による設置選挙　任期は昭和32年4月28日から昭和36年４月27日まで　８選挙区　定数36）

片山　　均	伊藤　誠一	久保田一男	松沢　　広	田中　　伝	島岡　利雄
林　　　保	林　　省三	北沢小太郎	伊原　悦雄	木下　章雄	伊与部金一
葛岡　利治	丸山　治郎	小林　新吾	宮脇　　省	佐々木利夫	知久陽之祐
代田源六郎	実原　徳重	佐々木清信	近松　宗一	今村　正美	児島　栄次
井原　淳治	堀　　保麿	福島　勝男	古瀬　　仁	漆原　恒美	串原　義直
山田　亮一	深津　一郎	辻　　虎松	熊谷　一郎	田口　秀男	岡島　新治

ウ　昭和35年10月25日執行（飯田地区補欠選挙　任期は昭和35年10月26日から昭和36年４月27日まで　定数３）

新井　安男　　鳴海　　衛　　前島　成光

エ　昭和36年４年23日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和36年４月28日から昭和40年４月27日まで９選挙区　定数28）

片山　　均	浜島　惣一	伊原　春男	鳴海　　衛	宮内　　昇	葛岡　利治
岡村　賢作	知久陽之祐	丸山　治郎	関島彦四郎	佐々木清信	代田源六郎
代田　　哲	今牧　照男	新井　安男	近松　宗一	木下　章雄	串原　義直
福島　勝男	前島　成光	小林　新吾	沢柳　敏夫	漆原　恒美	辻　　虎松
竹村　　央	伊藤　誠一	松重　新一	熊谷　一郎		

オ　昭和39年５月15日執行（龍江村、千代村及び上久堅村の３か村合併による増員選挙　任期は昭和39年５月15日から昭和40年４月27日まで　定数は龍江２、千代２、上久堅１の合計５）

林　　昌平　　松尾　純二　　大平　節蔵　　林　　武男　　斉藤　宗義

カ　昭和39年８月28日執行（伊賀良地区補欠選挙　任期は昭和39年８月29日から昭和40年４月27日まで　定数１）

代田　保雄

キ　昭和39年10月25日執行（飯田地区補欠選挙　任期は昭和39年10月26日から昭和40年４月27日まで　定数１）

宮嶋　　繁

ク　昭和40年４月25日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和40年４月28日から昭和44年４月27日まで　全市１選挙区　定数36）

林　　昌平	前島　秀夫	北原　正司	鳴海　　衛	辻　　虎松	市村　保人
小林　新吾	代田　保雄	近松　宗一	代田源六郎	矢崎　三郎	沢柳　俊夫
桝田　太一	今村　治郎	丸山　治郎	松江　良夫	伊原　悦雄	原　　　茂
大蔵　浜雄	宮嶋　　茂	漆原　恒美	富田　政雄	葛岡　利治	大平　節蔵
今村　輝男	新井　安男	佐々木清信	宮内　　昇	熊谷　一郎	宮脇　　省

前島　成光	熊谷　武志	斉藤　宗義	原田　正志	今牧　照男	関島彦四郎

ケ　昭和43年10月20日執行（補欠選挙　任期は昭和43年10月21日から昭和44年４月27日まで　定数２）

茂木立好則	内田　　篤

コ　昭和44年４月20日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和44年４月28日から昭和48年４月27日まで　定数36）

池上　一雄	茂木立好則	位高　　勉	永山　忠男	前島　成光	佐藤力三郎
今牧　照男	斉藤　宗義	小松　芳男	江塚　善二	宮内　　昇	大蔵　浜雄
松下　　茂	原　　　茂	原　　康次	原田　正志	熊谷政一郎	西尾　仁一
中山　栄次	辻　　虎松	桝田　太一	内田　　篤	伊東　秀彦	北原　正司
松嶋　健次	今村　輝男	林　　昌平	新井　安男	片桐　　勲	近松　宗一
宮嶋　　繁	熊谷　武志	市村　保人	鳴海　　衛	伊原　悦雄	松江　良夫

サ　昭和47年10月22日執行（補欠選挙　任期は昭和47年10月23日から昭和48年４月27日まで　定数２）

森本　藤登	今牧　泰三

シ　昭和48年４月22日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和48年４月28日から昭和52年４月27日まで　定数36）

大蔵　浜雄	塩沢　文朗	片桐　芳朗	川手　　守	前島　成光	佐藤力三郎
片桐七右衛門	伊藤　祐春	太田　猶市	佐々木　勝	平澤　輿一	尾沢　貞夫
松下　　茂	森本　藤登	佐々木清信	鳴海　　衛	原　　　茂	松江　良夫
伊東　秀彦	松嶋　健次	今牧　泰三	内田　　篤	西尾　仁一	橋部　　肇
斉藤　為良	新井　安男	市村　保人	斉藤　宗義	今村　輝男	北原　正司
伊原　悦雄	近松　宗一	江塚　善二	宮内　　昇	茂木立好則	林　　昌平

ス　昭和51年10月17日執行（補欠選挙　任期は昭和51年10月18日から昭和52年４月27日まで　定数３）

熊谷　康登	西尾　保雄	片桐　　勲

セ　昭和52年４月17日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和52年４月28日から昭和56年４月27日まで　定数30に減少）

片桐七右衛門	塩沢　文朗	片桐　芳朗	川手　　守	熊谷　康登	斉藤　宗義
竹村　仁實	木下　　登	原　　広男	原　　康次	松下　　茂	西尾　保雄
内田　　篤	森本　藤登	今村　　馨	平澤　輿一	片桐　　勲	中島　勝美
林　　利実	尾沢　貞夫	橋部　　肇	細田　直彦	佐々木文雄	佐々木　勝
斉藤　為良	西尾　仁一	茂木立好則	松江　良夫	林　　昌平	伊原　悦雄

ソ　昭和55年10月19日執行（補欠選挙　任期は昭和55年10月20日から昭和56年４月27日まで　定数１）

　内山　照美

タ　昭和56年４月19日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和56年４月28日から昭和60年４月27日まで　定数30）

　塩沢　　昭　　實原　　裕　　平田　友畝　　酒井　　米　　前島　成光　　熊谷　康登
　片桐　芳朗　　塩沢　文朗　　中田　　修　　竹村　仁實　　今村　　馨　　内山　照美
　木下　　登　　西尾　保雄　　原　　康次　　森本　藤登　　中島　勝美　　片桐七右衛門
　松島　健次　　原　　広男　　細田　直彦　　平澤　與一　　松下　　茂　　内田　　篤
　松江　良夫　　林　　昌平　　片桐　　勲　　尾沢　貞夫　　茂木立好則　　伊原　悦雄

チ　昭和59年10月21日執行（補欠選挙　任期は昭和59年10月22日から昭和60年４月27日まで　定数１）

　今村　八東

ツ　昭和59年12月１日執行（鼎町合併により鼎町議員が引き続いて市議会議員として在任　任期は昭和59年12月１日から昭和60年４月27日まで　定数52）

　田原　慶一　　武田　良人　　中村　岸美　　中島文三郎　　木下　為輔　　関島　一郎
　五十君酒造大　　高木　敏美　　松沢アサエ　　河村　弘久　　水野佐知穂　　村沢　　延
　吉川　義治　　今村　　淳　　村沢　　博　　鷲見　知一　　北沢　芳男　　新井紀一郎
　片桐　司郎　　下田　武志　　小林　雅夫　　関島　秀夫

テ　昭和60年４月21日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和60年４月28日から平成元年４月27日まで　定数31）

　田中　秀典　　下平　一郎　　小林　三郎　　松島　年一　　澤柳辨治郎　　吉川　昌子
　熊谷　康登　　牧内　信臣　　櫻井　俊夫　　久保田　元　　吉川　義治　　武田　良人
　今村　八東　　原　　広男　　今村　　淳　　塩沢　文朗　　片桐　司郎　　西尾　保雄
　塩沢　　昭　　實原　　裕　　平田　友畝　　酒井　　米　　関島　一郎　　内山　照美
　森本　藤登　　松下　　茂　　竹村　仁實　　細田　直彦　　尾沢　貞夫　　平澤　與一
　松嶋　健次

ト　昭和63年10月16日執行（補欠選挙　任期は昭和63年10月17日から平成元年４月27日まで　定数２）

　小林　利一　　長谷部徳治

ナ　平成元年４月23日執行（任期満了一般選挙　任期は平成元年４月28日から平成５年４月27日まで　定数31）

　西尾　喜好　　吉村徳一郎　　伊原　与一　　佐藤　好英　　中田　佳甫　　吉川　昌子
　牛山　重一　　牧内　信臣　　塩澤　俊彦　　長谷部徳治　　伊藤　芳之　　小林　利一

関島　秀夫　　下平　一郎　　渡　　　淳　　今村　　淳　　櫻井　俊夫　　片桐　司郎
小林　三郎　　松島　年一　　澤柳辨治郎　　久保田　元　　吉川　義治　　今村　八束
西尾　保雄　　塩澤　　昭　　實原　　裕　　平田　友畝　　内山　照美　　竹村　仁實
松江　良夫

ニ　平成４年10月18日執行（補欠選挙　任期は平成４年10月19日から平成５年４月27日まで　定数１）
井出　健介

ヌ　平成５年４月25日執行（任期満了一般選挙　任期は平成５年４月28日から平成９年４月27日まで　定数31）
柄澤　紀春　　菅沼　立男　　吉川　四郎　　實原　公男　　熊谷　富夫　　久保田平八郎
下平　政幸　　木下　昭一　　牛山　重一　　牧内　信臣　　吉川　昌子　　塩澤　俊彦
長谷部徳治　　西尾　喜好　　吉村徳一郎　　伊原　与一　　佐藤　好英　　中田　佳甫
伊藤　芳之　　渡　　　淳　　今村　　淳　　櫻井　俊夫　　片桐　司郎　　小林　利一
下平　一郎　　松島　年一　　澤柳辨治郎　　吉川　義治　　今村　八束　　實原　　裕
竹村　仁實

ネ　平成５年８月１日執行（上郷町編入合併に伴う増員選挙　任期は平成５年８月２日から平成９年４月27日まで　定数５）
中田　裕康　　井坪　　隆　　岩崎　和男　　岡島　　豊　　大坪　　勇

ノ　平成８年10月20日執行（補欠選挙　任期は平成８年10月21日から平成９年４月27日まで　定数１）
矢澤　芳文

ハ　平成９年４月20日執行（任期満了一般選挙　任期は平成９年４月28日から平成13年４月27日まで　定数31）
佐藤久美子　　小池　　清　　清水　可晴　　佐々木重光　　原　　　勉　　中島武津雄
上澤　義一　　荒木　興利　　大坪　　勇　　牛山　重一　　牧内　信臣　　矢澤　芳文
井坪　　隆　　岩崎　和男　　林　　幸次　　渡　　　淳　　熊谷　富夫　　久保田平八郎
下平　政幸　　木下　昭一　　西尾　喜好　　柄澤　紀春　　菅沼　立男　　實原　公男
吉村徳一郎　　佐藤　好英　　中田　佳甫　　小林　利一　　今村　八束　　片桐　司郎
竹村　仁實

ヒ　平成12年10月15日執行（補欠選挙　任期は平成12年10月16日から平成13年４月27日まで　定数１）
原　　和世

フ　平成13年４月22日執行（任期満了一般選挙　任期は平成13年４月28日から平成17年４月27日まで　定数31）

木下　容子	下平　勝熙	伊壷　敏子	大谷　恵子	湯澤　宗保	森本美保子
村松まり子	牛山満智子	清水　可晴	小池　　清	牛山　重一	牧内　信臣
原　　和世	原　　　勉	林　　幸次	渡　　　淳	久保田平八郎	柄澤　紀春
菅沼　立男	中島武津雄	上澤　義一	佐々木重光	荒木　興利	井坪　　隆
岩崎　和男	矢澤　芳文	熊谷　富夫	下平　政幸	木下　昭一	西尾　喜好
小林　利一					

へ　平成16年10月24日執行（補欠選挙　任期は平成16年10月25日から平成17年４月27日まで　定数２）

後藤　荘一　　木下　克志

ホ　平成17年４月24日執行（任期満了一般選挙　任期は平成17年４月28日から平成21年４月27日まで　定数27）

清水　　勇	代田　剛嗣	新井信一郎	内山　要子	吉川　秋利	伊藤　清春
永井　一英	木下　容子	下平　勝熙	後藤　荘一	木下　克志	湯澤　宗保
森本美保子	柄澤　紀春	村松まり子	林　　幸次	清水　可晴	伊壷　敏子
原　　和世	原　　　勉	中島武津雄	上澤　義一	佐々木重光	矢澤　芳文
岩崎　和男	熊谷　富夫	牧内　信臣			

マ　平成17年10月30日執行（上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙　任期は平成17年10月31日から平成21年４月27日まで　定数２）

山﨑　紀男　　後藤　修三

ミ　平成21年４月19日執行（任期満了一般選挙　任期は平成21年４月28日から平成25年４月27日まで　定数23に減少）

湯澤　啓次	湊　　　猛	清水　　勇	吉川　秋利	永井　一英	福沢　　清
内田　雄一	牛山満智子	新井信一郎	木下　克志	木下　容子	下平　勝熙
村松まり子	森本美保子	後藤　荘一	伊壷　敏子	中島武津雄	上澤　義一
清水　可晴	林　　幸次	井坪　　隆	原　　和世	原　　　勉	

ム　平成25年４月21日執行（任期満了一般選挙　任期は平成25年４月28日から平成29年４月27日まで　定数23）

竹村　圭史	木下　徳康	熊谷　泰人	湯澤　啓次	山崎　昌伸	森本　政人
古川　　仁	小倉　高広	湊　　　猛	新井信一郎	清水　　勇	吉川　秋利
永井　一英	木下　容子	福沢　　清	後藤　荘一	木下　克志	中島武津雄
村松まり子	林　　幸次	清水　可晴	井坪　　隆	原　　和世	

メ　平成29年４月16日執行（任期満了一般選挙　任期は平成29年４月28日から※平成33年４月27日まで　定数23）　（※平成33年は2021年、令和３年）

清水優一郎	岡田　倫英	塚平　一成	竹村　圭史	小林　真一	福澤　克憲
古川　　仁	木下　徳康	山崎　昌伸	熊谷　泰人	湯澤　啓次	永井　一英
福沢　　清	木下　容子	後藤　荘一	湊　　　猛	新井信一郎	清水　　勇
吉川　秋利	木下　克志	村松まり子	井坪　　隆	原　　和世	

モ　令和３年４月25日執行（任期満了一般選挙　任期は令和３年４月28日から令和７年４月27日まで　定数23）

小平　　彰	下平　恒男	橋爪　重人	西森　六三	宮脇　邦彦	関島　百合
市瀬　芳明	筒井　誠逸	清水優一郎	岡田　倫英	福澤　克憲	竹村　圭史
小林　真一	佐々木博子	古川　　仁	木下　徳康	山崎　昌伸	熊谷　泰人
新井信一郎	清水　　勇	永井　一英	井坪　　隆	原　　和世	

ヤ　令和５年３月 31 日、新井信一郎議員が令和５年４月９日執行の長野県議会議員一般選挙（飯田市下伊那郡選挙区）への立候補により辞職

3　１年間の記録

（1）付議事件及び議決結果一覧表

①　市長提出議案

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第１号	監査委員の選任について	5.2.22	5.2.22	同意
議案第２号	固定資産評価審査委員会の委員の選任について	5.2.22	5.2.22	同意
議案第３号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	5.2.22	5.2.22	同意
議案第４号	飯田市南部財産区管理委員の選任について	5.2.22	5.2.22	同意
議案第５号	飯田市中央財産区管理委員の選任について	5.2.22	5.2.22	同意
議案第６号	飯田市長野原財産区管理委員の選任について	5.2.22	5.2.22	同意
議案第７号	飯田市上川路財産区管理委員の選任について	5.2.22	5.2.22	同意
議案第８号	飯田市山本区財産区管理委員の選任について	5.2.22	5.2.22	同意
議案第９号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第10号	飯田市有線テレビジョン放送施設条例及び飯田市遠山郷有線テレビジョン放送施設条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第11号	飯田市中山間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第12号	飯田市授産施設条例及び飯田市社会福祉審議会条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第13号	飯田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第14号	飯田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第15号	飯田市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第16号	飯田市上村木材工芸品加工販売施設条例を廃止する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第17号	飯田市上村観光施設条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第18号	飯田市南信濃観光施設等条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第19号	飯田市営住宅等条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第20号	飯田市営駐車場条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第21号	飯田市病院事業条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第22号	飯田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第23号	飯田市これからの学校のあり方審議会条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第24号	飯田市プール条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第25号	飯田市恒川史跡公園条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第26号	飯田市美術博物館条例の一部を改正する条例の制定について	5.2.22	5.3.20	可決
議案第27号	工事請負契約の一部変更について（産業用地整備事業龍江インター産業団地整備工事）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第28号	工事請負契約の一部変更について（過年発生土木施設補助災害復旧事業橋りょう架設工事）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第29号	令和４年度飯田市一般会計補正予算（第９号）案	5.2.22	5.3.20	可決
議案第30号	令和４年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）案	5.2.22	5.3.20	可決
議案第31号	令和４年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第２号）案	5.2.22	5.3.20	可決
議案第32号	令和４年度飯田市駐車場事業特別会計補正予算（第１号）案	5.2.22	5.3.20	可決
議案第33号	令和４年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）案	5.2.22	5.3.20	可決
議案第34号	令和４年度飯田市病院事業会計補正予算（第２号）案	5.2.22	5.3.20	可決
議案第35号	令和５年度飯田市一般会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第36号	令和５年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第37号	令和５年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第38号	令和５年度飯田市介護保険特別会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第39号	令和５年度飯田市地方卸売市場事業特別会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第40号	令和５年度飯田市駐車場事業特別会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第41号	令和５年度飯田市墓地事業特別会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第42号	令和５年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第43号	令和５年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第44号	令和５年度飯田市病院事業会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第45号	令和５年度飯田市水道事業会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第46号	令和５年度飯田市下水道事業会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第47号	令和５年度飯田市各財産区会計予算（案）	5.2.22	5.3.20	可決
議案第48号	飯田市松尾地区財産区管理委員の選任について	5.5.9	5.5.9	同意
議案第49号	飯田市駄科財産区管理委員の選任について	5.5.9	5.5.9	同意

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第50号	飯田市千代財産区管理委員の選任について	5.5.9	5.5.9	同意
議案第51号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第１号）案	5.5.9	5.5.9	可決
議案第52号	農業委員会の委員の任命について	5.5.30	5.5.30	同意
議案第53号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第54号	飯田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例及び飯田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第55号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第56号	飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第57号	飯田市未熟児養育医療費用徴収条例の一部を改正する条例の制定について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第58号	飯田市水道条例の一部を改正する条例の制定について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第59号	飯田市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第60号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第61号	土地の取得について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第62号	市道路線の変更について	5.5.30	5.6.26	可決
議案第63号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第２号）案	5.5.30	5.6.26	可決
議案第64号	令和５年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）案	5.5.30	5.6.26	可決
議案第65号	令和５年度飯田市水道事業会計補正予算（第１号）案	5.5.30	5.6.26	可決
議案第66号	工事請負契約の締結について（橋りょう耐震整備事業橋梁耐震整備工事）	5.5.30	5.6.26	可決
議案第67号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第３号）案	5.6.26	5.6.26	可決
議案第68号	令和５年度飯田市水道事業会計補正予算（第２号）案	5.6.26	5.6.26	可決
議案第69号	教育委員会の委員の任命について	5.8.30	5.8.30	同意
議案第70号	飯田市空家等の適正な管理及び活用に関する条例の一部を改正する条例の制定について	5.8.30	5.9.25	可決
議案第71号	飯田市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例の制定について	5.8.30	5.9.25	可決
議案第72号	飯田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	5.8.30	5.9.25	可決
議案第73号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について	5.8.30	5.9.25	可決
議案第74号	工事請負契約の締結について（令和５・６・７年度かぐらの湯新規源泉掘削工事）	5.8.30	5.9.25	可決

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第75号	市道路線の廃止について	5.8.30	5.9.25	可決
議案第76号	市道路線の変更について	5.8.30	5.9.25	可決
議案第77号	令和４年度飯田市水道事業剰余金の処分について	5.8.30	5.9.25	可決
議案第78号	令和４年度飯田市下水道事業剰余金の処分について	5.8.30	5.9.25	可決
議案第79号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第４号）案	5.8.30	5.9.25	可決
議案第80号	令和５年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第１号）案	5.8.30	5.9.25	可決
議案第81号	令和４年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第82号	令和４年度飯田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第83号	令和４年度飯田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第84号	令和４年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第85号	令和４年度飯田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第86号	令和４年度飯田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第87号	令和４年度飯田市墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第88号	令和４年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第89号	令和４年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第90号	令和４年度飯田市病院事業決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第91号	令和４年度飯田市水道事業決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第92号	令和４年度飯田市下水道事業決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第93号	令和４年度飯田市各財産区会計歳入歳出決算認定について	5.8.30	5.9.25	認定
議案第94号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第５号）案	5.9.25	5.9.25	可決
議案第95号	固定資産評価審査委員会の委員の選任について	5.11.24	5.11.24	同意
議案第96号	飯田市千代財産区管理委員の選任について	5.11.24	5.11.24	同意
議案第97号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	5.11.24	5.12.20	可決
議案第98号	飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の制定について	5.11.24	5.12.20	可決
議案第99号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	5.11.24	5.12.20	可決
議案第100号	飯田市営住宅等条例の一部を改正する条例の制定について	5.11.24	5.12.20	可決

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第101号	飯田市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例の制定について	5.11.24	5.12.20	可決
議案第102号	飯田市市道の構造の技術的基準等を定める条例の一部を改正する条例の制定について	5.11.24	5.12.20	可決
議案第103号	飯田市体育施設条例の一部を改正する条例の制定について	5.11.24	5.12.20	可決
議案第104号	飯田市議会議員及び飯田市長の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	5.11.24	5.12.20	可決
議案第105号	土地の取得について	5.11.24	5.12.20	可決
議案第106号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市福祉会館）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第107号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃障害者等活動支援センター）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第108号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市デイサービスセンター）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第109号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃高齢者共同住宅）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第110号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市特別養護老人ホーム）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第111号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市地域子育て支援拠点施設）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第112号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市休日夜間急患診療所）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第113号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市天龍峡温泉交流館）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第114号	工事請負契約の一部変更について（交通安全対策事業道路改良工事）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第115号	工事請負契約の締結について（土木施設補助災害復旧事業道路災害復旧工事）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第116号	工事請負契約の締結について（土木施設補助災害復旧事業道路災害復旧工事）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第117号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市松尾天竜グラウンド）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第118号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市地域人形劇センター）	5.11.24	5.12.20	可決
議案第119号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第６号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第120号	令和５年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第121号	令和５年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第122号	令和５年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第２号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第123号	令和５年度飯田市地方卸売市場事業特別会計補正予算（第１号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第124号	令和５年度飯田市駐車場事業特別会計補正予算（第１号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第125号	令和５年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第126号	令和５年度飯田市病院事業会計補正予算（第１号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第127号	令和５年度飯田市水道事業会計補正予算（第３号）案	5.11.24	5.12.20	可決

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第128号	令和５年度飯田市下水道事業会計補正予算（第１号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第129号	南信州広域連合が処理する事務の変更及び南信州広域連合規約の変更について	5.11.24	5.12.20	可決
議案第130号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第７号）案	5.11.24	5.12.20	可決
議案第131号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	5.12.8	5.12.20	可決
議案第132号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市健康増進施設）	5.12.8	5.12.20	可決
議案第133号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第８号）案	5.12.8	5.12.20	可決

② 議会提出議案

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
発議第１号	県施設の整理統合が続く中で、地域の振興に資する施設整備を求める意見書の提出について	5.12.20	5.12.20	可決
発委第１号	飯田市議会個人情報の保護に関する条例の制定について	5.3.20	5.3.20	可決
発委第２号	飯田市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について	5.3.20	5.3.20	可決
発委第３号	飯田市議会議員の議員報酬の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について	5.3.20	5.3.20	可決
発委第４号	さらなる少人数学級推進と教育予算の増額及び義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書の提出について	5.6.26	5.6.26	可決
発委第５号	へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準とすることを求める意見書の提出について	5.6.26	5.6.26	可決
発委第６号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について	5.9.25	5.9.25	可決

③ 報告議案

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
報告第１号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	5.2.22		
報告第２号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	5.2.22		
報告第３号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について）	5.5.9	5.5.9	承認
報告第４号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について）	5.5.9	5.5.9	承認
報告第５号	専決処分の承認を求めることについて（令和４年度飯田市一般会計補正予算（第10号））	5.5.9	5.5.9	承認
報告第６号	専決処分の承認を求めることについて（令和４年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号））	5.5.9	5.5.9	承認
報告第７号	専決処分の承認を求めることについて（令和４年度飯田市病院事業会計補正予算（第３号））	5.5.9	5.5.9	承認
報告第８号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	5.5.9		
報告第９号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	5.5.30		
報告第10号	飯田市国民保護計画の変更について	5.5.30		
報告第11号	権利の放棄について（病院料金に係る債権）	5.5.30		
報告第12号	権利の放棄について（水道料金に係る債権）	5.5.30		
報告第13号	令和４年度飯田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	5.5.30		
報告第14号	令和４年度飯田市病院事業会計予算繰越計算書の報告について	5.5.30		
報告第15号	令和４年度飯田市水道事業会計予算繰越計算書の報告について	5.5.30		

事件番号	事　件　名	上程日	議決日	議決結果
報告第16号	令和４年度飯田市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	5.5.30		
報告第17号	飯田市土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について	5.5.30		
報告第18号	株式会社飯田健康温泉の経営状況を説明する書類の提出について	5.5.30		
報告第19号	一般財団法人飯田勤労者共済会の経営状況を説明する書類の提出について	5.5.30		
報告第20号	飯田清掃株式会社の経営状況を説明する書類の提出について	5.5.30		
報告第21号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	5.8.30		
報告第22号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	5.8.30		
報告第23号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	5.11.24		
報告第24号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	5.11.24		
報告第25号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	5.11.24		

(2)議会において執行した選挙・選任等

(令和５年１月から令和５年12月まで)

会　期	年月日	選挙・選任の内容
第１回定例会	R5.2.22	・監査委員の選任
		・固定資産評価審査委員会の委員の選任
		・人権擁護委員の候補者の推薦
		・飯田市南部財産区管理委員の選任
		・飯田市中央財産区管理委員の選任
		・飯田市長野原財産区管理委員の選任
		・飯田市上川路財産区管理委員の選任
		・飯田市山本区財産区管理委員の選任
第１回臨時会	R5.5.9	・飯田市松尾地区財産区管理委員の選任
		・飯田市駄科財産区管理委員の選任
		・飯田市千代財産区管理委員の選任
第２回定例会	R5.5.30	・農業委員会の委員の任命
第３回定例会	R5.8.30	・教育委員会の委員の任命
第４回定例会	R5.11.24	・固定資産評価審査委員会の委員の選任
		・飯田市千代財産区管理委員の選任

(3)委員会活動開催状況

(令和５年１月から令和５年12月まで)

	常任委員会							特別委員会	議会運営委員会	議会改革推進会議	広報広聴委員会	全員協議会
	総務委員会	社会文教委員会	産業建設委員会	予算決算委員会				リニア推進特別委員会				
				全体会	総務分科会	社会文教分科会	産業建設分科会					
委員会	9	8	11	14	10	12	11	8	22	13	13	−
協議会	10	13	15	−	−	−	−	−	−	−	−	12
計	19	21	26	14	10	12	11	8	22	13	13	12

(4)請願陳情

①請願議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上　程 年 月 日	議　決 年 月 日	議　決 結　果
総務	4請願 第4号	国に対し、再審制度の速やかな改正を求める意見書を提出願いたい	4.11.22	5.3.20	趣旨採択
社文	5請願 第1号	国に対し、「さらなる少人数学級推進と教育予算の増額」及び「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書を提出願いたい	5.5.30	5.6.26	採択
社文	5請願 第2号	県に対し、「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準とすること」を求める意見書を提出願いたい	5.5.30	5.6.26	採択
総務	5請願 第3号	国に対し、地方公共団体の財政需要を的確に把握し、これに必要な地方交付税等の一般財源総額を確保すること等を求める意見書を提出願いたい	5.8.30	5.9.25	採択

②陳情議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上　程 年 月 日	議　決 年 月 日	議　決 結　果
委員 会付 託なし	5陳情 第1号	地方創生臨時交付金を活用し、ＬＰガス料金上昇に対する直接的な負担軽減対策を求めたい			審議なし
委員 会付 託なし	5陳情 第2号	国に対し、普天間基地周辺の子どもたちを取り巻く空・水・土の安全の保障を求める意見書を提出願いたい			審議なし
産建	5陳情 第3号	国に対し、最低賃金法の改正と中小企業支援策の拡充を求める意見書を提出願いたい	5.2.22	5.3.20	不採択
委員 会付 託なし	5陳情 第4号	国に対し、適格請求書等保存方式（インボイス制度）の延期・見直しを求める意見書を提出願いたい			審議なし
社文	5陳情 第5号	飯田市立病院の基本理念「私たちは、地域の皆さんの健康を支え、信頼される医療を実践します」に基づき、また基本方針にある「安全・安心で良好な医療を提供します」に従い、安全安心で信頼される病院の運営を願う	5.8.30	5.12.20	趣旨採択
社文	5陳情 第6号	国に対し、「健康保険証」の廃止は行わず存続を求める意見書を提出願いたい	5.8.30	5.9.25	不採択
委員 会付 託なし	5陳情 第7号	年金制度における外国人への脱退一時金の是正を求める意見書を提出願いたい			審議なし

(5)定例会の質問事項
① 令和5年飯田市議会第1回定例会一般質問通告表

令和5年3月9日、10日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	古　川　仁 （日本共産党）	1　市の生活困窮者への対策について (1)　住む所を失った方への緊急的な対策について ①　行政の対応は ②　空いている市営住宅利用の考えは ③　緊急的な住宅支援が求められるが市の考えは 2　市指定のごみ袋について (1)　今後のごみ袋の在り方について ①　若年層への支援の考えは ②　ごみ袋料金設定の考えは
2	岡　田　倫　英 （会派きぼう）	1　公共施設の老朽化について (1)　水道施設について ①　水道料金改定に係る市民の声をどう受け止めているか ②　市民との対話を一層丁寧に重ねていく必要があるのではないか (2)　将来に向けた資産価値、市民サービスをどのように考えていくか ①　旧飯田市公民館を含む中央公園一帯はどうか ②　大平宿の展望はどうか 2　家庭教育支援の施策推進について (1)　議会が行った政策提案「子どもを見守り育む地域社会について」をどう受け止めたか (2)　市の施策展開は課題解決の方策として国の方針と合っているか (3)　今後想定される「こども計画」策定時に家庭教育支援施策を重点的に取り入れる考えはどうか
3	市　瀬　芳　明 （日本共産党）	1　ICT教育への取り組みと教育費について (1)　ICT教育の環境について ①　国の「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」への進捗は ア　市の進捗状況は イ　タブレット端末の更新の見通しは ウ　飯田市ICT教育情報サイトの運用状況は ②　学級閉鎖時等の活用について ア　オンライン授業の組み立ては イ　その他タブレット端末の有効活用は ③　教育現場の状況について ア　ICT支援員の配置状況は (2)　教育費について ①　奨学金への考え方は ア　飯田市奨学金貸与への考え方は イ　日本学生支援機構の奨学金に対する支援の考えは ②　通学補助の拡大の考えは ③　学校給食費への支援は
4	福　澤　克　憲 （会派きぼう）	1　国の地方財政計画、市の長期財政見通しから見た令和5年度予算の考え方について (1)　国の地方財政計画から見た飯田市予算の考え方は (2)　令和5年度予算編成からの長期財政見通しの修正の考え方は (3)　財政運営目標の指標となっている実質公債費比率の見込みは（令和4・5年度（単年度）） (4)　今後の方向性は 2　働くことを軸とする安心社会の実現に向けて (1)　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進について

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	福　澤　　克　憲	①　事業所訪問や実践型セミナー、個別相談、複数の事業所が合同して行う女性のキャリア教育等の取組状況は ②　ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定制度の導入は考えられないか ③　飯田市の契約「総合評価落札方式」について、労働賃金の適正な支払いやワーク・ライフ・バランスの取り組み、女性の働きやすい環境づくりに関する企業認証取得状況等も評価算定基準にすることはできないか ④　電子契約システムの導入時期は (2)　国の総合経済対策を受けての飯田市の考え方について ①　物価高騰・賃上げへの考え方は ②　円安を活かした地域の「稼ぐ力」の回復・強化の考え方は ③　「新しい資本主義」への考え方は ④　飯田市としての方向性は
5	小　林　　真　一 （　公　明　党　）	1　今後さらに進むであろう高齢化社会における課題について (1)　高齢化に伴うごみ出しの課題について ①　ごみ集積所の新設は ア　集積所を新設する場合の基準は イ　新設するための基準についての課題認識は ②　ごみ出しできない市民への対応は ア　実施している具体的な内容は イ　ごみ出しの対応における課題は ③　「生活支援サービス提供団体等への支援」の考え方、また思いは (2)　ごみ収集運搬業務の委託状況について ①　収集委託料についての考え方は ②　委託業者との意見交換などの取り組みは (3)　在宅介護者支援事業について ①　事業の目的は ②　事業の利用状況、また過去の予算執行残は ③　事業の目的に対し、市民の実態や要望に寄り添う対応は
6	永　井　　一　英 （　公　明　党　）	1　多様な子ども・子育て家庭への支援について (1)　学校へ通えない子どもたちへの支援について ①　県教育委員会、文部科学省の調査結果はともに、「2021年度に不登校だった児童生徒は過去最多」と昨年秋に報道された。飯田市内の小・中学校において、不登校になっている児童生徒の現状は。また、考察 ②　不登校の児童生徒の居場所として、学校以外の選択肢は何があるか。飯田市内の現状は。また、他市の先進事例は ③　2016年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が成立した。飯田市教育委員会の認識と取り組みは ④　飯田市内におけるフリースクールの現状は。また、飯田市の認識と支援の考え方は ⑤　八王子市は、拠点校として、不登校特例校「高尾山学園」を設置し学校へ通えない子どもたちへの支援に取り組んでいる。飯田市教育委員会の認識は (2)　特別な教育的ニーズを必要とする子どもへの支援について ①　八王子市立高尾山学園への入学希望者は、校内の適応指導教室にまず入級し、審査を経て転入学する。また、学園内に特別支援教室があり、必要な児童生徒に個別に支援をしている。飯田市の取り組みは ②　インクルーシブ教育の推進について ア　飯田市教育委員会は、本年度、国立特別支援教育総合研究所と連携しインクルーシブ教育の在り方について研究・実証していると聞く。現状と成果は
7	山　崎　　昌　伸 （新政いいだ）	1　「子育ち」を応援するまちづくりについて (1)　「子育ち」と「子育て」という言い回しについての市の認識は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	山　崎　　昌　伸	(2)「地域の子どもは地域で育てる」ための今後の取り組みについて、どのように考えているか ①「地域の子どもは地域で育てる」ためには、それに向けての市民の気運の醸成と行政からのメッセージが重要と考えるがどうか ② 具体的にどのように取り組むか 2 議会からの政策提言等の対応について (1) 2021(令和3)年3月に行った総務委員会からの提案についてどのように対応しているか ① 提案1の「好事例の横展開」、提案2の「成果や数値の見える化」について、どのように取り組んできたか ② 提案3の「大人も子どもも学びあう」について、提案後に新たに取り組んだことは何か ③ 提案4の「市民の誇りの醸成」について、具体的に取り組んだことは何 ④ (仮称)環境文化都市実現大会の定期開催を提案したが、どのように考えているか (2) 議会から執行機関側への、行政評価に基づく提言と委員会の所管事務調査に基づく提案について、どのように対応しているか
8	佐々木　博子 (会派みらい)	1 ともに創る新しいまちの豊かさについて (1) 飯田市内の入浴施設について ① ほっ湯アップルの家庭風呂について ア 利用状況及び現状認識は イ 家庭風呂の料金は最適と考えるか ② 誰ひとり取り残さない共生社会に向けて、ユニバーサルな入浴施設の必要性は (2) 男女共同参画社会における消防団・消防団員の在り方について ① 家庭における男性の役割の変化と消防団活動をどう考えるか ② 地域防災における女性リーダーの可能性は (3) 若年層が「住みたい」と思うまちづくりについて ① 市の考える「若年層が住みたいまち」とは ②「飯田らしさ」と「発展」のバランスをどう考えるか
9	小　平　　彰 (新政いいだ)	1 飯田市の人口増に向けた取り組みについて (1) 飯田市への移住施策について ① 空き家について ア 空き家の戸数は、また管理不全な空き家は何戸あるか イ 空き家率の推移はどのようになっているか ウ 空き家バンクの活用、補助の実績はどうか ② 飯田市UIJターンについて ア 職業紹介実績はどのようになっているか イ 補助金の活用状況はどうなっているか ウ 他の自治体と差別化した施策はあるか (2) 飯田市への交流人口・関係人口について ① 交流人口の状況はどのようになっているか ② 交流人口・関係人口の創出をどのように考えるか ア 魅力ある場所をどのように考えているか イ 飯田市に訪問してもらうためにどのような情報発信をしているか ウ 飯田市の施策は移住者のニーズを捉えたものになっているか
10	木　下　　德　康 (新政いいだ)	1「大学のあるまちづくり」について (1) 信州大学新学部誘致について現状は (2) 研究者や学生が学びたいと思えるまちとは (3) 学生にとって企業の魅力を高めていく必要があると思うがどうか (4) 政府の「都内大学定員増の容認」の方針について ① この方針をどう捉えたか ② 地方大学である信州大学の新学部設立への影響をどう捉えるか

No.	氏　名	項　目 ・ 要　旨
	木　下　　徳　康	2　新型コロナウイルス感染症の今後について (1)　現状と5類移行に備えるべきことは (2)　市として検証し、後世に伝えるべきと考えるがどうか ①　残すべき行政の資料とはどのようなものが考えられるか ②　行政としての資料や市民の罹患や活動自粛などの体験等も含めた記録を冊子にまとめてはどうか (3)　ワクチン接種の情報の保存期間5年は短くないか
11	関　島　　百　合 （会派みらい）	1　水道料金の改定について (1)　料金改定と市民生活への影響について ①　値上げをしなければいけない理由は ②　今日に至るまで料金改定をしなかった理由と諮問の内容は ③　値上げ対象は飯田市全域にわたるか ④　下水道使用料も値上げを行うか ⑤　上下水道の今後の経営見通しは ⑥　市民生活への影響をどのように考えているか 2　子育て支援について (1)　保育園で発生したオムツについて ①　持ち帰りを廃止して保育園で処分する動きがあるが、市の現状は ②　持ち帰りと保育園での処分のそれぞれのメリットとデメリットは ③　市の今後の方針は 3　ゲノム編集された農産物について (1)　市の考えは (2)　市が独自に進めている認証制度との関係性をどうとらえるか (3)　ゲノム編集されたトマトの苗が小学校や福祉施設へ無償で配布されることについて、打診があった際の市の対応は
12	竹　村　　圭　史 （会派きぼう）	1　新型コロナウイルス感染症5類移行に伴う5月８日以降の診療体制について (1)　新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類は5類への移行が決定されたが、今後の感染予想をどのように分析しているか (2)　飯田市立病院の現在の診療体制は (3)　5類移行後の診療体制について ①　国の方針は ②　国の方針に対する飯田市立病院としての考え方は (4)　この地域の診療体制の確保について 2　飯田市立動物園の所管の考え方について (1)　飯田市立動物園の設置目的は (2)　飯田市として飯田市立動物園の所管についてどのように考えているか (3)　「賑わいのあるまちづくり」に向けて ①　まちなか回遊の果たすべき役割は ②　まちなか回遊における飯田市立動物園の果たすべき役割は ③　まちなか回遊を進めるにあたり、戦略バスケットは本来の機能を十分発揮できているか (4)　飯田市立動物園に求められる役割は (5)　今後の所管の考え方について ①　飯田市立動物園の求められる役割をみたときに、所管替えの検討を考える必要があると思うが、市長の考えは

② 令和5年飯田市議会第2回定例会一般質問通告表

令和5年6月12日、13日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	福　澤　克　憲 （会派きぼう）	1　災害に備えた防災・減災対策の考え方について (1)　天竜川の状況について ①　治水対策事業を行った天竜川上流部川路・龍江地区の土砂堆積の状況は ②　天竜川のしゅんせつの状況は ③　防災ハザードマップの浸水区域作成時の河床状況と降雨条件の関係は (2)　地域においての防災訓練の実施状況は (3)　避難所指定されている学校施設の活用の考え方は (4)　学校安全総合支援事業の活用の考えは (5)　避難所のトイレ対策について ①　指定避難所の屋外トイレの改修状況は ②　災害配慮トイレの考え方は (6)　甚大な被害を想定した被災後の市役所体制について ①　さまざまな相談に対しての対応は ②　被害認定調査の対応は ③　り災証明書の発行の流れは ④　「被災者支援システム」の構築に向けた検討は (7)　今後の方向性は
2	宮　脇　邦　彦 （　公　明　党　）	1　人口減少社会を踏まえた地域活性化への取り組みについて (1)　研究を進めている地域通貨の活用について ①　地域通貨を市民への直接支援に結び付けるには ア　地域通貨の特徴とは イ　地域通貨は生き残り難いと言われているがどう捉えるか ウ　周辺地域との関係性はどう考えるか エ　導入時期をどう考えるか、その分析は オ　どのようなツール（種類及び道具）を使うのか ②　先進地事例に見る地域のまちづくりへの活用は ア　地域自治活動等における市民参加のツールとする試みは イ　関係人口増加へ活かす考え方は ③　地域通貨の実現に向けた市長の課題認識は ア　現状の研究から見える課題と今後の進め方は 2　健康寿命の延伸について (1)　帯状疱疹を未然に防ぐためには ①　帯状疱疹とはどのような病気か ②　帯状疱疹ワクチンの効果は ③　帯状疱疹ワクチンの周知方法は ④　帯状疱疹ワクチン接種の助成への考え方は ⑤　市長として、帯状疱疹ワクチン助成をどう進めるか
3	橋　爪　重　人 （新政いいだ）	1　農地法、下限面積廃止について (1)　下限面積の内容と廃止をどう捉えているか ①　廃止となった背景とこれまでの取り組みと今後の取り組みはどのように変わるか ア　下限面積のできた背景と、市の改正以前の取り組み内容はどうであったか イ　なぜ廃止となったか、その背景には何があるか ウ　廃止により改正された事務条件はあるか エ　現在取り組んでいる「人・農地プラン」との関わりはどうなったか

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	橋　爪　重　人	オ　廃止後2カ月間での相談事例や、市の取り組み方はどう変化したか 2　D-51型蒸気機関車の展示について (1)　飯田市としてどうしていくか ①　現在有効活用されていない状態をどう思うか ②　今後どうしていくか
4	岡　田　倫　英 （会派きぼう）	1　中学校部活動の地域移行について (1)　国のガイドラインが示されて半年経つが、飯田市教育委員会はどう検討してきたか ①　地域移行の目的は明確にされてきているか ②　生徒と保護者、学校、スポーツ・文化芸術関係者との認識共有はどう (2)　運動が苦手、習いごとがあって忙しいといった生徒をどう受け止めていくか (3)　トップクラスを目指す環境はどのようになっていくか (4)　「ジブン・チャレンジ」などこれまでの活動を生かし、飯田市に合った仕組みを構築していく考えはどうか 2　飯田市立動物園の環境整備について (1)　開園70周年の節目を機に重要な施設だと再認識されてきているが、施設・設備の老朽化に対する市民の反響はどうか (2)　環境整備を進める上でふるさと納税、クラウドファンディングなどの財源確保策は検討してきたか (3)　休日の駐車場不足が課題だと捉えるが、どう対応していくか
5	市　瀬　芳　明 （日本共産党）	1　市民総健康を目指す取り組みについて (1)　市民の意識に関する基礎世論調査結果をどう活かしていくか ①　健康に関して「どちらかといえば健康」という回答が多いが、心・身の健康の考え方は (2)　出前健康講座の利用状況について ①　企業を対象としているが活用方法をどのように考えるか ②　対象者が受講してからの意識の変化は (3)　健康寿命の延伸をどう考えるか ①　介護予防について ア　健康ポイントの周知は イ　事業展開は ②　若年層からの健康づくりの考えは ア　自転車による健康づくりの推進は イ　ランニングコース等の整備の考えは 2　マイナンバーカードについて (1)　現在の飯田市の状況はどうなっているか ①　現在の交付率は ②　取得に関する手続きは (2)　個人情報保護をどのように考えるか ①　飯田市としての取り組みはあるか ②　今後の注意点は
6	永　井　一　英 （公明党）	1　「こども政策」の新たな展開について (1)　子ども・子育て施策に関する経緯と、国が進めようとしている「こども政策」の新たな展開の背景と目的は。また、「こども政策」の考え方と概要は (2)　飯田市が今まで行ってきた取り組みや体制に変更はあるか。また、新たに取り組むことはあるか 2　子どもの医療費について (1)　現物給付を進めてきた経緯があるが、現在、子どもが医療機関を受診又は入院した場合に、窓口での医療費の支払いはどうなっているか (2)　国の国民健康保険国庫負担金等の減額調整措置について ①　医療費に占める公費の割合と減額調整措置の対象となる公費は

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	永　井　一　英	②　飯田市における減額調整額は (3)　受給者負担について ①　飯田市在住の子どもに係る受給者負担金は、レセプトごとに現在500円となっている。500円を飯田市が全額負担した場合、財政負担はどのくらいか。またその場合、国・県などから補助はあるか ②　下伊那郡内の町村在住の子どもに係る受給者負担金は、飯田市と同じか (4)　子どもの医療費を現物給付とし、かつ、受給者負担も求めないとした場合について ①　課題は何か ②　子どもの医療費に対して行政が助成することについて、市長はどう考えるか
7	西　森　六　三 （会派きぼう）	1　公共施設マネジメントの現状と課題について (1)　2020年から2029年までの10年間で行われている公共施設マネジメントの第2段階の進捗状況は (2)　公共施設（建物）に関する各地区での検討について ①　これまでの各地区での検討における顕在化した課題や主な意見は ②　地域住民や関係団体と「目的別検討会議」及び「地域別検討会議」を行い地域の問題解決を図るとあるが、その実践例は (3)　事後保全型施設について ①　事後保全型に区分された施設の措置は ②　取り壊しが決定しても措置されない施設が見受けられるが、優先順をどう考えるか (4)　指定管理料の考え方は (5)　公共施設に関する市民の理解をどのように進めていくか 2　自転車に関する事業の現状と課題について (1)　環境や観光など様々な視点があるなかで、これからどの分野を重点施策として取り組んでいくか (2)　自転車ツーリングの受け入れ態勢の現状について ①　電車による移動の現状と課題は ②　自転車で直接乗り入れが困難な路線（道路不通区間）への認識は (3)　自転車によるイベントの経済効果について ①　地域の経済波及につながる取り組みの考えは
8	筒　井　誠　逸 （新政いいだ）	1　土地の有効利用の促進について (1)　農地の利用の現状と将来はどうか ①　現状の飯田市の農地面積と遊休農地の割合は ②　現在の就農人口の4割が75歳以上と聞いているが、10年後の予想遊休農地の割合は ③　国土利用計画法第8条に規定される第3次飯田市計画と飯田農業振興地域整備計画について ア　農地中間管理機構とはどんな組織か。又、飯田市での活用状況と具体的な例は イ　農地集約の現況はどの位進んでいるか ウ　第3次飯田市計画による土地情報システムの確立はできたか。又、実際の検索方法は ④　人・農地プランに変わる「地域計画」（目標地図）の策定状況はどうか ア　工程表では今年3月までとなっているが進捗状況は イ　今後の予定は ウ　策定にあたっては、様々な立場の人の視点も入れた方が良いと思うがどうか 2　農地転用について (1)　飯田市で農地転用が難しいのはなぜか ①　飯田市と高森町の農地転用の違いは ア　なぜ飯田市は転用が難しいか

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	筒　井　　誠　逸	イ　市長としての見解は 　　　② 市のリニアビジョンにおける三重心の1つの「交流重心」の中の「研究開発型企業・機関」の誘致の進め方は
9	小　林　　真　一 （　公　明　党　）	1　観光振興について 　(1) 丘の上をドライブインとした取り組みについて 　　① 現状と課題は 　　　ア　観光客の反応はどうか 　　　イ　観光客を受け入れる事業者の反応はどうか 　　　ウ　想定していたドライブインとしての機能は十分果たせているか 　　② 現状は団体客の受け入れが主体であると認識するが、個人客への対応も必要と考えるがどうか 　(2) サステイナブルツーリズムについて 　　① グリーンツーリズム、エコツーリズムとの違い、また関係性や関連性は 　　② 飯田市の考え方と今後の取り組みと進め方は 　　③ サステイナブルツーリズムの考え方とリニアデザインノートにおける「人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間」は親和性が高いと考えるが、今後の取り組みは 　　④ サステイナブルツーリズムの視点から、本物体験やインバウンドへの対応として、エアビーアンドビージャパンとの連携協定が今後更に重要になると考えるが、取り組みの現状は 　　⑤ サステイナブルツーリズムの視点から、周遊滞在型観光の考え方と南信州圏域との連携などの広域的な視点をどう考えるか 　　　ア　周遊滞在型観光の考え方として広域的な視点は持っているか 　　　イ　周遊ポイントを絞った取り組みとして、サイクルツーリズムがサステイナブルツーリズム、またエコツーリズムに有効と考えるが取り組みは 　　　ウ　原風景を活用した広域的な周遊観光の視点としてオートバイによる観光が有効と考えるがどうか 　(3) 観光振興における行政の関わり方としてさまざまなケースが考えられるが、取り組みの方向性は 　　① 飯田市が財政投入、出資している団体との関わりは 　　② 民間事業者との関わりは 　　③ 観光資源を活用しようとする地域自治組織との関わりは 　　④ 観光による地域活性化のための支援をどう考えるか
10	下　平　　恒　男 （新政いいだ）	1　これからの地域コミュニティーのあり方について 　(1) まちづくり組織の現状について 　　① 現在の課題と今後の方向性は 　　② 役員の負担軽減に向けた取り組みの状況は 　(2) 住民全員で組織する地域コミュニティーについて 　　① 組合未加入者の状況について 　　　ア　飯田市全体と各地区の組合加入状況は 　　　イ　未加入者への飯田市としての対応は 　　　ウ　未加入者の地域活動への参加状況は 　　② 未加入者も含めた組織再編は可能であるか 2　建設部関連の地元要望への対応について 　(1) 改良・補修箇所等報告書の扱いについて 　　① 要望取りまとめの時期と方法は 　　② 直近数年の要望数と対応状況は 　　③ データ提出による手法に変更可能であるか
11	木　下　　德　康 （新政いいだ）	1　給食費集金の公会計制度への移行について 　(1) 現行の私会計における教職員の負担は 　(2) 他市の公会計移行の状況と飯田市の取り組み状況は

<table>
<tr><th>No.</th><th>氏　名</th><th>項 目 ・ 要 旨</th></tr>
<tr><td></td><td>木　下　徳　康</td><td>(3) 給食費の無償化を導入している自治体があるが、市はどう捉えているか
2 小中学校義務教育期間の学校教育費等について
(1) 学校教育費等の保護者負担や補助の現状は
(2) 地域で子どもを育てるという観点や若者定住の観点から、今後の学校教育費等の負担の考えは
3 フレイル予防について
(1) 前社会文教委員会の政策提案で、「ポイント制度」や「施策効果の検証」などを提案したが、現時点での取り組み、捉え方の状況は
(2) 今後の取り組みは
① 社会的フレイルの予防、克服することは地域コミュニティーの醸成にとっても重要と考えるがどうか
② ポイント制度のデジタル化への準備の考え方は</td></tr>
<tr><td>12</td><td>関　島　百　合
（会派みらい）</td><td>1 地域の自治とコミュニティーについて
(1) まちづくり委員会の現状について
① 組合への加入状況と地域別の傾向は
② 役員選出の課題をどう捉えているか
(2) 地域コミュニティーへの認識について
① 高齢者クラブや婦人会、赤十字奉仕団など既存団体の現状と課題をどう捉えるか
② 既存団体の歴史を残していくことについてどう考えるか
③ 地縁でない新しいコミュニティーをどう捉えるか
(3) まちづくり委員会をはじめとする各種団体の負担軽減や担い手育成は
2 風越公園について
(1) 県からどのように移管されているか
(2) 風越公園の都市計画変更の手続きはどのようになっているか
(3) 役割は
(4) 公園の再整備は</td></tr>
<tr><td>13</td><td>清　水　優一郎
（新政いいだ）</td><td>1 人口減少時代にあっても「くらし豊かに住み続けられる飯田」にするためには
(1) 人口減少社会にどのように対応していくか
① 飯田市人口ビジョンの状況は
② 人口減少、少子高齢化がもたらす地域社会への影響や問題をどのように解決に導いていくか
(2) 少子化における子どもの学校教育環境について
① 「これからの学校のあり方審議会」の設置目的と審議状況は
② 保護者アンケートの結果とその捉えは
③ 複式学級の長所と短所は
④ 各地区の出生数を把握し、今後の児童生徒数の予測は立てられているか
⑤ 子どもの教育環境の充実のため、保護者を中心とした学校区ごとのあり方の検討が必要ではないか</td></tr>
<tr><td>14</td><td>小　平　彰
（新政いいだ）</td><td>1 飯田市の子育て環境・教育について
(1) 未就学児について
① 保育所等利用希望者が希望の園に行けているか
② 保育所等の配置はどのように考えていくか。また、保育施設長寿命化計画はどう進めるか
③ 保護者との通常と緊急時の連絡体制はどのようにしているか
(2) 小・中学生について
① ICTを活用した授業について
ア 授業への活用状況はどうか。また、どのような授業に活用しているか
イ 効果はどのようなものがあるか
ウ 教員の指導の仕方にどのような変化があったか</td></tr>
</table>

No.	氏　名	項　目 ・ 要　旨
	小　平　彰	②　中学生の部活動地域移行について ア　国のガイドラインの「移行に向けた環境整備」に市はどのように取り組むか イ　地域移行後の運営主体はどうなるか。また、保護者の負担はどうなるか (3)　子育て支援について ①　飯田市の放課後児童クラブは足りているか。また、稼働率はどうか ②　不登校児童生徒への支援について、中間教室、びーいんぐ及び民間のフリースクールの活用をどう考えるか
15	古　川　仁 （日本共産党）	1　市による交通弱者への支援について (1)　高齢者で免許を自主的に返納された方等への支援について ①　令和3年第4回定例会における代表質問への答弁で乗り合いタクシーに関して「運行エリア拡大も含め検討する」とあったが進捗状況は ②　市長公約で「移動に困難を伴う方を地域で助け合う仕組みを充実」とあるが具体的には ③　行政として交通弱者への支援をどう考えるか 2　古布・古着の回収・活用について (1)　古布・古着の回収・活用について「前向きに受け止める」とあったが進捗状況 ①　今後の計画は
16	山　崎　昌　伸 （新政いいだ）	1　宝島社の「『住みたい田舎ベストランキング』5万人以上10万人未満のまち」総合部門第1位を、今後のまちづくりにどう活かすか (1)　今年1月に発表になった宝島社のランキングと、4月に新聞報道されたSMOUT（カヤック社の運営する移住に関心のある人と地域とを結ぶ仲介サイトで、2022年度の人気移住地域は、伊那市が1位で飯田市は10位）の結果についてどう捉えているか ①　宝島社のランキングとSMOUTのランキングでは評価の仕方も数値の扱い方も異なるが、移住に関心のある人の意識がより反映されているのはSMOUTの方と捉えてよいか ②　報道では2022年度の伊那市への移住者が2年連続で最多となり、社会動態も転入超過になったとされている。この状況はSMOUTの結果と無関係ではないと考えられるが、どう捉えているか ③　SMOUTの結果についてどのように分析しているか (2)　SMOUTで伊那市が1位となった結果について「環境や社会に配慮した消費行動など『エシカル（倫理的）な生活』に関心がある20～30代の支持を集めた。」とされている。とすれば、今後更に環境文化都市の構築に力を注ぐ必要があるのでは ①　SMOUTの結果からは、移住促進には環境への取り組みが重要と考えられるが、環境文化都市を標榜する飯田市としてどう捉えているか ②　環境文化都市のひとつのあり方として、移住に関心のある人に環境面で訴えかけるにはどうすべきかを意識した取り組みが必要ではないか ③　エシカル（倫理的、環境保全や社会貢献）に対する市民の理解を広げて、日常的にエシカル消費（環境や社会問題の解決に貢献できる商品を購入し、そうでない商品は購入しないという消費行動）が行われるまちづくりに積極的に取り組むべきではないか

③ 令和5年飯田市議会第3回定例会一般質問通告表

令和5年9月14日、15日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	小　平　彰 （新政いいだ）	1　飯田市立病院の医療対応について (1)　外来・入院患者の状況について ①　コロナ前とコロナ後で比較し、年間の外来、入院患者数はどうか ②　コロナ患者の状況はどうか ③　コロナ患者以外の一般外来の対応はどうだったか (2)　診療及び看護体制について ①　コロナ感染流行期を通して医師また看護師の増減はどうだったか ②　診療看護師は何名いるか。また男性看護師の割合はどうなっているか ③　医師・看護師の不足はないか (3)　市民から頼られる病院として病院機能評価はどうか 2　飯田市の情報発信や情報提供について (1)　飯田市公式LINE「通報システム」について ①　登録者数は何人で情報数はどのくらいあったか ②　通報により効果はどのような状態か (2)　飯田市からの情報発信について ①　どのようなものがあるか ②　個人からの飯田市の情報発信を増やしていく考えはないか
2	宮　脇　邦　彦 （公　明　党）	1　子どもまんなか社会への取り組みについて (1)　子どもの放課後の居場所づくりについて ①　放課後の居場所は、どうあると良いか ア　子どもの居場所はどうあるべきか、その認識は イ　児童クラブ等への待機児童の有無は ②　児童館、児童クラブ、児童センターについて ア　各施設の違いと、児童支援員及び補助員の職務の違いはあるか イ　児童クラブ等への入所児童の推移と今後の需要予測は ③　インクルーシブな児童クラブ等への取り組みについて ア　現状、職員の配置人数は足りているか。スクールソーシャルワーカー等の採用検討は イ　職員の力量向上への取り組みは ④　施設の修繕について ア　運動エリアの暑さ対策と学習環境の整備は イ　トイレの設置基準と今後の方向性は（洋式化、設置数の見直し等） ウ　修繕要望の進捗率と予算確保への取り組みは ⑤　児童クラブ等での事務処理へDX活用の方向性は ⑥　小学校と児童クラブ等との連携はどうあるべきか ⑦　児童クラブ等の受入れ年齢をどう考察し、インクルーシブな児童クラブ等へどう進めるか
3	井　坪　隆 （会派みらい）	1　市長の市政経営について (1)　「2050年、日本一住みたいまち」になるために、最優先として捉える政策は何か 2　報道に見る市長の発言について (1)　信州大学の新学部設置見送りは、“想定内”か (2)　リニア時代のまちづくりに「街を二つつくらない」と示していたが、土地利用計画の見直しにあたっては“かつての認識”か (3)　新飯田文化会館の現地改築は、“優先度は高くない”か

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
4	筒　井　誠　逸 （新政いいだ）	1　大学誘致について (1)　信大新学部誘致の現況は ①　情報系学部の新設構想が無くなった点について ア　市としてどう受けとめているか イ　今までの誘致活動で反省すべき点はあるか ②　今後の誘致をどうするか ア　方向性をどう考えているか イ　新学部誘致推進協議会の組織をどうするか ウ　市民として協力できる事はあるか 2　小･中学校の給食費について (1)　公会計化について ①　導入に向けた工程表は出来ているか ア　体制整備に必要な経費は イ　DXを活用した公会計化や合理化は進めているか (2)　無償化について ①　令和4年度の対象児童･生徒数と食材にかかった金額は ②　保護者の年間負担額は（生徒1人当たりの額） ③　教職員の負担額は ④　無償化について市の考え方は ⑤　今後の予定は
5	木　下　徳　康 （新政いいだ）	1　フレイル予防について (1)　前社会文教委員会からの政策提案について、現時点での取り組み、捉え方の状況は ①　「フレイルという言葉と概念の周知」はどうか ②　「フレイル予防の方法」、「ポイント制度」は ア　教室等による予防やポイント付与の現状は イ　サポーターの活動は ウ　予防のメニューはどのようなものがあるか エ　ポイントのデジタル化は ③　「施策効果の検証」は (2)　今後の取り組みは ①　社会的フレイルを予防、克服することは地域コミュニティーの醸成にとっても重要と考えるがどうか ②　予防システムのデジタル化への準備や考え方は 2　デジタル化と地域通貨について (1)　デジタル化する意味は ①　庁内の仕事の効率化に加え、市民の利便性向上もあると思うがどうか ②　アナログとデジタルを併用することを効率の点からどう考えるか ③　デジタル化は市民の楽しさに貢献できるか (2)　地域通貨の検討状況は
6	市　瀬　芳　明 （日本共産党）	1　環境文化都市としての取り組みについて (1)　GX（グリーントランスフォーメーション）に向けた取り組みは ①　現在の庁内における取り組みは ア　最新の二酸化炭素（温室効果ガス）の排出量は イ　総量の目標値と基準年度からの削減率は ウ　節電の取り組みは エ　木質バイオマスの導入状況は オ　電気自動車を導入してのメリットとデメリットは ②　再生可能エネルギーについて

No.	氏　名	項　目 ・ 要　旨
	市　瀬　芳　明	ア　市内にある再生可能エネルギー発電施設の設置状況は イ　発電施設の活用についてどのように考えるか ウ　GXを推進する上で現状の取り組みを十分と考えるか ③　市長が考えるGXとは ④　GXでどのようなまちづくりを目指すか 2　マイナンバーカードについて (1)　飯田市の現状はどうか ①　医療機関等での不具合は無いか ②　国では登録情報の確認を個人で行うよう告知しているが、個別の相談はあるか ③　個別データの精査における事務量増が負担にならないか
7	福　澤　克　憲 （会派きぼう）	1　飯田市の空家等対策の考え方について (1)　管理不全な空き家の解消に向けて ①　「特定空家等」「準特定空家等」の認定、解消の状況は ②　「特定空家等」について、助言・指導、勧告、命令、代執行の状況は ③　飯田市特定空家等解体補助金の交付状況は ④　「特定空家等」「準特定空家等」について、緊急安全措置の実施、軽微な措置の命令、軽微な措置の代執行の状況は ⑤　空家等対策の推進に関する特別措置法の一部を改正する法律の施行を見据えた今後の方向性は (2)　空き家の活用・流通の促進状況について ①　空き家バンクの活用状況は ②　空き家バンク関連補助制度（空家環境整備・空家改修・子育て世帯引越費用補助金）の活用状況は ③　中心市街地、中山間地域における空き家の活用状況は ④　今後の方向性は (3)　財政上・税制上の措置について ①　法第15条に示されている国県等の措置状況は ②　京都市が導入予定としている「非居住住宅利活用促進税」（法定外普通税）をどのように受け止めるか ③　今後の方向性は
8	岡　田　倫　英 （会派きぼう）	1　大学誘致活動の今後について (1)　信州大学の情報系人材養成を焦点としてきた大学誘致活動が仕切り直しとなったが、誘致実現に向ける熱意はどうか ①　GX(グリーントランスフォーメーション)が新たな最有力プランという認識か ②　信州大学、長野県との協議はどのような状況か (2)　市民の意識が低下しないよう、ロードマップと進捗状況を示していく必要があると考えるがどうか 2　デジタル化の推進について (1)　急速に台頭してきた生成AIについて ①　小中学校ではどのような指導をしてきたか ②　庁内ではどのように扱っているか (2)　庁内DXについて ①　市のホームページは市民が情報を入手しやすい検索システムになっているか ②　職員の業務負担を軽減する効果は出ているか (3)　地域課題解決へのDX活用について ①　飯田市のDX推進方針は行政事務の表題となっているが、地域課題解決にDXを活用していく考えはあるか

No.	氏　名	項目・要旨
9	橋　爪　重　人 （新政いいだ）	1　農産物のブランド化について (1)　現状と課題について ①　地域ブランドの取り組みはどうなっているか ア　ブランド化の現状は イ　ブランド化につなげるための課題は何か (2)　ブランド化に必要な要件について ①　地域性と生産量について ア　ブランド化をするためには地域と何らかの関連性(自然、歴史、風土、文化的要件)を有する特定の商品生産が必要だと思うがどうか イ　生産量の確保、価値の見える化についてはどうか ウ　市内各地で特色ある農産物の生産に取り組んでおり、PR活動は特に重要と考えるがどうか (3)　地域に与える影響について ①　ブランド化の効果について ア　農産物のブランド化により価格の安定は元より、地域のまとまりや知名度の向上、観光客の増加、地域の活性化にもつながっていくと思うがどうか (4)　今後の方向性について ①　継続・発展していく取り組み方は ア　農産物のブランド化を発展強化させていくためにどう考えているか
10	西　森　六　三 （会派きぼう）	1　災害に耐えうる強靭な主要道路整備の現状と計画について (1)　国道418号の現状と計画について ①　未改良区間(南信濃南和田名古山地籍)について ア　令和5年6月の豪雨災害において通行止めとなった場所であり、未改良区間でもある名古山地籍の通行の安全確保の現状と対策及び今後の改良計画は (2)　国道152号の現状及び計画について ①　三遠南信自動車道(現道活用区間)のうち、バイパス改良以外の区間について ア　令和2年7月の豪雨災害及び令和5年6月の豪雨災害において、通行止め及び片側交互通行となった場所とその期間は イ　この区間における2車線化は済んでいるものの狭小区間(向万場黒川前間)の再改良が必要と考えるが、市の考えは ウ　災害時の物資運搬等の大事な道路であるこの区間を高速道路規格にする必要性を感じているが、市の考えは エ　現道区間は、河川と山腹に挟まれた構造となっている。護岸の安全確認と山腹の安全確認はどのように行っているのか。また、早期改良が必要とされる個所は在るのか ②　未改良区間(上村程野から大鹿村区間)について ア　代替道路である市道上村4号蛇洞林道における治山工事の現状と市道の通行止め解消の目途は イ　上村程野矢筈トンネル分岐部より大鹿村への国道152号は車の通れる道への改良の必要性を感じるが、市の考えは (3)　県道251号上飯田線の現状と計画について ①　未改良区間(喬木村氏乗小川間)について ア　度々通行止めとなり、1車線で普通車のすれ違いにも苦慮する現状にある。飯田市民の利用度の高い路線のため早期改良が必要と思われるが、市の考えは 2　飯田市が関わる道路関連の促進期成同盟会の在り方について (1)　飯田下伊那広域の連携をより強くするための再編の進捗状況は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
11	佐々木　博子 （会派みらい）	1　飯田市の子育て環境について (1)　保育士の労働環境をどう改善していくか (2)　子育て支援施設の充実について ①　飯田市こども発達センターひまわりの今後のあり方は ②　雨の日に子どもが遊べる施設の充実をどう考えるか 2　飯田市内の屋外広告物について (1)　現状認識は (2)　現行の制限において課題はあるか (3)　屋外広告物を活かした景観まちづくりについてどう考えるか (4)　屋外広告物行政を今後どう推進していくか 3　飯田らしい学びの場のデザインについて (1)　私立大学・高等専門学校の誘致についての考えは (2)　大学誘致・大学のあるまちづくりにリカレント教育の視点を取り入れていく可能性は (3)　学輪IIDAの今後の展開は
12	関島　百合 （会派みらい）	1　ひきこもり、不登校に対する地域の取り組みについて (1)　ひきこもり、不登校などの重層的支援に関する市の取り組みは (2)　松尾地区の取り組みは (3)　フリースクールへの市の関わりは 2　「香害」をはじめとする化学物質過敏症について (1)　実態把握は ①　保育園等や小中学校ではどうか ②　その他の公共施設ではどうか (2)　「香害」や化学物質過敏症に苦しむ市民への対策は (3)　「香害」や化学物質過敏症への理解促進に向けた啓発、情報発信などの取り組みは 3　「医療的ケア児」等について (1)　支援の課題と今後の見通しは ①　「医療的ケア児」等が利用できる施設は足りているか ②　高齢化する親への負担軽減は ③　喫緊の課題と今後の見通しは
13	小林　真一 （公明党）	1　市長が考えるこれからのいいだ未来デザイン2028について (1)　GX（グリーントランスフォーメーション）について ①　市長の考えるGXとは何か ②　GXを進めるためのDX（デジタルトランスフォーメーション）の必要性をどう考えるか ③　GXにつながると思われる現状の主な取り組みは (2)　環境文化都市について ①　市における環境文化都市の位置づけ、また考え方は ②　市民目線で行動変容へつなげるには (3)　グリーンリカバリーについて ①　グリーンリカバリーの考え方は ②　第1次産業のうち、農業及び林業の現状と課題は (4)　これからのいいだ未来デザイン2028とGXについて ①　いいだ未来デザイン2028にGXを反映させる考えは
14	清水　勇 （会派きぼう）	1　飯田市教育委員会施設等総合管理計画について (1)　計画の背景・目的等について ①　計画の背景・目的・計画概要の内容は

No.	氏　名	項目・要旨
	清　水　勇	ア　飯田市は、「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」をどのように生かし計画を策定したか イ　「第2次飯田市教育振興基本計画」はどのような計画か ウ　施設整備の基本的な方針は エ　「定期的な劣化状況調査」や「時代の変化に対応した施設環境の整備」、「法令等を踏まえた維持管理」の取り組みは (2)　学校施設の整備状況について ①　学校施設の目指すべき姿とは ア　学校施設の実態と老朽化の状況は イ　今後の施設整備の方針は ウ　時代の変化に対応した施設環境の整備の取り組み状況の現状は エ　令和3年から令和7年までの実施計画と取り組み状況は オ　遊具についての管理の考えは (3)　学校教育関連施設の目指すべき姿について ①　学校給食施設の今後の方向性は ア　施設の劣化状況は イ　時代の変化に対応した施設環境の整備状況は ウ　施設量の最適化に向けた取り組み状況は エ　令和3年から令和7年までの実施計画と取り組み状況は オ　丸山共同調理場の今後の考えは ②　教職員住宅の今後の方向性は ア　職員住宅の実態と入居状況は イ　維持管理費と家賃収入は ウ　施設数の最適化と点検・修繕の考えは エ　教職員住宅の他への活用の考えは (4)　社会教育関連施設の実態は ①　風越山麓研修センターについて ア　運営状況と活用状況は イ　施設の老朽化の現状と整備状況は ウ　今後利用者を増やす考えは エ　利用期間の変更の考えは オ　利用促進に向けた広報の在り方をどう考えるか

④-1 令和5年飯田市議会第4回定例会代表質問通告表

令和5年12月6日、7日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	山　崎　昌　伸 （新政いいだ）	1　市長の市政経営のあり方と来年度予算編成について (1)　市長マニフェストで「私の決意」として「心かよう市政」とあるが、これはどのようなイメージか (2)　市長マニフェストに掲げた14分野128項目への取り組みを現段階でどう総括するか (3)　目標値の設定の際に重視していることは何か (4)　職員の市民への対応において気配り・気遣いは十分か 2　コロナ禍における行政の対応について (1)　足かけ4年にわたるコロナ禍の経験や教訓を、次の感染症パンデミックにどう生かすか ①　コロナ禍における行政としての対応をどのように総括しているか ②　社会的弱者と言われる人たちへの影響を詳細に把握分析しているか ③　医療機関やエッセンシャルワーカーへの影響の実態把握は十分か ④　観光事業者から「応援割宿泊」での返金が相次いだとのことだが、この実態は ⑤　地域コミュニティの希薄化についてどう把握しているか、どのように対応しているか 3　こども子育て政策について (1)　全国自治体アンケートで飯田市は、こども子育て政策で「効果を実感している施策がある」と回答しているが、どのような施策からどのような効果があったか (2)　こども基本法は、子どもに関わる政策に子どもの意見を反映させるよう、国や自治体に義務付けているが、具体的にどのように対応してきているか 4　市民が誇りをもてる環境文化都市の実現に向けて (1)　新・環境文化都市創造プランには「環境をテコにくらしと経済を再生していく」とあるが、この実現に向けて具体的にどう取り組む考えか (2)　来年度予算編成基本方針にはゼロカーボンシティ実現に向けて「脱炭素化への取組が全市民と共有できるように『見える化』を図る」とあるが、具体的にどうするか (3)　飯田女子高校生から環境への市の取り組みに対する提言があったが、具体的にはどのような提言がなされたか 5　防災・減災について (1)　コロナ禍は防災意識の変化にどのような影響を与えたか (2)　豪雨時の小中学校休校の判断をどうしているか (3)　防災・減災へのドローンの活用は進んでいるか 6　中心市街地の今後のあり方について (1)　豊橋技術科学大学の学生らからの「丘の上を歩いて暮らせるまちにしては」との提案をどのように受けとめているか (2)　「歩いて楽しめる『丘の上』の構築」に向けて、りんご並木や桜並木と飯田市立動物園をどう生かすか 7　自治体DXについて (1)　自治体DXのあり方について2025年度末までに国の基準に合わせる必要があるとのことだが、進捗状況は (2)　自治体DXを進める目的は何か
2	福　澤　克　憲 （会派きぼう）	1　市の総合政策について (1)　今後10年間の財政見通しから考える令和6年度予算の考え方は (2)　飯田市の目指す地域自治の姿について ①　地域自治組織の今後の方向性は ②　パワーアップ地域交付金を含む財源の検証は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	福　澤　克　憲	(3) 令和7年度までの時限措置となっている地方自治体にとって有利な起債の期限を見据えた公共施設の整備の考え方は (4) 更なる市民サービス向上のためのDXの推進、RPA導入の考え方は 2 リニア中央新幹線と三遠南信自動車道の開通を見据えたまちづくりについて (1) 広域的・全市的な観点に立った具体的な土地利用の方向性は (2) リニア駅前広場や高架下の民間活力の導入の考え方は (3) 交流拠点（天龍峡、遠山郷）のさらなる活用の考え方は (4) 全通を見据え産業団地等を含めた物流の考え方は (5) 交通弱者対策や中山間地域、市街地の交通、学生の利便性等を視野に入れた、持続可能な地域公共交通の考え方は 3 環境に配慮したまちづくりについて (1) ゼロカーボンシティ実現に向けての進捗状況は (2) 環境文化都市の実現に向けての市民意識の醸成は 4 活力ある産業振興と地域活性化について (1) 「地域内経済循環」の考え方は (2) 荒廃・遊休農地の活用の考え方は (3) 市への移住定住の促進の1つの施策として、農地付き空き家の活用の考え方は (4) 森林資源の活用の考え方は (5) 働くことを軸とする安心社会の実現に向けて ① 地域の雇用情勢をどのように分析しているか ② ワーク・ライフ・バランス実現に向けての取り組みは (6) 中心市街地の活性化について ① 中心市街地通行量調査の状況は ② 桜並木・中央公園・りんご並木・飯田市立動物園を中心とする区域の整備（旧飯田市公民館を含む）の考え方は 5 医療・福祉・介護・子育て環境の充実について (1) 医療・福祉・介護職場における人材確保の考え方は (2) 育児に係るさまざまな不安を軽減するため、子育て支援団体や医療機関との一層の連携の考えは 6 安全・安心なまちづくりについて (1) 市民要望の多い道路・河川の維持補修や雨水対策についての考え方は (2) 災害復旧事業においての直後の応急的対応から完全復旧までの国や県との連携の考え方は (3) 防災・減災、災害時対応を考えた地域コミュニティの考え方は
3	井　坪　隆 （会派みらい）	1 市長の公約について (1) 未来に向けて市政は変わったか (2) 「対話と現場主義」をどのように評価するか 2 飯田市総合計画「いいだ未来デザイン2028」の推進について (1) 展望した人口維持ができていないと判断した根拠は (2) 若者が住みたいまちを目指すなかで、人口が維持できないとする状況や、迎えた急激な高齢化社会にあっては、総合計画の見直し（時点修正）が必要ではないか (3) 「大学のあるまち」の実現は可能と考えるか 3 地域自治と行政の在り方について (1) 飯田市自治基本条例は、市民、行政、それぞれに理解が深まっていると考えるか (2) 地区の自治組織が抱える課題にどのように対応していくか
4	宮　脇　邦　彦 （公　明　党）	1 市政運営と来年度予算編成について (1) 経済と生活の再生をめざして ① 来年度へ向けて経済と生活の再生へ予算編成をどう考えるか

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	宮　脇　邦　彦	②　地域内経済循環の促進について、地域支え合いへ地域通貨をどう活かすか、飯田モデルの考え方は ③　地域産業の育成及び高付加価値化において、人材育成の機能を果たすビジネス拠点を設置する考えは ④　リニア・三遠南信時代の観光振興について、サステナブルツーリズムの視点も含めてどう描くか ⑤　来年度予算編成の中で、暮らしを支える社会基盤強化のため、人材への投資として注力した点は何か 2　誰もが安心して暮らせる社会の構築に向けて (1)　誰もが安心して暮らせる社会について ①　人口動態から見た実態を踏まえ、地域における女性の暮らしやすさ、生きやすさについて、市長はどう考えるか ②　地域性という視点から、ジェンダーギャップを克服するには何が必要か ③　女性が活躍できる環境づくりを進めるには、地域社会の方向性をどう描けばよいか (2)　高齢者を支える社会に向けて ①　高齢者福祉、介護の現場では、コミュニケーションの重要性が問われるが、寄り添う福祉とはどう考えるか ②　高齢化による社会的孤独・孤立について、市の実態と対応は (3)　障がい者を支える社会に向けて ①　「いいだ障がい福祉プラン2024」において、多様化への対応として、自立支援や重度障がい者の学びをどう進めるか (4)　地域自治の推進と支援について ①　まちづくり委員会等の地域コミュニティの弱体化について、どのような認識を持ち維持への支援を考えるか 3　子どもを産み育てやすい環境の充実について (1)　「結婚や出産・子育ての希望に寄り添うまち」について、市長の想いは (2)　家庭、子どもに対する支援の充実として、こどもまんなか社会へ向けた、困難を抱える子どもや子育て世帯への負担軽減につながる支援は (3)　不登校児童の実態と、当市の対応は (4)　小中連携・一貫教育へ、当市における新たな学校教育のあり方を、今後の飯田型キャリア教育、飯田型コミュニティスクールの方向性とともにどう描くか 4　山・里・街の魅力を高め、「ひと」の集まる地域づくりについて (1)　飯田市への人の流れをつくるには ①　基本構想段階に入りつつある新飯田文化会館について、そのコンセプトは ②　地域後継の人材への支援として、定住・移住促進、奨学金返還支援、テレワークを見据えたオフィス誘致、「ムトスぷらざ」における教育支援等について、その実績と今後の方向性は 5　暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり (1)　防災意識社会の構築に向けて ①　近年の激甚化災害を受け、防災訓練の必要性が高まる中、司令塔となる災害対策本部の庁舎内横断的な施策及び課題整理の現状は ②　避難所運営について、女性の参画拡大への取り組み状況は ③　消防団員の活動しやすい風土づくりへ、地元企業の理解促進へ向けた活動の進捗は (2)　リニア二次交通政策推進について ①　自動運転LEVEL2の現状を踏まえ、MaaSの活用など、見えてきた二次交通の現状と方向性は (3)　安心して暮らせる快適なまちづくり ①　生活道路の更なる安全性向上に向けて、スムーズな横断歩道（ゾーン30プラス）への社会実験で見えてきたものとは、更に、今後の全市展開をどう考えるか 6　SDGsと気候変動、環境問題への対応について
	宮　脇　邦　彦	(1)　来年度の予算編成の基本方針における「ゼロカーボンシティ実現に向けて」の内容に、どうSDGsの理念が落とし込まれているか　市長の考えは

No.	氏　名	項目・要旨
		(2) ゼロカーボンシティ実現へ向け、飯田市気候変動適応計画策定の進捗状況は (3) GX(グリーントランスフォーメーション)をまちづくりの中へどう取り入れ、活かすか、市長の考えは
5	市瀬芳明 (日本共産党)	1 若者が戻ってきたくなる飯田への取り組みについて (1) 今後の人口減少をどのように分析していくか ① 2020年の国勢調査を基にした分析から見えた課題は何か (2) 「いいだ未来デザイン2028」との連動をどう考えるか ① 来年度予算編成の基本方針の中で、若者への戦略は何か (3) 飯田に若者を引き付ける突き抜けたビジョンは 2 環境文化都市へ加速する取り組みについて (1) ごみの減量が課題とのことだが、取り組み状況は ① 3R(リサイクル、リユース、リデュース)から4R(+リペア)への考えは ② エシカル消費、フードロスをなくす取り組みをどのように考えるか ③ 生ごみの処理についての考えは (2) 「うごくる。」の取り組みをどう活かしていくか ① 大人への提言をどう受け止めたか (3) 生活の中で出来る地球環境への配慮とは ① ゼロカーボンへの取り組みを2050年より前倒しする考えは ② 太陽光コンソーシアムをどう考えているか 3 学校教育の取り組みと今後の展開について (1) 安心、安全な学校生活を送るために ① 教員の勤務環境は改善されてきているか ② 情報モラル教育への取り組みの状況は ③ 多様な不登校児童・生徒への対応は 4 地域を支える福祉の実現に向けて (1) 飯田らしい地域包括ケアとは ① 地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーターの配置をどう考えるか (2) 飯田市の生活を支える公共交通と移動困難者支援をどう考えているか (3) 難聴者支援をどのように考えるか 5 リニア関連について (1) 関係地区住民との対話はどのような状況か (2) 開通時期の遅れと駅周辺整備後の費用の在り方は 6 飯田の地形を活かした観光について (1) 飯田の地形に魅力を感じてもらい観光へつなげるための取り組みは ① ユニバーサルツーリズム・サイクルツーリズムへの取り組みは可能か ② エコパーク・ジオパークを活かしていくための取り組みの現状は ③ 「リーンスタートアップ」の手法は活かせるか

④-2 令和5年飯田市議会第4回定例会一般質問通告表

令和5年12月7日、8日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	古　川　仁 （日本共産党）	1　令和6年度予算編成の基本方針について (1)　基本目標6「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」ためには ①　結婚や出産の希望に寄り添う政策の実施の中で「婚姻に伴う新生活の経済的不安を解消する補助制度の拡充」とあるが現状は ②　出産の希望をかなえるための環境整備の推進は ア　妊婦への不安解消として不妊症・不育症へのサポートの継続とあるが、妊娠中のサポートは イ　「安心して子供を産むことができるよう産後のサポート体制の充実」とあるが現状は
2	岡　田　倫　英 （会派きぼう）	1　「若年層が『住みたい』と思うまちづくり」について (1)　令和5年度予算編成のテーマに位置づけたが、どのように取り組んできたか (2)　高校生の提言、活動が見受けられるがどのように捉えているか (3)　若年層の声を受け止める窓口を明確にしてはどうか 2　不登校児童・生徒への対応について (1)　他県の首長が「不登校の責任の大半は親にある」と発言して物議を醸したが、飯田市はどのような認識か (2)　県で信州型フリースクール認証制度が検討されているが、飯田市はどのように活用していくか (3)　「子ども第三の居場所」は多様な受け皿と情報の整理・発信が必要だと考えるがどうか
3	西　森　六　三 （会派きぼう）	1　第8次医療計画及び地域医療構想策定について (1)　2次医療圏域における飯田市立病院の役割について ①　地域医療支援病院及び基幹病院に課せられる役割について ア　紹介患者数及び逆紹介患者数の割合は地域医療支援病院の基準を満たしているか。また、特別初診料7,700円及び特別再診料3,300円の負担理由の理解度は イ　入院病床の機能的役割及び病床稼働率をふまえた、2025年から2030年までの病床数の考え方は ウ　検査及び検査機器シェアの観点から大型及び高額検査機器の更新計画は検討されているか エ　公的診療所等の医療機関への医師の派遣を含むバックアップ体制を考えなくてはいけないが、その対策は検討されているか オ　現在の診療科数を維持するための医師の確保は現在進行形の課題となっているが、その対応は十分にできているか カ　医師及び看護師等の働き方改革で労働時間の短縮が求められているが、それにより生じる空白時間を埋めるための方策及び人員確保は十分か キ　医療資源の最大限の活用から、「プラチナ人材」に対する雇用の考え方は (2)　2次医療圏域における地域独自の課題解決に向けた取り組みについて ①　医療的ケア児等への支援体制の構築に向けた検討の進捗状況は
4	下　平　恒　男 （新政いいだ）	1　公民館の設備充実と避難所としての役割について (1)　20地区公民館の空調設備の設置状況は ①　全体としての設置状況は ②　今後の設置計画とその基準は ③　災害時に炊き出しの役割を担う、調理室への設置状況と設置予定は (2)　20地区公民館の避難所としての役割は ①　4年ぶりに実施された、地震総合防災訓練の状況は ②　災害発生時の住民の避難先は ③　20地区公民館に求められる役割は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	下　平　恒　男	(3) 避難所としての使用も見込まれる、20地区公民館の設備充実に向けた今後の方向性は 2 農地法の下限面積撤廃後の農家資格の基準について (1) 令和5年4月の下限面積撤廃後の、農地の利用状況は ① 近年と比較して農地利用は増加しているか、また下限面積撤廃が要因となった事例はあるか (2) 農家資格の基準は ① 新規就農者や農地の借り入れ希望者への対応は ② 新しい基準のあり方は
5	清水優一郎 （新政いいだ）	1 令和5年度 議会による行政評価からの評価及び提言書「基本目標9」の評価について (1) 基本目標の評価への対応状況は (2) 戦略計画（年度戦略）の評価への対応状況は (3) 事務事業評価への対応状況は 2 3歳未満児の「育休退園」について (1) 3歳未満児を保育園に預ける母親が下の子を出産して育児休業を取得すると上の子が原則退園となる「育休退園制度」の飯田市における運用状況は (2) 課題をどう捉えているか (3) “出産・子育ての希望に寄り添うまち”として早急に改善できないか
6	小　林　真　一 （公　明　党）	1 時代とともに変化してきた喫煙環境のこれからについて (1) ここ数年のたばこの消費(喫煙率)やたばこ税の状況は ① 喫煙率の状況は ② たばこ税の税収の状況は (2) たばこ税の利用用途は ① たばこ税とは ② たばこ税の利用用途は (3) 喫煙環境の変化に伴う公共施設での喫煙の考え方は ① 公共施設での喫煙の考え方は ② 今後、新設や改築が予定されている施設や場所での喫煙の考え方は ア 文化会館の現状と新文化会館では イ 道の駅遠山郷では ウ リニア駅前空間では
7	永　井　一　英 （公　明　党）	1 管理不全な空き家と空き地について (1) 管理不全な空き家への対応は ① 令和5年6月14日に公布された空家等対策の推進に関する特別措置法の一部を改正する法律との整合を図るため、飯田市は、飯田市空家等の適切な管理及び活用に関する条例の一部を改正する条例を令和5年9月に公布した。これにより、市独自に取り組んできた「準特定空き家等」「緊急安全措置」「軽微な措置」などの対応はどうなるか ② 「特定空家等」及び「管理不全空家等」について、所有者が判明している空き家も法律・条例の対象となるか。また、所有者が不明な場合と所有者が判明している場合で対応は異なるか (2) 管理不全な空き地への対応は ① 令和4年第4回定例会において、所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法の一部を改正する法律が令和4年11月1日に施行されたことを受けて「所有者不明の土地への対応について」取り上げた。その後、市として取り組まれたことはあるか ② 令和5年3月、国土交通省から「空き家対策と所有者不明土地等対策の一体的・総合的推進について」の事務連絡があったと聞く。内容は ③ 管理不全な空き地への市の対応は
8	原　和　世 （会派みらい）	1 次年度に向けた地域の資源を活かすまちづくりについて (1) 地域の資源の価値を高める・活かす視点からまちづくりを考えることに関して ① 地域の資源を活かしたまちづくりから、活かすまちづくりの考え方は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	原　和　世	② 令和6年度予算編成の基本方針にはエビデンスに基づく政策立案(EBPM)の考え方が反映されたか ③ 子育て世代の居場所づくりに関し、地域の資源として飯田市立動物園を活かすことは ④ 若者の育成や地域の活力にスポーツは寄与すると思うが、そのための地域の資源としてスポーツ施設を活かすことは ⑤ 市民生活を支える建設・建築産業に関し、携わる技能労働者の減少に対し地域の資源として支えることは ⑥ 公務員の定年延長に関し、人材を活かすための考え方は

(6)本会議傍聴状況(R5)

会　　期	年　　月　　日	傍　聴　人　数
第１回定例会	令和5年2月22日	5
	令和5年3月9日	13
	令和5年3月10日	6
	令和5年3月20日	4
第１回臨時会	令和5年5月9日	3
	令和5年5月10日	0
第２回定例会	令和5年5月30日	5
	令和5年6月12日	13
	令和5年6月13日	30
	令和5年6月26日	4
第３回定例会	令和5年8月30日	4
	令和5年9月14日	10
	令和5年9月15日	26
	令和5年9月25日	3
第４回定例会	令和5年11月24日	3
	令和5年12月6日	14
	令和5年12月7日	28
	令和5年12月8日	13
	令和5年12月20日	3
計		187

4　市議会のあゆみ　（昭和46年から）

年	議　会　の　動　き
昭和46年 （1971年）	・飯田の常備消防を廃止し、飯田市・鼎町・上郷町消防組合へ全面移管するための規約改正を可決 ・議長　近松宗一、副議長　今村輝男を選出 ・昭和45年からはじまったコメの減反政策について多くの質問があった ・鼎、上郷との合併を積極的にすすめるよう質問があった ・中央自動車道の早期着工と四車線化を求める意見書を可決 ・中央道遺跡発掘に伴う埋蔵文化財を収蔵・展示する資料館の建設を求める質問があった ・日中国交回復を求める決議がされた ・アメリカのドル防衛措置に対して、地元産業の育成策をただす質問があった ・県下に先がけて「モーテル建築の規制に関する条例」を可決
昭和47年 （1972年）	・市民憲章の制定について質問があった ・市立病院運営審査特別委員会が市立病院の総合病院化を目指す必要性を検討 ・ＰＣＢなど公害の検査機能の充実を求める質問があった ・国民体育大会のラグビー等の競技を飯田において開催できるよう県に対して陳情を行った ・飯田市公民館の全面改築を求める陳情を採択 ・乱開発による環境破壊を防止して郷土の自然を守るため、「自然環境保全条例」を可決 ・中津川線の見通しと中央新幹線構想についての質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・松澤市政の誕生に伴い、その政治姿勢について、活発な質問がなされた ・中央自動車道関連の道路整備などを要望する質問があった ・福祉や教育施策充実を要望する質問があった
昭和48年 （1973年）	・老人医療費を無料化する対象年齢を69歳に引き下げる条例を制定 ・飯田に大学を設立すべきとする質問があった ・市議会議員一般選挙　議長　伊原悦雄、副議長　新井安男を選出 ・中央道開通後予想される騒音、排気ガス、電波障害等の公害対策について質問があった ・老朽化がすすむ小中学校の早期改築を求める質問があった ・オイルショック、物価高、モノ不足に対する対策を求める質問が集中 ・鼎、上郷との合併の推進を求める質問が集中 ・石油危機打開を求める意見書を可決 ・中央新幹線の早期建設と飯田への駅設置を求める意見書を可決

年	議　会　の　動　き
昭和49年 （1974年）	・一般会計予算に関して予算審査特別委員会で賛否の結論が出ず、「六月段階で措置されるよう市長に要望する」という議長斡旋で収拾され、可決 ・廃棄物の処理及び清掃に関する条例案に関して、し尿の収集料金の改定について意見が分かれ、最終日を迎えても結論が出ないため、議会の会期を延長して審査を行い、委員会修正案を可決 ・国保税率の決定にあたって、特別委員会の意見を踏まえ、市長が税率を下方修正する原案の訂正を行って可決 ・中央道開通を間近に控え、地場産業振興や観光振興策、あるいは公害対策を求める質問があった ・教育文化センター（新飯田市公民館）の建設構想について質問があった ・西部統合中学の計画について、地元対策をただす質問があった ・東中学校の火災で緊急に議会全員協議会が開かれた ・飯田市民の消費生活を守る条例を可決
昭和50年 （1975年）	・中央道の恵那山第二トンネルの早期着工を求める意見書を可決 ・中津川線の建設見通しをただす質問があった ・議長　伊原悦雄、副議長　林 昌平を選出 ・中央道開通に伴う飯田ＩＣ周辺の道路整備、公害対策、観光開発、産業振興策について多くの質問がされた ・窮迫した地方財政のもとでの市行政について集中論議が行われた ・開通した中央道の恵那山、網掛トンネル前後の40キロ規制の緩和を求める意見書を可決 ・風越高校の跡地利用について質問があった ・中央道の騒音公害対策や天竜峡付近の交通渋滞の解決を求める質問があった
昭和51年 （1976年）	・深夜から未明に及ぶ議会において、市議会議員の定数をそれまでの36名から30名に減少する条例が可決された。一口に「暁の本会議」と言われている ・市長が提案した国保税率の引上げ率が下方修正して可決 ・付加価値税新設に反対する意見書を可決 ・工場再配置補助金問題調査特別委員会と駅前観光案内所問題調査特別委員会を設置 ・市議会議員補欠選挙 ・ニホンカモシカの食害対策を求める意見書を可決 ・風越高校跡地利用に関して、警察署の建設と、東中学校の建設を求める陳情が出され、その対応で慎重な審査がされた ・メッキ工場の建設を求める質問があった

年	議　会　の　動　き
昭和52年 （1977年）	・老人医療費特別給付金の一部改正条例を修正可決 ・市議会議員一般選挙　議長　林 昌平、副議長　松江良夫を選出 ・広域水道の統合について質問があった ・飯田駅前再開発を求める質問があった ・円高不況対策について質問があった
昭和53年 （1978年）	・長姫高校の移転を想定した跡地利用について質問があった ・水道事業の統合が特別議決をもって可決 ・中央新幹線・中津川線建設促進特別委員会を設置 ・市立図書館の改築について質問があった ・合併促進特別委員会が設置された ・国道153号線バイパスの建設促進を求める意見書を可決 ・中学生が教師を殴打した事件について質問が集中
昭和54年 （1979年）	・老人医療費の無料化を65歳までとする条例を可決 ・国際児童年に対する取組について質問があった ・議長　林 昌平、副議長　片桐 勲を選出 ・地震防災対策強化地域の指定に関して質問があった ・駅前、知久町、銀座、本町など旧市街地の再開発について質問があった ・果樹共済制度の改善に関する意見書を可決 ・モデル定住圏の指定に関して質問があった ・県営野球場の誘致と総合運動公園の整備について質問があった ・一般消費税創設反対に関する意見書を可決 ・市立病院の総合病院化について質問があった
昭和55年 （1980年）	・国鉄経営再建促進特別措置法案の見直しを求める意見書を可決 ・中津川線を断念し、中央新幹線建設促進に乗換えたらどうかとする質問があった ・土地買収に関する土地開発公社の不手際等について調査特別委員会を設置 ・大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の自主的平和統一に関する意見書を可決 ・カモシカの食害防止策についての意見書を可決 ・西部統合中学の改築計画の進捗状況について質問があった ・土地開発公社をめぐる不祥事について質問が集中 ・アメリカシロヒトリの防除対策について質問があった ・Ｂ型肝炎への対策について質問があった ・市議会議員補欠選挙

年	議　会　の　動　き
昭和55年 （1980年）	・北方領土の返還促進などを求める意見書を可決 ・川路、龍江の天竜川流域の災害危険区域条例撤廃に関して質問があった
昭和56年 （1981年）	・地場産業振興センターの建設について質問があった ・市議会議員一般選挙　議長　林 昌平、副議長　松江良夫を選出 ・国際障害者年に際しての取組について質問があった ・中央新幹線、飯田線の強化、中津川線問題を審議する鉄道問題特別委員会を設置 ・婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条例の早期批准を求める意見書を可決 ・国鉄飯田線の合理化計画撤回等に関する意見書を可決 ・若者が定着できるよう企業誘致条例の復活を求める質問があった ・地元との調整が長引く西部統合中問題について、多くの質問があった
昭和57年 （1982年）	・臨時議会において、伊賀良と山本の両中学校を統合し、昭和60年に新たに西部中学校として発足することが可決 ・長姫高校跡地のあり方について質問があった ・統合中学の進捗状況について多くの質問があった ・Ａ議員の問責決議案が可決 ・市民の直接請求による西部統合中学校を廃止する条例案を否決 ・飯田市・鼎町合併協議会の設置を可決 ・飯田線の分割・民営化反対に関する意見書を可決
昭和58年 （1983年）	・市立病院の経営改善と改築について審査するため、病院問題特別委員会を設置 ・飯田市農協、中央農協の合併の推進について質問があった ・議長　松嶋健次、副議長　平沢與一を選出 ・農畜産物輸入自由化、枠拡大阻止に関する意見書を可決 ・大中型店の出店の動きと丘の上商店街の活性化について質問があった ・美術博物館の構想について質問があった ・コンピューター導入に伴うプライバシー保護の問題、あるいは情報公開制度について質問があった ・西部統合中学校の名称を「旭ヶ丘中学校」とする条例改正案を可決 ・10万都市実現のため、鼎、上郷との同時合併を求める質問があった ・9月28日の10号台風による災害復旧を検討するため、緊急に臨時議会が開かれ10号台風災害対策特別委員会と、天竜水系治水災害対策特別委員会を設置

年	議　会　の　動　き
昭和58年 （1983年）	・40人学級早期実現に関する意見書を可決した ・松くい虫対策について質問があった ・川路、龍江、竜丘の災害危険区域に関する今後の対応について質問があった
昭和59年 （1984年）	・三遠南信自動車道の実現の可能性について質問があった ・非核平和都市宣言を可決 ・人種差別撤廃条約の早期批准に関する意見書を可決 ・天竜川治水対策と天竜峡の景観保全について質問があった ・鼎町との合併に関する議案審議のため臨時議会が開かれ、12月1日の合併を全会一致で議決 ・市職員に60歳の定年制を導入する条例を可決 ・国鉄の分割民営化反対に関する意見書を可決 ・市議会議員の定数を31名に減少する条例を可決 ・新しい街づくりの中での鼎地区の位置付けについて質問があった ・天竜川の恒久的な治水対策を求める意見があった ・テクノハイランド構想について質問があった
昭和60年 （1985年）	・スパイクタイヤの粉じん公害について質問があった ・上郷町との早期合併を求める質問があった ・市議会議員一般選挙　議長　松嶋健次、副議長　平沢興一を選出 ・指紋押捺問題に関連して、外国人登録法の改正に関する意見書を可決 ・ゴミ焼却場移転問題について質問があった ・国鉄飯田線の分割民営化の動きに関して質問があった ・若者の定住対策と企業の育成策について質問があった ・路線バスの廃止問題が質問された ・鼎との合併一年後の評価について質問があった ・学校の「いじめ」問題について質問があった ・世界人形劇フェスティバル開催（1988年）に名乗りを上げることの質問があった ・婦人の地位向上のための施策について質問があった ・高齢化が一層すすむ中で、在宅福祉について質問があった
昭和61年 （1986年）	・上郷町との合併に向けた取組について質問があった ・コンピューター専門学校の建設費について質問があった ・市立病院の赤字と院長人事問題で特別委員会を設置 ・院長解任に伴う市立病院の正常化について質問があった ・大型間接税の導入は慎重に対処すべきという旨の意見書を可決

年	議　会　の　動　き
昭和61年 （1986年）	・中国引き揚げ孤児の定住援護策について質問があった ・美術博物館の性格と財源について質問があった ・公文書の公開条例と、個人情報の保護条例を可決 ・暴力団追放都市宣言を可決 ・飯田工業高校の移転に伴う跡地利用について質問があった
昭和62年 （1987年）	・売上げ税導入に反対する意見書を可決 ・美術博物館建設特別委員会を設置 ・中央新幹線、三遠南信自動車道の建設促進について質問があった ・エイズ対策について質問があった ・議長　平沢輿一、副議長　細田直彦を選出 ・屋外広告物に係る環境美化等に関する条例を可決 ・老人福祉の中間施設の計画について質問があった ・市政50周年記念事業として、中学生による子ども議会が開かれた ・市立病院の移転決定と、地元対策について質問があった ・世界人形劇フェスティバルの準備状況と、シャルルヴィル・メジェール市との姉妹都市締結について質問がされた ・中央新幹線の飯田経由と駅舎設置に関する決議を行った ・東中学校の教師死亡に関して質問があった ・人形劇場の入札が保留になったことについて質問があった
昭和63年 （1988年）	・フランスのシャルルヴィル・メジェール市と国際友好都市の締結をすることを可決 ・美術博物館の職員体制や、運営について多くの質問があった ・三遠南信自動車道の竜東地域にインターチェンジを求める質問があった ・新しい市立病院の整備方針（マスタープラン）を了承 ・上郷町との合併協議30項目を了承 ・天竜川治水対策、四者協議の結論を了承 ・ギフチョウの保護対策について質問があった ・市議会議員補欠選挙　副議長　関島一郎を選出 ・コメの市場開放阻止に関する意見書を可決 ・保育園の空き室を託老所にする質問があった
平成元年 （1989年）	・消費税導入に関して賛成、反対の論議が集中 ・リニア新幹線が停まるまちづくりについて質問があった ・市議会議員一般選挙　議長　塩澤 昭、副議長　竹村仁實を選出 ・土曜閉庁関連条例を可決 ・新市立病院建設の基本計画を了承

年	議　会　の　動　き
平成元年 （1989年）	・有線放送局の不祥事に関して質問が集中 ・長野の冬季五輪招致への考え方について質問があった ・学校教育における日の丸掲揚と君が代斉唱についての考え方について質問があった ・天竜川治水対策の基本計画を了承 ・有線放送を廃止し、オフトーク通信システムを導入することを了承 ・土地利用計画の策定の必要性について質問があった
平成２年 （1990年）	・消費税導入を想定した新年度予算に関して賛否両論の議論が展開された ・有線放送局不正経理事件について質問が多くされた ・中国からの帰国者のために日本語学級を開設するよう質問があった ・県議会議員の飯田市区定数１名増を求める意見書を可決した ・飯田駅貨物用地跡地利用に関して質問があった ・天竜峡温泉の交通渋滞の解消、下水道の整備等について質問があった ・松尾地区の内水排除について質問があった ・登校拒否児童への適切な指導を求める質問があった
平成３年 （1991年）	・議長　竹村仁實、副議長　松江良夫を選出 ・竜東地区の開発計画について質問があった ・農村集落の活性化を図る地域マネージメント事業について質問があった ・議長　實原 裕、副議長　内山照美を選出 ・松くい虫の被害が広がる深刻な事態に対して質問があった ・土地利用政策審議会の設置を求める質問があった ・りんご並木の整備構想について質問があった ・ＭＲＳＡ感染対策について質問があった ・看護婦養成のための高等看護学校の誘致を求める質問があった ・上郷町との合併時期について市長の政治決断を求める質問があった ・平和予算の創設を求める質問があった ・信州いいだ農協発足に伴い、行政と農協が一体となった農業振興を求める質問があった ・飯田駅貨物用地跡地取得の経過について質問があった
平成４年 （1992年）	・大学誘致についての質問があった ・拠点都市地域の指定を目指すことについて質問があった ・学校５日制の受け皿について質問があった ・オフトークでの議会本会議中継はじまる ・若者定着と工業振興について質問があった

年	議　会　の　動　き
平成４年 （1992年）	・特別委員会にて大詰めの合併協議が行われた ・自然環境の保全と環境に優しい社会の実現を期して、「環境宣言」が決議された ・市役所の完全週休２日制の導入について質問があった ・エイズに対する予防啓発について質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・上郷町と平成５年７月１日に合併することを議決した ・拠点都市指定に向けての取組状況について質問があった ・中学生の問題行動に対する指導について質問があった
平成５年 （1993年）	・ガットにおけるコメの例外なき関税化の導入を拒否し、基礎的食料の国内自給堅持を求める意見書を可決 ・地域医療に果たす新市立病院の役割について質問があった ・中心市街地のドーナツ化現象への対策について質問があった ・市議会議員一般選挙　　議長　今村八束、副議長　澤柳辨治郎を選出 ・上郷との合併関連議案68件を可決 ・コメの市場開放阻止等を求める意見書を可決 ・拠点都市の計画策定に関して、高速交通網の整備等について質問があった ・上郷合併に伴う議員の増員選挙が行われ、５名が市議会議員に仲間入りした ・シャルルヴィル・メジェール市のロジェマス市長が市議会を表敬訪問された ・地方拠点都市地域整備促進特別委員会を設置 ・みどりの基金創設について質問があった ・県営サッカー場の誘致について質問があった ・不況下での産業振興策について質問があった ・天竜川流域にカヌー競技施設の建設を求める意見書を可決 ・地方分権の実現を求める意見書を可決 ・コメの市場開放を阻止し、抜本的農業施策実現を求める意見書を可決
平成６年 （1994年）	・飯伊広域行政組合設立に伴う関連議案を可決 ・４年制大学の誘致について質問があった ・市町村の共同出資のバス運行について質問があった ・環境、文化、情報化、公共施設の４つのテーマで政策調査研究部会が発足 ・三遠南信地域に首都機能の移転を目指せという質問があった ・サッカーくじ法案化について質問があった ・農業集落排水事業実施区域の拡大を求める質問があった ・不況下において女性の雇用を守ることを求める質問があった ・12年ぶりの水道料金値上げを、建設委員会が３日間にわたる審査のうえ賛成多数で可決した。

年	議　会　の　動　き
平成６年 (1994年)	・北信越市議会議長会産業・経済対策特別委員会が天竜峡で開催 ・議会だより100号記念号発行 ・今村八束議長が友好都市シャルルヴィル・メジェール市（フランス）を訪問 ・市民の生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るための国土利用計画（飯田市計画）を可決 ・水道料金を12年ぶりに改定。平均アップ率18・7%を三日間の審議の末に可決 ・上郷町との合併により、新たな議員定数を調査研究する「議員定数問題調査特別委員会」を設置
平成７年 (1995年)	・第１回臨時会において、今村八束議長・松島年一副議長を選出 ・「中国の核実験に抗議し、フランスの核実験再開中止を求める決議」を可決し両大使館に意見書を送付 ・飯田市における政治倫理の確立のため「市長の資産等の公開に関する条例」を可決。これにより市長は資産等の報告書の作成が義務付けられ、閲覧請求が可能になった ・上郷町編入合併に伴い５人増の36人となっていた議員数を定数31人にすることを議決
平成８年 (1996年)	・全議員による「基本構想審査特別委員会」を設置、第四次基本構想・基本計画「環境文化都市を目指して」を可決 ・第２回定例会において「第四次基本構想に基づく組織機構改革案」を否決。この採決をめぐり最大会派の明政会が分裂し過半数を割ることとなった。この議案は第３回定例会で一部修正のうえ再提案され起立採決の結果賛成多数で可決 ・飯田市はあらゆる人権侵害の根絶を誓うため、「人権尊重都市宣言」を可決 ・「病原性大腸菌0157による食中毒対策に関する意見書」を国関係機関に提出 ・市議会議員補欠選挙で１人選出
平成９年 (1997年)	・市議会改選（投票率81・9%、上郷町と合併後初、特例による議員数36人から議員定数31人に） ・第１回臨時会において、小林利一議長・片桐司郎副議長を選出 ・市立病院と高松病院の機能、役割分担を検討するために「病院問題特別委員会」を設置 ・風越山麓に計画された送電線建設に対して景観、電磁波、産業振興、飯田市の環境条例などの観点から第２回、第３回定例会において計６件の請願・陳情があり審査・市政に関する独自の調査をし、政策提言をする「政策調査研究部会」（農業振興・交通施策・観光施策の３部会）がスタート

年	議　会　の　動　き
平成10年 （1998年）	・議員定数削減に続く財政改革で、「議員の各種審議会報酬を辞退すること」を全会一致で可決。長野県下初であり、全国的にも先駆的な取り組み ・「インド並びにパキスタンの地下核実験に対する抗議の決議」を可決 ・第３回定例会において、人形劇カーニバルのあり方について活発な議論を展開 ・「大型店の元旦営業自粛に関する決議」を可決し、市内大型店に申し入れ
平成11年 （1999年）	・平成９年にスタートした「政策調査研究部会」が２か年の研究を報告 ・第１回臨時会において、小林利一議長・中田佳甫副議長を選出 ・ごみ処理手数料として30円から60円を負担する、「ごみ処理費用有料化」を可決 ・「公共下水道受益者負担金改定」を可決（面積１㎡当たり現行390円から520円に段階的な引上げ） ・「中心市街地総合再生特別委員会」及び「介護保険特別委員会」を設置
平成12年 （2000年）	・「政策調査研究部会」（地方分権・ISO・工業振興３部会）が平成12年度1か年の研究を報告 ・介護保険制度の施行に伴い関連する12件の条例を可決 ・国民健康保険税事業から介護保険への移行に伴う、「国保税の引き下げ」を可決 ・公共下水道（平均9.8％）及び農業集落排水施設（7.2％）の「使用料引き上げの改定」を可決 ・市議会議員補欠選挙で１人選出
平成13年 （2001年）	・市議会改選（投票率75.3％、議員数31人の内女性議員６人が誕生） ・第１回臨時会において、西尾喜好議長・牧内信臣副議長を選出 ・森林･林業･林産業の活性化と山村振興の推進を図ることを目的に「林業活性化推進飯田市議員連盟」が発足 ・飯田市地域交流センター設置条例（本町一丁目に建設中の「トップヒルズ本町」に「りんご庁舎」を設置、及びその管理について定めるもの）を可決 ・水道料金（上水道平均4.0％・簡易水道平均2.7％）の「引き上げの改定」を可決 ・アメリカでのテロの犠牲者に対し黙祷し、「同時多発テロを強く糾弾する決議」を採択
平成14年 （2002年）	・行政機関の保有する情報の公開に関する法律が施行されたのに伴い「飯田市情報公開条例」を可決 ・暴走運転をなくし平穏な地域社会を実現するための「飯田市暴走行為を根絶する条例」を可決

年	議　会　の　動　き
平成14年 （2002年）	・「飯田市議会の議員の報酬等に関する条例」の一部を改正する条例を可決（議員の月額報酬３％の引き下げ） ・「飯田市議会あり方研究会」を発足 ・「飯田市差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」を可決 ・菱田春草筆「菊慈童」及び「牧童」を取得することを承認（取得金額３億５千万円）
平成15年 （2003年）	・「飯田市福祉医療費給付金条例」を可決（全県統一の自動給付方式を導入） ・第１回臨時会において、議長に岩崎和男氏・副議長に渡淳氏を選出 ・「合併特別委員会」「土地利用特別委員会」「議員定数特別委員会」を設置 ・「住基ネット関連２議案」を可決（住基カードを希望者に、１枚500円で交付するための条例改正） ・「歴史研究所条例案」を可決（市民の教育及び文化の向上発展などに寄与するための研究所を設置） ・「ごみ処理手数料の改定案」を可決（環境保全対策により経費増のため、半分を利用者が負担）
平成16年 （2004年）	・「市議会議員定数を４人減の27人」にすることを可決 ・「わがまちの〝憲法〟を考える市民会議」を５月に設置 ・「飯田市都市計画条例」の一部を改正する条例を可決 ・「わがまちの〝憲法〟を考える市民会議」が11月８日、岩崎和男議長に中間報告を提出 ・「合併関連２議案」を可決(飯田市･上村･南信濃村合併協議会の設置について) ・市議会議員補欠選挙で２人選出
平成17年 （2005年）	・「上村、南信濃村との合併関連6議案」を可決 ・市議会改選（投票率72・3％、議員数27人） ・第１回臨時会において、議長に熊谷富夫氏・副議長に林幸次氏を選出 ・「自治基本条例」「土地利用計画」の特別委員会を設置 ・「高等学校改革プランの検討に関する意見書」を県に提出（高等学校数の削減を行わないよう求める意見書） ・「個人情報保護条例」を可決 ・一般質問において一問一答方式を試験導入（一括質問一括答弁方式から、一問一答方式に変更） ・上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙（定数２、投票率82％、特例により議員定数27人から29人に）

年	議　会　の　動　き
平成17年（2005年）	・議会本会議の映像生中継をスタート ・「男女共同参画推進条例」を可決
平成18年（2006年）	・「国民保護法関連２条例」を可決（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律に関連する条例） ・飯田市における土地利用の基本的な指針を策定「国土利用計画」（第２次飯田市計画）を可決 ・第５次基本構想・基本計画の策定にあたり「基本構想基本計画検討委員会」を設置 ・市民・議会・行政の連携により研究を進めてきた「飯田市自治基本条例」を第３回定例会で議員提出議案として全会一致で議決 ・飯田市の各地区に平成19年度から設置される地域自治区について、「飯田市地域自治区の設置等に関する条例案、飯田市公民館条例の一部を改正する条例」を可決
平成19年（2007年）	・温泉宿舎天竜峡を飯田市が購入することを承認 ・「飯田市土地利用基本条例」を可決 ・「環境文化都市宣言」を可決 ・第１回臨時会において、上澤義一議長・矢澤芳文副議長を選出 ・議員定数の削減に向けて「議員定数特別委員会」を設置し定数を23人に決定 ・「第２回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞（飯田市自治基本条例の制定までの取組みが評価される）
平成20年（2008年）	・「飯田市後期高齢者医療制度に関連した条例」を可決（75歳以上の高齢者に新たな負担となるため議論が集中） ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を小学６年生まで引上げ） ・「飯田市議会の議員の定数を定める条例」を可決（平成21 年４月の選挙から定数23人に決定） ・議会議案検討委員会に置いて、ポイ捨ての規制に関する条例制定の必要性を調査 ・決算認定に結びつける議会の行政評価がスタート（行政評価の手法を用い決算を認定） ・「庁舎検討委員会」が発足（３回の委員会を経て市側の新庁舎建設の基本的な方針案を了承） ・市内20地区で初の議会活動報告会を開催（市政懇談会終了後30分間）

年	議　会　の　動　き
平成21年 (2009年)	・「副市長の定数を１から２に改める条例」を可決 ・「土地利用計画特別委員会」を廃止 ・市議会改選（投票率64・3%、上村・南信濃村との合併特例による議員数27人から議員定数23人に） ・第２回臨時会において初の立候補制による正副議長選挙を実施。中島武津雄議長・清水可晴副議長を選出 ・「リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議」を賛成多数で可決 ・市内を６ブロックに分け２回目の議会報告会を開催（市民487名が参加）
平成22年 (2010年)	・本庁舎の建替整備に向け調査研究を行うため「庁舎特別委員会」を設置 ・「飯田市リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金条例」を可決（リニア中央新幹線の実現に向けた取り組を強化） ・年度内にルート決定が見込まれる中、調査研究を深めていくため「リニア推進対策特別委員会」を設置 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を中学３年生まで引上げ） ・第３回議会報告会を開催（市民469人が参加） ・「飯田市地域自治区の設置等に関する条例の一部改正条例」を可決（上村及び南信濃地区を地域自治区に移行）
平成23年 (2011年)	・第１回定例会において東日本大震災支援のための22年度補正予算を可決 ・第２回臨時会において、上澤義一議長・村松まり子副議長を選出 ・東日本大震災支援のための23年度補正予算を可決 ・「飯田市国民健康保険条例の一部改正条例」を可決 （２年連続平均７％の増額） ・損害賠償に係る議会未提出案件（110件）について議会を軽視するものとして市側に改善申し入れ ・「第５次基本構想基本計画後期計画」を可決（人口目標10万２千人に） ・第４回議会報告会を開催（市民444人が参加）
平成24年 (2012年)	・「議会改革・運営ビジョン」を策定し新たな議会改革の取り組みとして常設の機関「議会改革推進会議」を設置 ・議会改革の一環として、初の「議長記者会見」を開催、委員会の自由傍聴の実現、本会議のインターネットによる映像配信を開始 ・新庁舎実施設計を了承

年	議　会　の　動　き
平成24年 (2012年)	・「第７回マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞（行政評価や議会報告会の実践などが評価される） ・第５回議会報告会を開催（市民461人が参加）
平成25年 (2013年)	・市議会改選（投票率58・3％議員数23人） ・第１回臨時会において、林幸次議長・木下克志副議長を選出 ・常任委員会を３委員会とし、議員の複数所属をやめ単独所属とする ・より開かれた議会運営のため「広報広聴委員会」を設置 ・委員会審議において初の「議員間自由討議」を実施 ・初の政策討論会を開催（不法投棄対策について市長に提言） ・「ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」を可決 ・「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書」を国関係機関に提出 ・議会の行政評価で「天竜峡温泉交流館管理事業」について、廃止を含め指定管理委託など検討を行うよう提言 ・第６回議会報告会を開催（市民510人が参加）
平成26年 (2014年)	・議会の行政評価において「農業課合同事務所事業」の廃止、「農作物被害対策事業」「リニア推進事業」「小中連携・一貫教育推進事業」の拡大などを提言 ・天龍峡温泉交流館の指定管理者管理委託を承認 ・「手話言語法(仮称)等の早期制定を求める意見書」を国及び県の関係機関に提出 ・第７回議会報告会を開催（市民543人が参加） ・第４回定例会終了後、議場の新庁舎移転に伴う「旧議場のお別れ会」を開催
平成27年 (2015年)	・初の議会出前講座を広報広聴委員会が実施（松尾小学校） ・県下初の対面式新議場で第１回定例会を開催 ・社会文教委員会が介護保険条例の一部改正に関して自由討議を実施。議案可決後に委員提案の附帯決議を可決。 ・第２回定例会から淡路結びの水引を議場に設置 ・第１回臨時会において、木下克志議長・木下容子副議長を選出 ・「長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例」を議決 ・「平和安全法制の慎重かつ適正な運用を求める意見書」を国及び関係機関に提出 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（支給対象を満15歳から満18歳に引上げ） ・木下克志議長が友好都市シャルルヴィル・メジェール市（フランス）を訪問

年	議　会　の　動　き
平成27年 （2015年）	・第８回議会報告会を開催（市民498人が参加） ・新教育委員会制度で初の教育長に代田昭久氏を任命することに同意
平成28年 （2016年）	・「飯田市議会パネル取扱要綱」、「飯田市議会災害対応指針」を制定 ・基本構想基本計画特別委員会を設置し、次期総合計画「いいだ未来デザイン2028」を審査 ・天龍峡温泉交流館建設に関し、産業建設委員会で自由討議実施後、附帯決議をつけて可決、本会議での委員長報告に対する討論を経て予算案を可決 ・地元産材のＰＲを目的に飯田市産ヒノキと遠山杉のネームプレートを作成し、全議員が着用を開始 ・議会だより200号記念号を発行 ・７月から９月にかけて議会による行政評価を実施（42施策、19事務事業） ・インターネットで委員会の映像配信を開始（12月12日　総務委員会から） ・第９回議会報告会を開催（９月～10月、６会場で市民554人が参加） ・議会議案検討委員会を設置し、議員提出による「飯田産の地酒及び果実飲料で乾杯する条例」を議決 ・議会出前講座を松尾小学校で実施（２回目：２月、３回目：11月）
平成29年 （2017年）	・飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。藤山 浩氏を講師に迎え、「田園回帰１％戦略」を学ぶ（１月） ・社会文教委員会が「地域ケアシステムの構築」に関する調査研究を行い、議会全体の政策討論会を経て、議会から市長へ政策提言（３月） ・産業建設委員会は、「若者定住の促進について」ほか、５つのテーマについて２年間の調査研究活動をまとめ、所管部署へ提案（３月） ・飯田市スポーツの振興に寄与することを目的に「飯田市議会スポーツ振興議員連盟」が発足（３月） ・市議会改選（４月16日執行、投票率 57.95％、議員23名うち新人５名） ・議会出前講座を山本小学校で実施（６月） ・第５次基本構想の平成28年度分について議会による行政評価を実施（７月～）評価結果に基づく成果や課題を反映させるため、４月からスタートした総合計画「いいだ未来デザイン2028」の戦略計画に対して、市長へ提言（９月） ・第10回議会報告会を開催（10月、６会場で市民582人参加）
平成30年 （2018年）	・議会出前講座を松尾小学校で実施（１月　６年生143人） ・飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。大森 彌氏を講師に迎え、「自治体議会の改革と議員の法的位置づけ」について学ぶ（１月）

年	議　会　の　動　き
平成30年 (2018年)	・リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備などをテーマとして、商工会議所支部や地域団体と意見交換会を実施（２－３月） ・リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備を含むリニア関連事業の進め方等に対する要望書を所管部署へ提出（６月） ・飯田市議会（リニア推進特別委員会）主催による「リニアを活かしたまちづくり講演会」を開催（７月） ・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価がスタート。各常任委員会や合同委員会での大局的な評価（森の評価）を経て政策提言を実施（７月－９月） ・社会文教員会が、「市内小中学校及び保育園等にエアコン設置を求める要望書」を所管部署へ提出（９月） ・第11回議会報告会を開催（10月　７会場で市民654人が参加） ・予算決算委員会の設置に向け、予算決算審査検討プロジェクトを発足（12月）
平成31年 (2019年)	・広報広聴委員会、同委員会内の議会だより検討会議により、議会だよりの見直しを図り、リニューアルパイロット版を発行（１月） ・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。山梨学院大学大学院の江藤俊昭教授を講師に招き議会改革について学ぶ（１月） ・一般質問等における執行機関側の議員に対する「反問権」の行使について定めた、改正飯田市議会会議規則が施行（２月） ・総務委員会が、市内３か所で「地域コミュニティーの在り方」について意見交換会を実施（２月） ・第１回定例会において市長が初の反問権を行使（３月）
令和元年 (2019年5月～)	・第１回臨時会において、湯澤啓次議長・原和世副議長を選出（５月） ・第１回臨時会において、予算決算委員会を常任委員会として設置。予算・決算及び行政評価を所管し、今後は分割付託されてきた予算・決算議案について一括で付託を行うこととなった（５月） ・長野県市議会議長会総会を飯田市で開催。龍谷大学政策学部教授の土山希美枝氏を講師に招き「政策議会をつくる議員力・議会力」を学ぶ（７月） ・予算決算委員会所管による「議会による行政評価」を実施。９月定例会後、議長から市長に対し評価提言書を手交（７月－９月） ・議会出前講座を山本小学校で実施（10月） ・議会報告会を開催（10月　７会場で市民743人が参加） ・議長、副議長及び事務局長が「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」に参加（10月－３月）

年	議　会　の　動　き
令和元年 (2019年5月～)	・台風第19号で被災地となった長野市へ、長野県市議会議長会を通じて見舞金を送った（11月） ・議会報告会で出された「小学校のトイレ環境」に対する意見を受けて、社会文教委員会が市内の小中学校全てのトイレ環境の現状把握と学校職員への聞き取り調査を行い、予算決算委員会での審査、本会議での同意をもって市長に提言書を提出した（12月）
令和２年 （2020年）	・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。㈱地方議会総合研究所代表取締役の廣瀬和彦氏を講師に招き「議会の活性化と議会運営」について学ぶ（１月） ・市議会災害対策会議を実施（１月－） ・新型コロナウイルス感染症の影響で市の行事が開催中止（２月－） ・第１回定例会で新型コロナウイルス感染症対策についての質問が複数あり（３月） ・第１回臨時会を開催し、新型コロナウイルス感染症対策に関する補正予算等を審議（５月） ・タブレット端末を活用したペーパーレス会議システムについての全員協議会勉強会を開催（６月） ・「子育ての孤立化」をテーマに、社会文教委員会が「課題共有型えんたく会議」を開催（７月） ・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価・提言を行う（９月） ・議会報告・意見交換会を開催（10月　７会場で市民420人が参加） ・県知事と市長にリニア中央新幹線関連事業等により移転をお願いする皆さんに係る農振除外手続きに関する要望書を提出（12月）
令和３年 （2021年）	・第１回臨時会を開催し、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種事業など対策に関する補正予算等を審議（２月） ・全議員を対象としてペーパーレス会議システムの研修を実施（２月） ・第１回定例会からタブレット端末を活用した議案審議を試行的に開始（３月） ・議会、飯田商工会議所、飯田市行政の３者の共同声明として、「ゼロカーボンシティ宣言」を実施 ・市議会改選（４月25日執行、投票率 60.74％、議員23名うち新人９名） ・第２回臨時会において、井坪隆議長・山崎昌伸副議長を選出（５月） ・「南アルプスジオパーク」をテーマに議員研修を開催（６月）

年	議　会　の　動　き
令和３年 (2021年)	・新型コロナウイルス感染症デルタ株による急速な感染拡大を踏まえ、議会より市長に対して緊急提言を行う（８月） ・新型コロナウイルス感染症対策として、抗原定性検査（簡易キット）を活用した水際対策の有効性を伝え、全国的な展開とその支援を要望するため、国に対して意見書を提出（８月） ・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」の中期４年間の内容の評価・検証を行い、評価・提言書として市長へ提出（９月） ・社会文教委員会が、日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科の宮國康弘氏を講師に、「フレイル予防対策とその評価について」学ぶ（10月）
令和４年 (2022年)	・飯伊市町村議会議員研修会を開催。同志社大学の新川達郎名誉教授を講師に、「大災害・感染症と議会」について学ぶ（１月） ・災害時や新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況にあっても議会機能を維持していくため、飯田市議会委員会条例や会議規則などの改正を行い、委員会等の会議におけるオンライン会議の実施を可能とした（２月） ・議会として「ロシアのウクライナに対する侵攻を非難する決議」を全会一致で可決。また、戦禍に見舞われたウクライナの人々を支援するため、市議会議員23人全員で、23万円をユニセフ（国連児童基金）に寄付をした（３月） ・「地方議会評価モデル」導入に伴うキックオフ講演会を実施。大正大学社会共生学部公共政策学科教授の江藤俊昭氏を講師に、「地域経営における議会の役割と地方議会評価モデル」について学ぶ（３月） ・４月から「地方議会成熟度評価モデル」の取り組みを開始。飯田市議会の役割（ミッション）や目指すべき姿（ビジョン）等を策定（令和５年３月） ・飯田市議会業務継続計画（議会ＢＣＰ）の策定（５月） ・契約に係る議会未提出案件及び職員の不適切な事務処理等に関する申入書を市長へ提出（６月） ・新たな広聴の場として「タウンミーティング」を開催（７月） ・「議会報告・意見交換会」をコロナ禍の状況を踏まえ、７ブロック14会場で開催（９月～10月） ・飯田市内を会場に、三遠南信地域市町村議会議長協議会及び道路建設促進議員協議会総会を開催（10月） ・請願・陳情の手引きを作成（11月） ・「リニア駅周辺整備事業土木実施設計に対する政策提言」を市長へ提出(11月) ・政治倫理に関する研修会の開催（12月）
令和５年 (2023年)	・「ジェンダー（社会的性別）について共に考える研修会」を下伊那郡町村議会

令和５年 (2023年)	議長会の共催、飯田商工会議所の協力により実施（１月） ・飯田市議会個人情報の保護に関する条例を制定（３月） ・飯田市議会会議規則及び飯田市議会議員の議員報酬の特例に関する条例を改正（本会議や委員会への欠席事由として育児、看護、介護等を明文化するとともに、出産について産前・産後期間に配慮した規定の整備）（３月） ・15年振りとなる水道料金の改定に伴う申し入れを議長から市長へ提出（４月） ・「オーケストラと友に音楽祭」の15回記念として、議場でのコンサートを開催（４月） ・第１回臨時会において、熊谷泰人議長・竹村圭史副議長を選出（５月） ・水道料金改定に関わる議案に関し、産業建設委員会で自由討議を実施後、附帯意見をつけて可決（６月） ・高校生を対象にタウンミーティングを開催（７月） ・議会出前講座を山本小学校（８月）と浜井場小学校（１月）で実施 ・「議会による行政評価」を実施。議長から市長に評価提言書を手交（９月） ・「議会報告・意見交換会」を全７日間・11会場で開催（10月） ・社会文教員委員会が「飯田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について」調査研究を行い、健康福祉部長へ政策提案書を提出（12月） ・「県施設の整理統合が続く中で、地域の振興に資する施設整備等を求める意見書」を長野県知事及び長野県議会議長へ提出（12月）
令和６年 (2024年)	・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニュフェスト研究所顧問の北川正恭氏を講師に迎え、「2030年地方議会の展望」について学ぶ（１月） ・能登半島地震の被災地域へ、北信越市議会議長会を通じて義援金を送る（２月）

Ⅵ　参考資料

1　都市宣言

①　安全都市宣言

わが国における産業経済の成長と生活文化の向上は、近年著しいものがあり、わが飯田市も近代的生産都市として発展の一翼をにない、市勢も各方面にわたり伸展しつつある。反面、産業災害、交通事故、火災などの各種災害が多発し、日常生活をおびやかされていることは、憂慮にたえないところである。

もとより、災害を防止するための措置は、それぞれの分野において積極的に実施されているが、われわれはさらに進んで市民の生命尊重と、産業文化伸展の理念のもとに、各種の災害をより効果的に防止するため、飯田市各階層を一丸とする市民運動を強力に推進し市民の安全意識の高揚をはかることこそ緊要であると確信する。

われわれは、この際「国民安全の日」制定の意義に沿い、本市における産業・労働・交通・消防・教育・文化・婦人団体など各界の連携をはかり、市民生活のあらゆる面において安全を確保し、明るく住みよい都市建設を目指して、ここに飯田市を「安全都市」とすることを宣言する。

昭和36年６月26日

飯　田　市　議　会

②　明るい選挙都市宣言

民主政治の健全を期するためには、明るい選挙が行わなければならない。即ち、民主政治の基盤は選挙にある。

本市は、さきに公明選挙都市宣言をなし、これが運動を推進し、その実績をあげつつあるとはいえ、なお、遺憾な点なしとはいえない。

よって市民の代表である、本市議会はここに決意を新たにするとともに、市民の希望と熱意を結集し、これが現実を期するため、飯田市を「明るい選挙都市」とすることを宣言する。

昭和40年６月29日

昭和61年６月25日（一部変更）

飯　田　市　議　会

③　青色申告都市宣言

本市は自主申告納税の理想郷を実現するため、また市民が青色申告の本質を再認識して国民の基本的義務である納税についての思いを新たにし、かつ、その納税意欲の向上をはかって、社会経済の発展に貢献するとともに、市民相互の繁栄と幸福を築くため、ここに飯田市を「青色申告都市」とすることを宣言する。

昭和52年９月21日

飯　田　市　議　会

④　電波障害防止都市宣言

今日の情報化社会において、テレビ・ラジオは市民生活にとって不可欠のものとなっている。

しかるに、都市の近代化による高層建築物の増加、電気設備などの高度化は電波障害を誘発する要因となっている。

当市議会は、かつて昭和41年９月、他の市町村に先駆けて「電波無雑音都市宣言」を議決し、多大の成果を得て今日にいたっている。

今後、都市の近代化がさらに進む中で発生を免れない電波障害を一掃し、市民の快適な生活環境を築くため、その宣言の精神を一層敷延化して、ここに本市を電波障害防止都市とすることを宣言する。

昭和54年12月21日

飯　田　市　議　会

⑤　シートベルトヘルメット着用都市宣言

飯田市における交通事故は激増の一途をたどり、悲惨な事故のために多くの市民がその犠牲となっており、昭和56年度における人口１万人当りの事故率は55.3人で、県下17市中第１位という極めて憂慮される事態を迎え、事故絶滅は現下の緊急課題である。

交通事故の実態を見ると、シートベルト並びにヘルメットの着用は被害の防止、軽減を図る上で大きな効果が認められているが、その着用率は未だ十分といえない状況である。　交通量の増加に伴い、ますます交通事故の危険が迫る現状にかんがみ、運転者のなお一層の交通安全意識を高めるため、ここに「シートベルト並びにヘルメットの着用」を宣言する。

昭和57年12月21日

飯　田　市　議　会

⑥　非核平和都市宣言

　世界の恒久平和は、人類共通の願望である。
　しかるに、米・ソ超核大国による核軍拡競争は拡大均衡をめざすという口実でますます激化し、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしている。
　わが国は、世界唯一の核被爆国としてこの地球上に広島、長崎の惨禍を再びくりかえしてはならないと訴えるものである。
　飯田市は、平和憲法の精神にのっとり、「非核三原則」を将来ともに尊重し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、もって世界の恒久平和達成をめざすものである。
　ここに、飯田市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

昭和59年６月28日

飯　田　市　議　会

⑦　振替納税推進都市宣言

　期限内完納の思想の高揚をはかるため、市民が振替納税の本質を理解して国民の基本的義務である納税意識が向上し、社会経済の発展と市民相互の繁栄に貢献することを願い、ここに飯田市を「振替納税推進都市」とすることを宣言する。

昭和60年６月29日

飯　田　市　議　会

⑧　暴力団追放都市宣言

　飯田市は、美しい自然と長い歴史と伝統文化につつまれた人情豊かなまちとして、平和で明るく住みよいまちづくりに積極的に取り組んでいるところである。
　しかしながら、暴力団による不法行為は増加の一途を辿り、暴力団同志によるけん銃発砲事件も発生し、善良な市民生活が脅かされるなど、美しい郷土のイメージが損なわれことは、まことに遺憾であり、強い憤りを感じるものである。
　善良な市民の平穏な日常生活と安全を守る立場から全市民の総意を結集し、暴力を是認しない地域づくりにつとめ、すべての暴力の根絶を図らなければならない。
　よって、本市議会は、犯罪のない平和な住みよい郷土の建設をめざし、暴力行為を壊滅し、すべての暴力団を追放するため、ここに飯田市を「暴力団追放都市」とすることを宣言する。

昭和61年12月22日

飯　田　市　議　会

⑨　人権尊重都市宣言

私たちは、だれもが人間らしく幸福に生きる権利を有し、だれからも尊重され、親しまれ、愛されながら豊かに暮らすことを求めています。そして、美しい自然と同様に、だれ隔てなく接する思いやりのある美しい心を持つ市民が明るく生活するまちちを目指して努力しています。

しかし、大変残念なことに、現実には偏見による差別など様々な人権侵害が存在しています。このことは、早急に解決しなければならない重要な課題です。

よって、私たちは基本的人権を正しく理解し、尊重し、人権擁護の良き実践者となるとともに、善意を広め、互いに励まし合い、手を取り合ってあらゆる人権侵害を根絶することを誓うため、ここに飯田市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

平成８年６月24日

飯　田　市　議　会

⑩　環境文化都市宣言

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

平成19年３月23日

飯　田　市　議　会

２　市政提携に関する覚書

長野県飯田市（以下「甲」という）と岡山県津山市（以下「乙」という）は、市政執行の面において相互に啓発し、いっそう市政の伸展と住民福祉の向上を期するため、緊密に提携することを協定し、当面、この目的達成のため、次の事項を実行することを確認する。

記

１　この目的達成のため、甲、乙において作成したあらゆる行政事務資料で、相手方の参考になると考えられるものは、相互に送付するものとする。この場合は窓口は、総務課扱いとする。

２　甲、乙は、必要に応じて協議の上、相互に研修のため職員を派遣することができる。この派遣職員の滞在に要する経費は、それぞれ派遣する側の負担とする。ただし、執務に要する事務的経費は、委託を受けた側が負担する。

３　この協定書以外の特別な事項で必要があると認めるときは、その都度双方協議のうえ、決定する。

以上この協定を証するため、覚書２通を作成し、甲・乙各１通を保有する。

昭和４４年３月２５日

甲　飯田市長　清　水　重　美

乙　津山市長　生　末　敏　夫

３　友好都市締結

盟　約　書

日本国長野県飯田市とフランス共和国アルデンヌ県シャルルヴィル・メジェール市は、共に古きよき伝統を有し、人形劇芸術において重要な役割を果たしつつある。

両市の市民と市民が構成するさまざまな組織間の相互理解と友情を深めることにより、日本国とフランス共和国の親善を促進し、世界の平和に貢献することを希求し、ここに両市が友好都市として提携することを盟約する。

昭和６３年８月５日

日本国　長野県
飯田市
市　長　松　澤　太　郎

フランス共和国アルデンヌ県
シャルルヴィル・メジェール市
市　長　ロジェ・マス

4　飯田市の主要年表

年　月	事　　項
昭和12. 4	飯田・上飯田町合併　飯田市誕生　人口31,289人
5	第１回市議会議員選挙
6	飯田市初議会で、市長に野原文四郎氏を推挙
14. 11	市瀬泰一氏第２代目市長に就任
17. 5	市議選翼賛選挙で無投票当選
18. 8	伊那電鉄など飯田線となる
19. 12	県立飯田保健所開所
21. 4	戦後初の衆議院選挙　飯田市の人口33,772人
7	飯田駅前大火
22. 4	公選による知事、市長選。高田茂氏当選　第４代目市長に
4	飯田市大火　市街地の３分の２を焼失
23. 3	飯田市消防本部、消防署発足
26. 12	飯田市立病院開院
28. 11	りんご並木の植付始まる
29. 4	飯田長姫高校全国高校野球選抜大会で優勝
10	飯田市公民館、復興記念館開館
30. 4	市長選に松井卓治氏当選、第５代目市長に就任
31. 9	飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村、下久堅村が合併、新飯田市発足
31. 10	合併初の市議会　飯田市公民館で開催、議員数145名 合併後の市長選　松井卓治氏無投票当選
32. 4	松井市長、鼎町と上郷村へ合併を申入れる
34. 7	飯田市下水処理場供用開始。県下初、全国で６番目
35. 7	飯田市民プール完成
36. 3	川路村を合併
6	梅雨前線豪雨伊那谷を襲う　死者11人　行方不明５人
37. 10	建設大臣伊那谷の災害地を視察
11	飯田市役所新庁舎落成
38. 10	低開発地域工業開発地区に指定される
12	りんご並木後援会発足
39. 3	龍江村、千代村、上久堅村を合併
40. 7	市立病院新館落成
9	組合立、飯田衛生センター落成
12	老人ホーム川路寮開設
41. 1	市議会、地財法準用を議決
10	中央自動車道杭打式（今宮球場附近）

年　月	事　　　　　　　　　　　　　項
昭和42．5	飯田勤労者福祉センター開館
9	飯田市議会　財政再建のため議員報酬５割削減可決
11	りんご並木15周年記念式典を行う
11	市制施行30周年記念式典を行う
43．4	飯田市・鼎町・上郷村消防組合発足
5	りんご並木、ＮＨＫ総合テレビで放映される
8	飯田市・鼎町・上郷村下水道組合発足
10	市長選に清水重美氏当選　第６代目市長に
44．3	岡山県津山市と市政業務提携
8	36年災害復旧状況視察のため皇太子御夫妻来飯
11	飯伊地域広域行政市町村圏協議会設立
45．2	飯田市・鼎町・上郷村上下水道組合発足
11	大平部落解散式
11	飯田卸売団地開設
46．3	飯田・鼎・上郷消防組合発足
6	名誉市民日夏耿之介氏死去　行年81才
6	市議会、生活改善推進を議決
8	りんご並木の碑除幕式
47．4	飯田文化会館竣工
10	市長選に松澤太郎氏当選　第７代目市長に
49．3	飯田市農業協同組合発足
5	松川ダム完成、妙琴浄水場通水式
50．1	飯田中央農業協同組合発足
6	飯伊特別養護老人ホーム「飯田荘」完成
8	中央自動車道西の宮線開通（中津川ー駒ヶ根間）
51．2	鼎町・上郷町へ合併の申し入れをする
3	市議会議員定数を30人に削減
10	松尾終末処理場供用開始
11	飯田市公民館竣工
52．5	飯田市総合運動場、勤労者体育センター完成
6	市民憲章制定
53．10	第33回国民体育大会「やまびこ国体」開催（ラグビー会場）
12	飯田市基本構想、基本計画策定
54．7	飯伊モデル定住圏地域の指定を受ける
8	人形劇カーニバル始まる
12	飯田市墓地霊園、桐林に完成

年　月	事　　　　　　　　　項
昭和55.　3	市営弓道場移転完成
4	橋北コミュニティ防災センター完成
56.　4	飯田地区広域消防組合発足（松川町・喬木村・大鹿村・豊丘村・高森町・清内路村・阿智村が加入）
9	鼎町早期に合併したいとの回答
57.　3	飯田市武道館完成
7	上郷町に再度合併の要請
8	飯田まつりに新曲「りんごん」を踊る
11	中央自動車道西宮線全線開通
12	飯田市・鼎町両議会合併協議会設置を可決
58.　1	第１回飯田市・鼎町合併協議会開かれる
3	飯田市保健センター完成
9	台風10号大きな被害を受ける
59.　2	座光寺小学校完成
3	橋南にコミュニティ防災センター完成
	龍江公民館、支所完成
8	飯田市と鼎町との合併調印式
12	鼎町と合併
60.　3	天竜川治水基本協定の調印
4	旭ヶ丘中学校の開校
4	鼎町と合併後初の市議選
5	「三遠南信道路」３県レベル同盟会の設立
10	「美術博物館」基本構想委員会発足
61.　3	座光寺公民館・支所完成
8	人形劇アジア会議開催
10	飯田消防署新庁舎完成
12	北方地区土地区画整理事業着工
62.　1	飯田市立病院新副院長人事発令
2	飯田工業技術センター完成
3	イタチガ沢埋立地完成
	丸山地区土地区画整理事業着工
4	飯田コンピュータ専門学校開校
8	飯田市子ども議会開催
10	市制施行50周年記念式典
11	りんご並木へニュートンのりんごの木、国道153号線バイパスへりんご植付
12	飯田市基本構想、基本計画策定

年　月	事　　　　　　　　　　　　　項
昭和63．３	市道知久町中村線・国道153号線バイパス第１工区竣工
６	飯田市・上郷町両議会合併協議会設置可決
７	第１回飯田市・上郷町合併協議会開かれる
	人形とけい塔ハミングパル並木通りに設置
８	シャルルビル・メジェール市と友好都市提携　飯田人形劇場開館
	世界人形劇フェスティバル開催
10	飯田市美術博物館10月１日落成式
	市長選に田中秀典氏当選　第８代目市長に
平成元．３	飯田衛生施設組合 桐林クリーンセンター完成
	飯田運動公園県営飯田野球場完成
６	桐林運動広場完成
８	アフィニスセミナー開催
	山梨リニア実験線、建設正式決定
	三遠南信自動車道、程野・飯田東ＩＣ間のルート公表
１．９	伊那谷高速交通フェア開催
	第２．４土曜日の閉庁実施
10	飯田市美術博物館開館
11	飯田市立病院、総合病院となる
12	飯田勤労者総合福祉センター完成
２．３	松尾公民館・支所完成
４	名勝天竜峡温泉利用開始
８	新病院本体建設着工
11	新し尿処理場着工
12	県議定数（飯田地区）２人から３人に
３．１	市営駐車場30分無料化
２	テレトピアモデル都市に指定
３	千代診療所完成
７	飯田市斎苑完成、動物炉が新設される
９	今田人形座が仏国で開催の人形劇世界フェスに出演
10	飯田工業高校跡地一帯が建設省「平成記念子供のもり公園」に指定される
12	飯田農協と飯田中央農協が合併「信州いいだ農協」が誕生
４．２	天竜川治水対策事業起工式が行われる
３	飯田市で初の「かなえデイサービスセンター」完成
	国道153号線バイパス第２工区と飯田下山線開通
	飯田運動公園弓道場竣工

年　月	事　　　　　　　　　　項
平成４．３	飯田市有線放送局閉局
4	オフトーク通信事業開始
	かなえデイサービスセンター開所
	飯田ふれあい農園開園
6	オフトーク通信による議会本会議生中継開始
	緑ヶ丘中学校プール完成
7	新し尿処理場「飯田竜水園」運転開始
	伊賀良「育良町」誕生
9	新市立病院竣工式
10	国道153号線バイパス新市立病院まで開通
	新市立病院開院（外来診療開始）
12	飯田市・上郷町合併調印式
	飯伊地域が地方拠点都市第一次指定される
５．１	地方拠点都市整備計画策定室設置
2	丸山羽場第２地区区画整理事業起工式
3	男女共同参画型社会をめざして「信州飯田女性プラン」（女性行動計画）まとまる
	上久堅福祉企業センター竣工
4	市役所の業務が毎週土曜日閉庁となる
6	飯田駅前にアイパーク竣工
7	上郷町と合併し、人口が106千人となる
8	人形劇カーニバル15周年を迎える
	アフィニスセミナー５周年を迎える
10	飯田のシンボル「りんご並木」が40周年を迎える
	浜松市のフルーツパークに飯田のりんごの苗木が植樹される
	また両市の美術館で所蔵品の交換展を開催
	特別養護老人ホーム第二飯田荘が開所
12	飯伊地方拠点都市地域基本計画が知事承認を受ける
６．２	三遠南信地域の振興を考える「三遠南信サミット」が浜松で開かれる
	天竜川治水対策事業、龍江側で盛土工事本格着工
3	三遠南信自動車道「矢筈トンネル」供用開始
	山本公民館、支所竣工
4	今田人形の館竣工
	飯伊広域行政組合発足
	オフトーク通信事業の放送業務を民間委託
6	ゆとり宣言都市指定モニュメント「ゆとり創造の樹」完成

年　月	事　　　　　　　　　項
平成６．９	飯田市議長が友好都市フランスのシャルルヴィル・メジェール市を訪問
10	飯田市議会だより100号記念発行
	飯田市総合運動場全面改修工事竣工
12	国土利用計画（飯田市計画）策定議決
７．２	中心市街地から「西友」撤退
	阪神大震災被災地へ支援
	飯田市下水道整備計画策定
４	北部・竜東デイサービスセンター開所
	天竜峡活性化センター「あざれあ」開館
７	飯田運動公園プール「アクアパーク　ＩＩＤＡ」竣工
	飯田市立病院に併設の伝染病棟隔離病舎（飯伊広域行政組合）供用開始
８	戦後50年平和祈念事業を開催（８～11月）
10	「三遠南信サミット＆シンポジウムｉｎ飯田」開催
	第41回風越登山マラソン開催（７年ぶりに復活）
12	飯田市議会12月定例会で条例定数は現行31人で議決
	飯田農業振興地域整備計画を変更、都市計画の用途地域も変更
８．２	天竜川治水対策事業、川路、竜丘側築堤工事起工式
	市民構成劇「かざこし姫となかまたち」上演
３	市議会本会議で「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」否決
４	飯田市農政プラン策定
	第４次基本構想・基本計画「環境文化都市をめざして」策定
	飯田市工業振興マスタープラン策定
	飯田やまびこマーチ10周年
５	矢高共同調理場竣工
６	人権尊重都市宣言
	「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」可決
７	市役所組織機構改革が実施される（７月１日より）
12	さんとぴあ飯田竣工
	信州飯田ふるさと大使館開館
	２１’いいだ環境プラン策定
９．２	ハートヒル川路竣工
４	市制施行60周年
５	市議会改選
５	市誌編さん委員会誕生
7	太陽光発電に無利子融資

年　月	事　　　　　　　　　　　項
平成９．７	エコタウン地域に指定される
８	全国夏期巡回ラジオ体操会
10	世界地方都市十字路会議
12	ＪＡみなみ信州発足
平成10．２	市民バス運行開始
２	長野オリンピック冬季競技大会開催
３	長野パラリンピック冬季競技大会開催、飯田市より２人参加
３	議員の各種審議会報酬辞退を全会一致で可決
４	天竜川治水対策・龍江側工事完成
６	飯田市役所ISO14001を取得する方針決定
	第１回飯田市藤本四八写真文化賞 （芳賀日出男さん、宮島功さん、南島孝さん受賞）
８	第20回人形劇カーニバル （20回を記念して世界人形劇フェステバル開催）
	第10回アフィニス夏の音楽祭ロストロ・ポーブィチ氏を迎え開催
平成11．３	市議会「政策調査研究部会」報告（農業振興・交通施策・観光施策３部会の平成９年・10年度の２カ年の研究報告）
	病院問題特別委員会審査終了
	飯田工業技術研修施設・EMCセンターオープン
	りんご並木リニューアル
４	飯伊広域行政組合を継承、発展する形で南信州広域連合設立
７	よこね田んぼ「日本の棚田100選」に選ばれる
12	ごみ処理費用負担制度開始
平成12．１	ＩＳＯ14001認証取得
３	市議会「政策調査研究部会」報告（地方分権・ＩＳＯ・工業振興３部会の平成12年度の１カ年の研究報告）
４	介護保険制度がスタート
７	丸山羽場地区区画整理事業第１地区完成
10	三遠南信パテントメッセ・EMCシンポジウムと工業技術交流相次ぐ
平成13．１	観測開始以来の大雪に見舞われ市民生活に大きな影響が出る
３	政務調査費の交付に関する条例の制定
４	市議会改選
７	橋南第１地区再開発ビル「トップヒルズ本町」完成
８	地域交流センター「りんご庁舎」オープン
10	いいだＦＭ開局
11	りんご並木「かおり風景100選」に選ばれる

年　月	事　　　　　　　　　項
平成14. 4	平成記念かざこし子どもの森公園開園
9	天竜川治水対策事業完成
10	菱田春草作「菊慈童」を購入
平成15. 1	ISO14001自己適合宣言
3	市議会「在り方研究会」「合併問題調査研究会」報告(半年間の研究報告)
	「環境首都コンテスト」人口規模別第１位、総合第４位
5	南信州グリーンツーリズム特区取得
8	飯田市・喬木村・上村・南信濃村の４市村、任意合併協議会設立
10	りんご並木５０周年記念事業
12	飯田市歴史研究所オープン
平成16. 1	橋南第２地区市街地再開発ビル着工
2	第１回ほんもの体験フォーラムin南信州の開催
3	オーライ！ニッポン大賞グランプリ内閣総理大臣賞受賞
3	飯田お練りまつり盛大に開催
5	「わがまちの″憲法″を考える市民会議」の発足
5	第12回環境自治体会議「いいだ会議」開催
6	自治体環境グランプリ環境大臣賞受賞
7	市立病院が地域医療支援病院として県から承認を受ける
10	飯田市長選で、牧野光朗新市長誕生
平成17. 4	地域経済活性化プログラム2005を策定、農業課と農業委員会の事務所移転
6	国際自転車レース「第９回ツアー･オブ･ジャパン南信州ステージ」を開催
7	高校統廃合問題に関連し、鼎公民館で「高校改革シンポジウム」を開催
10	上村及び南信濃村と合併
10	日独地域国際化サミットを飯田市で開催
平成18. 4	飯田やまびこマーチ20回記念大会
	結いターンキャリアデザイン室を設置
6	一般廃棄物最終処分場（千代地区）の建設工事開始
9	飯田市自治基本条例の制定
10	橋南第二地区市街地再開発ビル　トップヒルズ第二オープン
平成19. 3	第５次基本構想基本計画と環境文化都市宣言を可決
	川本喜八郎人形美術館オープン
	市制70周年記念式典を開催
4	飯田市自治基本条例､地域自治区､第５次基本構想基本計画､総合的土地利用計画､行財政改革大綱など地域の自立に向けた新しい枠組みスタート
	全国さくらシンポジウムin飯田開催
11	南信濃地域交流センター完成

年　月	事　　　　　項
平成19. 11	市議会が、「第２回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞
	飯田市自治基本条例の制定の取り組みが評価される
平成20. 4	三遠南信自動車道飯喬道路１工区（飯田山本IC～天竜峡IC）が供用開始
6	天龍峡再生元年として天龍峡百年再生館オープン
7	市政懇談会に合わせて、初の議会活動報告会を市内20地区で開催
8	北京オリンピックに、飯田市出身初の選手として矢澤一輝選手がカヌースラローム競技に出場
	人形劇のまち30年を記念して「世界人形劇フェスティバル・いいだ人形劇フェスタ2008」を開催
	アフィニス夏の音楽祭が20回をもって終了
9	市議会による行政評価が初めて行われ「施策及び事務事業に対する提言書」を市長に提出
10	飯田市・南信州広域連合・みなみ信州農協が共同で運営するマーケティングショップ「南信州ファームプロダクツマーケット」を名古屋市内にオープン、地元の旬の農産物の販売や地域への産地ツアーを企画
11	市内を６ブロックに分け、２回目の議会報告会を開催、市民487名が参加
平成21. 1	飯田市が内閣府から環境モデル都市に選定
3	グリーンバレー千代（最終処分場）竣工
4	市内の商工会議所、商工会が統合され新しい飯田商工会議所が誕生
5	オーケストラと友に音楽祭開催
7	飯田下伊那市町村による定住自立圏形成協定書の合同調印式
8	市企画部内に「リニア推進対策室」が設置される
10	飯田北部地区の農免道路が開通（上郷丹保地区～高森町下市田地区）
	低炭素社会実現に向け「レンタサイクル事業」開始
11	新型インフルエンザが流行
平成22. 2	メガソーラーいいだ太陽光発電所　飯田市と中部電力㈱で共同建設することについて協定を締結
3	飯田お練りまつり　約32万人　42団体が参加
4	リニア中央新幹線推進本部設置（市役所内）
5	介護保健施設ゆうゆう　竣工
6	日本の環境首都コンテスト2009（第9回）で飯田市が総合2位（昨年3位）
7	集中豪雨による土砂災害（南信濃で昭和58年に次ぐ観測史上2番目となる223㎜の降水量　土砂崩れや建物の全壊、床下浸水などの被害）
9	天龍峡盆踊りが25年ぶりに復活
10	定住自立圏全国市町村長サミット2010in南信州が開催
平成23. 1	メガソーラーいいだ太陽光発電所　運用開始

年　月	事　　　　　　　　項
平成23.　1	飯田大学連携会議「学輪IIDA」の設立
3	東日本大震災発生。避難者の受け入れ
3	飯田市美術博物館デジタルプラネタリウムを導入
5	国土交通大臣が全国新幹線鉄道整備法に基づき、 リニア中央新幹線の整備計画を決定
平成23.6	三六災害から50年。三六災害50年シンポジウム開催 日本の環境首都コンテストで「明日の環境首都賞」を受賞
9	フランス　シャルルヴィル・メジェール市に「飯田通り」誕生
9	菱田春草没後百年　飯田市美術博物館で「没後百年記念特別展」開催
12	第５次飯田市基本構想後期基本計画策定
平成24.　4	飯田市立動物園リニューアルオープン（ちびっこランド） 　８月にはペンギン舎、10月にはコンドル舎がリニューアル
5	エコハウスがＪＩＡ環境建築賞住宅部門で優秀賞を受賞
7	第10回スローライフまちづくり全国都市会議（ｽﾛｰﾗｲﾌｻﾐｯﾄ）開催
8	ロンドンオリンピックに、飯田市出身の矢澤一輝選手がカヌースラローム 男子カヤックシングルで、北京大会に続き出場
11	市議会が、第７回マニフェスト大賞地方議会部門最優秀成果賞受賞 議会による行政評価及び議会報告会の実施が評価される
平成25.　3	東和町交差点を周辺の改良工事にあわせ、全国で初めて信号機付交差点か らラウンドアバウト方式に変更して整備
4	「地域環境権」をうたう飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能 な地域づくりに関する条例が施行
4	市役所新庁舎建設工事着工
8	人形劇フェスタ15周年を記念しアジア人形劇フェスティバルを開催
9	リニア中央新幹線のルート及び飯田市内への駅設置の決定が発表される
平成26.　2	観測史上最多の積雪深81ｃｍを記録　中央自動車道の通行止め、農業生産 施設の被害等市民生活に多大な影響を及ぼす
3	恒川官衙遺跡（座光寺地区）が、国史跡に指定される 飯田市立病院周産期センター、がん診療･緩和ケアセンター竣工
6	南アルプス（飯田市では上村､南信濃地区）がユネスコエコパークに登録さ れる
10	航空宇宙産業クラスター拠点工場完成 リニア中央新幹線（品川･名古屋間）の工事実施計画が認可される
12	市役所新庁舎完成
平成27.　1	市役所新庁舎開庁し業務を開始
2	長野県内初の左右対面式議席の新たな議場で初めての市議会定例会を開催）

年　月	事　　　　　　　　　項
3	菱田春草生誕140周年記念事業が行われる、菱田春草生誕地公園が仲ノ町に完成、美術博物館では菱田春草の特別展、ワークショップ、シンポジウム等を開催
4	パスポート窓口を市役所庁舎内に開設
4	リニア中央新幹線中心線測量開始
7	こども家庭応援センター「ゆいきっず」が開所
9	飯田市長、市議会議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジェール市を訪問し、ＡＶＩＡＭＡ（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を招致、平成30年に飯田市で開催されることが決定
10	マイナンバー制度が始まる
10	国道152号小道木バイパスが開通
平成28.　3	数えで７年に１度の飯田お練りまつりが開催され、３５万の人出で賑わう
4	教育長に代田昭久教育長が就任
4	高校生世代までの医療費が無料に（年度末年齢18歳以下の子ども）
5	飯田市リニア関連事業現地事務所（相談窓口）を上郷飯沼に設置
6	農地転用許可が市に権限移譲（６月１日付で指定市町村に指定）
7	「市田柿」が地理的表示（ＧＩ）保護制度に県内で初めて登録される
9	飯田産の地酒および果実飲料で乾杯する条例を市議会が提案し制定
10	飯田古墳群が国史跡指定、恒川官衙遺跡が追加指定
10	52年ぶり2期連続無投票で牧野光朗市長が当選。4期目の市政をスタート
11	市役所庁舎整備事業が全て完了（平成25年4月着工）
11	天皇皇后両陛下が私的御旅行のため飯田下伊那地域をご訪問（天龍峡、りんご並木、阿智村 満蒙開拓平和記念館）
12	「地域ぐるみ環境ＩＳＯ研究会」設立２０周年記念
平成29.　4	飯田市総合計画「いいだ未来デザイン２０２８」スタート
4	旧飯田工業高校施設を活用した「産業振興と人材育成の拠点」において、信州大学航空機システム共同研究講座が開講される
4	天龍峡温泉交流館リニューアルオープン
5	上郷北条地区のリニア駅予定地への幅杭設置が開始される
6	「信州･伊那谷(ﾛｰｶﾙ)の個性で世界(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ)を惹きつけ、世界へ発信する玄関口(ｹﾞｰﾄｳｪｲ)」を基本理念としたリニア駅周辺整備基本計画が策定される
8	市制施行80周年記念事業としてタイムカプセルを掘り起こし
9	飯田市美術博物館で菱田春草記念常設展示がスタート
10	市制施行80周年記念式典が開催される
12	南信州広域連合稲葉クリーンセンター竣工(燃やすごみの処理が桐林クリーンセンターから移行)

年　月	事　　　　　　　　　項
平成30．２	市内で最初のリニア工事（中央アルプストンネル松川工区）が着工
３	三遠南信自動車道飯喬道路の龍江～上久堅間が開通
３	飯田市立病院に放射線治療専門棟（リニアック棟）が竣工し、新たに導入したがん放射線治療装置（リニアック）が稼働
４	上村小学校が小規模特認校に認定され、区域外からの児童の通学が始まる
８	満18歳までの子どもの医療費の窓口無料化を開始
８	新人形とけい塔「ハミングパル」が完成
８	世界人形劇フェスティバル開催 （いいだ人形劇フェスタ20周年・前身の人形劇カーニバル飯田から40周年）
８	ＡＶＩＡＭＡ（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を飯田市で初開催
８	シャルルヴィル・メジェール市との友好都市提携30周年を記念して、「シャルルヴィル・メジェール通り」命名式等の記念式典を開催
10	吾妻町と東和町の２つのランドアバウトが2018年度グッドデザイン賞を受賞
11	特養飯田荘が「ゆとぴいいだ」としてリニューアルオープン
平成31．１ (2019)	南信州広域連合が座光寺の旧飯田工業高校施設を改修・整備し、公益財団法人南信州・飯田産業センターが指定管理者となった、産業振興と人材育成の拠点「エス・バード」が開所　３月にオープニングイベントを開催
２	下久堅ふれあい交流館が完成
３	上郷自治振興センター・保健センターが完成
令和元．７	美術博物館開館30周年　自然・文化展示室がリニューアル
(2019)　９	市長ほか関係者がシャルルヴィル・メジェール市を訪問し、AVIAMA総会に出席
	リニア駅周辺整備基本設計（案）が公表
	災害時の相互応援協定に基づき台風第15号の被災地である千葉県君津市に災害支援を実施
10	飯田市総合運動場がリニューアルオープン
	消費税率の引上げにともない飯田市プレミアム付き商品券の販売事業を実施
11	三遠南信自動車道天龍峡ＩＣ・千代ＩＣ・龍江ＩＣが開通
	「そらさんぽ天龍峡」「よって館天龍峡」を整備
	台風第19号の県内被災地に対して災害支援を実施
令和２．２	飯田市新型コロナウイルス感染症対策本部の設置
(2020)　３	都市計画道路羽場大瀬木線（切石～北方工区）の開通
５	地域外来・検査センター開所（新型コロナウイルス感染症の検査体制の充実）
７	梅雨前線の停滞による豪雨災害（累積で飯田地域に600㎜以上、南信濃地区に80

	0mm以上の降雨量　土砂崩れや住宅の半壊、床下浸水などの被害）
9	市内全小中学生（約8,000名）に学習者用パソコン貸与
10	市長選に佐藤健氏当選　第10代目市長に
	リニア事業関連による丹保・北条地区代替地の分譲開始
令和３．１	ＥＶ（電気）バス運行実証開始
3	2050年いいだゼロカーボンシティ宣言
	座光寺スマートインターチェンジの供用開始
9	リニア中央新幹線　中央アルプストンネル松川工区で作業用トンネル掘削開始
10	菱田春草没後110年特別展開催
令和４．４	教育長に熊谷邦千加教育長が就任
	恒川史跡公園「清水エリア」供用開始
	橋南公民館がりんご庁舎に移転
5	丘の上結いスクエア内にムトスぷらざがオープン
6	新文化会館整備検討委員会発足
8	リニア中央新幹線 中央アルプストンネル松川工区本線トンネル掘削工事開始
10	マイナンバーカードによるコンビニ交付を開始
11	脱炭素先行地域に選定
12	リニア中央新幹線「長野県駅（仮称）」起工式が行われる
令和５．２	信州ガス㈱と「飯田市地域見守り活動に関する協定」を締結
3	中部電力㈱と「脱炭素先行地域の構築に係る基本協定」を締結
4	信州大学ランドスケープ・プランニング共同研究講座を開講
5	飯田市立動物園70周年記念式典を行う
5	三遠南信自動車道青崩峠トンネル（仮称）貫通
8	JR飯田駅開業100周年記念式典を行う
8	リニア中央新幹線 風越山トンネル黒田工区非常口トンネル掘削工事開始
9	りんご並木70周年記念式典を行う
11	南信州ナンバープレートの図柄を住民投票で決定
令和６．２	飯田市 WEB 口座振替受付サービスを開始

飯田市歌

堀内　敬三　作曲
宮脇　　至　作詞
西條　八十　補

一、山はアルプス赤石の
峯にかがやくしらゆきを
高き心のすがたとあおぎ
かける理想よ我らが飯田

二、谷は伊那谷天竜の
あぐるしぶきにたつ虹を
清き命の泉となして
希望もえたつ我らが飯田

三、南信濃に伝統の
文化花咲く美(うま)し町
協(あわ)す力にいぶきも新た
のびよ久遠(くおん)に我らが飯田

飯田市歌

犬塚　利国　作詞
飯田　景応　編曲

一、山紫(やまむらさき)に　水明らかに
生業(なりわい)栄え　人皆和して
希望の光　遍(あまね)く充てり
げに飯田市の　輝く天地

二、南信濃の　陽は照り映(は)えて
四季行楽に　名を負うところ
観光都市の　誉れも添ひて
げに飯田市の　輝く前途

三、落葉に残す　千古の偉業
烈婦(れっぷ)偲ぶ　不断の煙り
大儒(たいじゅ)の松風　今なお高し
げに飯田市の　輝く誇り

四、ああ天恵(てんけい)に　幸負う我等
協同進取の　旗なびかせて
目指すは彼方　久遠(くおん)の理想
げに飯田市の　輝く使命

飯田市議会要覧　令和６年度版

発　行　日　　令和６年６月発行

編集・発行　　飯田市議会事務局

〒395-8501　長野県飯田市大久保町2534番地
TEL　0265-22-4523（直通）
　　　0265-22-4511（代表　内線5611）
FAX　0265-53-8821
E-mail　igikai@city.iida.nagano.jp
URL　https://www.city.iida.lg.jp/